経済学研究科
シ ラ バ ス

2019 年度版

大 阪 市 立 大 学 大 学 院

経　　済　　学　　研　　究　　科

『シラバス』の利用にあたって

2019 年度

大阪市立大学大学院
経済学研究科 現代経済専攻

この冊子は、講義の内容やテキストなどを紹介しています。履修科目の決定や日頃の勉学に役立ててください。

1. 修了のための履修要件等は『経済学研究科要覧』を参照してください。
2. 講義、演習の配当年、セメスター等は、時間割で確認してください。

目　　次

『シラバス』の利用にあたって…… 1
学年暦・カレンダー…… 2
経済学研究科専門科目　科目ナンバーについて…… 4
大学院経済学研究科前期博士課程開講予定表
　基礎科目…… 5
　分野科目…… 6
大学院経済学研究科後期博士課程開講予定表
　分野科目…… 7
前期博士課程シラバス…… 8
　基礎科目　前期開講…… 8
　後期開講…… 16
　分野科目　前期開講…… 23
　後期開講…… 53
　研究指導…… 81

前期研究指導１・２及び修了論文指導担当教員一覧…… 85
後期博士課程シラバス…… 86
　分野科目　前期開講…… 86
　後期開講…… 116
　研究指導…… 144
後期研究指導１・２・３担当教員一覧…… 147
注意事項…… 148
杉本キャンパスマップ…… 149
教員名簿…… 151

2019年度学年暦

学年開始	4月 1日（月）
新入生ガイダンス	4月 1日（月）
入学式	4月 5日（金）
新入生健康診断	4月 8日（月）
前期授業開始日	4月10日（水）
振替授業日	5月 8日（水）月曜日の授業を実施
創立記念日	6月 1日（土）
振替授業日	7月18日（木）月曜日の授業を実施
授業・試験期間	7月29日（月）～8月 9日（金）
夏季休業	8月10日（土）～9月15日（日）
研修期間	9月16日（月）～9月30日（月）
後期授業開始日	10月 1日（火）
振替授業日	10月16日（水）月曜日の授業を実施
冬季休業	12月24日（火）～1月 5日（日）
振替授業日	1月16日（木）金曜日の授業を実施
授業・試験期間	1月28日（火）～2月10日（月）
研修期間	2月11日（火）～3月19日（木）
春季休業	3月20日（金）～

※ 振替授業日	―	各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。
※ 研修期間	―	集中講義や補講などが行われることがある。
※ 授業・試験期間	―	定期試験や授業を行う。
※ 卒業式	―	日程確定後、ホームページ（ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修関係＞行事予定・授業時間）に掲載します。

振替授業日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。

☆ 参 考

・新入生歓迎祭（ふたば祭）開催に伴う休講

4月18日（木）5時限、19日（金）3～5時限

［歓迎祭開催日程：4月18日（木）5限～、19日（金）午後～、20日（土）終日］

・大学祭（銀杏祭）開催に伴う休講

10月31日（木）5時限、11月1日（金）全時限

［大学祭開催日程：10月31日（木）～11月4日（月）］

・センター入試準備に伴う休講

2020年1月17日（金）全時限

［センター試験：1月18日（土）・19日（日）］

2019年度カレンダー

	日	月	火	水	木	金	土
4月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

1日（月）新入生ガイダンス
5日（金）入学式
8日（月）健康診断
10日（水）前期授業開始

18日（木）新歓祭5限休講
19日（金）新歓祭午後休講

	日	月	火	水	木	金	土
5月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

8日（水）振替授業日
（月曜の授業を実施）

	日	月	火	水	木	金	土
6月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

	日	月	火	水	木	金	土
7月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

18日（木）振替授業日
（月曜の授業を実施）

29日（月）～8月9日（金）
授業・試験期間

	日	月	火	水	木	金	土
8月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

10日（土）～9月15日（日）
夏季休業期間

10日（土）～11日（日）
オープンキャンパス（予定）

	日	月	火	水	木	金	土
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

16日（月）～30日（月）
研修期間

	日	月	火	水	木	金	土
10月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

1日（火）後期授業開始

16日（水）振替授業日
（月曜の授業を実施）

31日（木）大学祭5限休講

	日	月	火	水	木	金	土
11月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

1日（金）大学祭休講

	日	月	火	水	木	金	土
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

24日（火）～1月5日（日）
冬季休業期間

	日	月	火	水	木	金	土
1月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

16日（木）振替授業日
（金曜の授業を実施）

17日（金）センター試験に
伴う休講措置

28日（火）～2月10日（月）
授業・試験期間

	日	月	火	水	木	金	土
2月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

11日（火）～3月19日（木）
研修期間

	日	月	火	水	木	金	土
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

20日（金）～春季休業期間

経済学研究科専門科目　科目ナンバーについて

経済学研究科専門科目の科目ごとに附される、科目ナンバーは以下のとおり、分類されています。

上１、２桁	対象課程	EM　：前期博士課程 ED　：後期博士課程
上３、４桁	科目の分野	BA　：基礎科目群 TH　：分野別科目群(理論経済分野) HI　：分野別科目群(経済史・経済思想分野) AP　：分野別科目群(応用経済分野) GR　：分野別科目群(グローバル経済分野) RG　：研究指導
上５桁	講義で使用される主要な言語	J　：日本語 E　：英語
上６桁	推奨される履修開始の セメスターの位置	表１を参照
上７桁	難易度	5＝前期博士課程１年レベル 6＝前期博士課程２年レベル 7＝後期博士課程１年レベル 8＝後期博士課程２年レベル 9＝後期博士課程３年レベル
上８、９桁	科目識別ナンバー	

表１

学年	１回生		２回生		３回生	
開講期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
上６桁目	1	2	3	4	5	6

2019年度　大学院経済学研究科前期博士課程開講予定表

前期(4月1日～9月30日)

基礎科目(現代経済基礎研究) Ⅰ～Ⅸ

科　目　名	担　当	ページ
現代経済基礎研究Ⅰ-(2):Issues in Economics A	岩波　他	8
現代経済基礎研究Ⅲ:応用経済分析 【政策分析】	岡澤	9
現代経済基礎研究Ⅵ-(1):マクロ分析1	森	10
現代経済基礎研究Ⅶ-(1):ミクロ分析1	北原	11
現代経済基礎研究Ⅷ-(1):マルクス経済学1	齋藤	12
現代経済基礎研究Ⅷ-(2):政治経済分析2 【マルクス経済学2】	若森	13
現代経済基礎研究Ⅸ-(1):計量分析1	(鹿野)	14

【　】内の科目名は2018年度以前入学生用

前期集中(日程は掲示により周知)

基礎科目(現代経済基礎研究) Ⅰ～Ⅸ

科　目　名	担　当	ページ
現代経済基礎研究Ⅰ-(4):Issues in Economics B	(長谷川)	15

後期(10月1日～3月31日)

基礎科目(現代経済基礎研究) Ⅰ～Ⅸ

科　目　名	担　当	ページ
現代経済基礎研究Ⅰ-(1):現代経済	滋野	16
現代経済基礎研究Ⅱ:歴史分析	彭	17
現代経済基礎研究Ⅳ:構造分析	(松澤)	18
現代経済基礎研究Ⅴ:国際分析	朴	19
現代経済基礎研究Ⅵ-(2):マクロ分析2	中村(英)	20
現代経済基礎研究Ⅶ-(2):ミクロ分析2	岩波	21
現代経済基礎研究Ⅸ-(2):計量分析2	(鹿野)	22

2019年度　大学院経済学研究科前期博士課程開講予定表

前期(4月1日～9月30日)
分野科目　(前期開講)

理論経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
ミクロ経済学研究・同演習	北　原	23・24
複雑系経済学研究・同演習	中　島	25・26
マクロ経済動学研究・同演習	森	27・28
数量経済分析論研究・同演習	中村(英)	29・30
経済史・経済思想分野		
科　目　名	担　当	ページ
経済学説史研究・同演習	若　森	31・32
社会思想史研究・同演習	中村(健)	33・34
応用経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
労働経済論研究・同演習	福　原	35・36
財政政策論研究・同演習	松　本	37・38
金融経済論研究・同演習	辻	39・40
産業経済論研究・同演習	浦　西	41・42
日本経済論研究・同演習	滋　野	43・44
グローバル経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
比較労使関係論研究・同演習	ウェザーズ	45・46
東アジア経済論研究・同演習	朴	47・48
東南アジア経済論研究・同演習	金　子	49・50
国際経済論研究・同演習	久　保	51・52

後期(10月1日～3月31日)
分野科目　(後期開講)

理論経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
近代経済理論研究・同演習	中　嶋	53・54
現代資本主義論研究・同演習	齋　藤	55・56
マクロ経済学研究・同演習	岡　澤	57・58
統計理論研究・同演習	中　川	59・60
経済史・経済思想分野		
科　目　名	担　当	ページ
社会政策論研究・同演習	杉　田	61・62
産業技術論研究・同演習	坂　上	63・64
日本経済史研究・同演習	彭	65・66
西洋経済史研究・同演習	塩　谷	67・68
応用経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
流通経済論研究・同演習	柴　田	69・70
地方財政論研究・同演習	小　川	71・72
空間経済学研究・同演習	高　塚	73・74
グローバル経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
中国経済論研究・同演習	森　脇	75・76
国際協力論研究・同演習	岩　波	77・78
世界経済論研究・同演習	有　賀	79・80

2019年度　大学院経済学研究科後期博士課程開講予定表

前期（4月1日～9月30日）
分野科目　（前期開講）

理論経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
ミクロ経済学研究特論・同演習	北　原	86・87
複雑系経済学研究特論・同演習	中　島	88・89
マクロ経済動学研究特論・同演習	森	90・91
数量経済分析論研究特論・同演習	中村（英）	92・93
経済史・経済思想分野		
科　目　名	担　当	ページ
経済学説史研究特論・同演習	若　森	94・95
社会思想史研究特論・同演習	中村（健）	96・97
応用経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
労働経済論研究特論・同演習	福　原	98・99
財政政策論研究特論・同演習	松　本	100・101
金融経済論研究特論・同演習	辻	102・103
産業経済論研究特論・同演習	浦　西	104・105
日本経済論研究特論・同演習	滋　野	106・107
グローバル経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
比較労使関係論研究特論・同演習	ウェザーズ	108・109
東アジア経済論研究特論・同演習	朴	110・111
東南アジア経済論研究特論・同演習	金　子	112・113
国際経済論研究特論・同演習	久　保	114・115

後期（10月1日～3月31日）
分野科目　（後期開講）

理論経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
近代経済理論研究特論・同演習	中　嶋	116・117
現代資本主義論研究特論・同演習	齋　藤	118・119
マクロ経済学研究特論・同演習	岡　澤	120・121
統計理論研究特論・同演習	中　川	122・123
経済史・経済思想分野		
科　目　名	担　当	ページ
社会政策論研究特論・同演習	杉　田	124・125
産業技術論研究特論・同演習	坂　上	126・127
日本経済史研究特論・同演習	彭	128・129
西洋経済史研究特論・同演習	塩　谷	130・131
応用経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
流通経済論研究特論・同演習	柴　田	132・133
地方財政論研究特論・同演習	小　川	134・135
空間経済学研究特論・同演習	高　塚	136・137
グローバル経済分野		
科　目　名	担　当	ページ
中国経済論研究特論・同演習	森　脇	138・139
国際協力論研究特論・同演習	岩　波	140・141
世界経済論研究特論・同演習	有　賀	142・143

前期博士課程

基礎科目

分野科目

研究指導

授業コード	EM30140010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅰ-(2):Issues in Economics A		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary Economy Ⅰ-(2):Issues in Economics A		
科目ナンバー	EMBAE1502		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里、中村　英樹、中村　健吾		
科目の主題	In this course, three lecturers will each give lectures on different aspects of contemporary economy under the pressure of globalization.		
授業の到達目標	All the lectures will be given in English for the students to get accustomed to English hearing and thinking.		
授業内容・授業計画	Three lecturers will each give lectures on the following topics. Theme 1) What Does Mechanization Give Us? (by Professor Hideki Nakamura) Theme 2) Analyzing the Nature and Causes of Globalization (by Professor Kengo Nakamura) Theme 3) Development Economics (by Professor Iwanami)		
授業内容・授業計画②	The class schedule is subject to change. 1. Introduction by Professor Hideki Nakamura 2. Theme 1)-1: Mechanization in an Economy by Professor Hideki Nakamura 3. Theme 1)-2: Mechanization, Wages, and Economic Growth by Professor Hideki Nakamura 4. Theme 1)-3: Mechanization and Skilled and Unskilled Labor by Professor Hideki Nakamura 5. Theme 1)-4: Mechanization and Employment by Professor Hideki Nakamura 6. Theme 2)-1: Globalization of Economy by Professor Kengo Nakamura 7. Theme 2)-2: Historical Origins of Economic Globalization by Professor Kengo Nakamura 8. Theme 2)-3: Globalization of Politics by Professor Kengo Nakamura 9. Theme 2)-4: Globalization of Communication, Society and Culture by Professor Kengo Nakamura 10. Theme 3)-1: Definition of Poverty by Professor Iwanami 11. Theme 3)-2: Poverty and Development by Professor Iwanami 12. Theme 3)-3: Foreign Aid and Development by Professor Iwanami 13. Theme 3)-4: In-Class Exam 14. Summary by Professor Iwanami Submission Deadline of the Term Reports		
事前・事後学習の内容	The students will be requested to read some English texts or materials after each lecture.		
評価方法	Two lecturers will each ask students to write a research paper about a subject that students select from a list of approved topics. The remaining lecturer will ask students to take one in-class exam. Students are requested to submit two term papers by the deadline indicated by each lecturer. Two term papers each is worth 35% and the class exam is worth 30% of the course grade.		
受講生へのコメント	The lectures will ask students to think carefully about the causes of globalzation and encourage them to find a way to adjust themseves to a globalizing world.		
教材	There is no textbook on the lectures. Instead, each lecturer will give you some texts or materials on the lectures.		

授業コード	EM30030010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅲ：応用経済分析		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅢ:Applied Economics		
科目ナンバー	EMBAJ1505		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	データ分析・計量経済学の基本的な考え方について、初学者に向けて講義します。		
授業の到達目標	データを正しく読み解くために重要な考え方や技術を理解する。		
授業内容・授業計画	以下の講義計画は状況を見て変更する可能性があります。 第１回 ガイダンス・因果効果とは何か? 第２回 ランダム化対照実験 第３回 実験・自然実験の例 第４回 回帰分析① 第５回 回帰分析の例 第６回 回帰分析② 第７回 回帰分析③ 第８回 操作変数法 第９回 操作変数法の例 第10回 回帰不連続デザイン 第11回 回帰不連続デザインの例 第12回 パネルデータ 第13回 差の差の分析 第14回 パネルデータ分析の例		
事前・事後学習の内容	講義の内容を復習するために練習問題を数回出題する予定です。		
評価方法	評価方法中間レポートと期末試験の成績に基づいて評価する予定です。		
受講生へのコメント	講義資料や連絡事項を担当教員のHP（https://sites.google.com/site/ryosukeokazawa/lecture）にアップするので、各自定期的に確認するようにしてください。		
教材	教科書 Joshua D. Angrist and Jorn-steffen Pischke (2014) Mastering 'Metrics: The Path from Cause to Effect, Princeton University Press. 参考文献 1. 中室牧子・津川友介（2017）『原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法 』ダイヤモンド社 2. 伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法（光文社新書)』光文社 3. 山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学』中央経済社		

授業コード	EM30060010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅵ-(1)：マクロ分析1		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅥ-(1):Macroeconomics1		
科目ナンバー	EMBAJ1508		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森　誠		
科目の主題	マクロ経済学の動学的手法を講義する。		
授業の到達目標	マクロ経済学のミクロ的基礎として用いられる手法を理解することを目標とする。		
授業内容・授業計画	講義計画の順に動学的手法、最適化の手法を紹介する。 なお、経済学で用いる技術としての数学の習得なので、純粋数学というよりも経済学での例を中心とする。 第１回_ガイダンス 第２回_一階定差方程式 第３回_二階定差方程式 第４回_一階微分方程式 第５回_二階微分方程式 第６回_位相図（微分方程式） 第７回_位相図（定差方程式） 第８回_ラグランジュ乗数 第９回_クーン＝タッカー条件 第10回_最大値原理（連続型） 第11回_最大値原理（離散型） 第12回_ラムゼーモデル1-連続モデル- 第13回_ラムゼーモデル2-離散モデル- 第14回_世代重複モデル		
事前・事後学習の内容	講義前には必要な数学の基礎部分を復習しておく。講義後には出題された練習問題を解き、理解が不十分な点を文献等で復習しておく。また、次回の講義で質問する。		
評価方法	平常点およびテストで評価する。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	特になし。		

授業コード	EM30080010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅶ-(1)：ミクロ分析1		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅦ-(1):Microeconomic Theory1		
科目ナンバー	EMBAJ1510		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	大学院入門レベルのミクロ経済学について学びます。本講義1では、特に、価格を所与とした消費者や生産者の選択行動について学びます。（ゲーム理論については、後期開講の2で学んでください。）		
授業の到達目標	大学院レベルのミクロ経済学の基礎を習得する。特に、選択に関する情報から最適性の仮定により論理的（・数理的）に推測・予測を導き出す基礎技能を身に付ける。		
授業内容・授業計画	以下の流れで、講義形式で行います。テキストの該当章はそれぞれ第1章（選択と選好）、2・3章（消費者選択と選好）、5章（生産者選択と技術）、16章（市場均衡の性質）、数学付録（最適選択の数理）です。 第1回 ガイダンス 第2回 選択と選好①：顕示選好の弱公準 第3回 選択と選好②：選択の合理性 第4回 消費者選択と選好①：顕示選好の弱公準による行動予測 第5回 消費者選択と選好②：需要行動からの選好の推測 第6回 消費者選択と選好③：間接選好からの需要行動の予測 第7回 消費者選択と選好④：交換に関する効率性についての共通価格の含意 第8回 生産者選択と技術①：利潤最大化（供給行動からの利潤の推測） 第9回 生産者選択と技術②：費用最小化（費用関数からの供給行動の推測） 第10回 生産者選択と技術③：分担に関する効率性についての共通価格の含意 第11回 市場均衡の性質：効率性についての市場均衡の含意 第12回 最適選択の数理①：比較静学（包絡線定理） 第13回 最適選択の数理②：制約付き最適化における一階条件（ラグランジュ乗数） 第14回 予備日		
事前・事後学習の内容	復習用に何回か宿題を出します。		
評価方法	期末試験によって評価します。		
受講生へのコメント	講義HP（4月開設予定）：http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/kitahara/micro/2019micro.htm （ただし、部局サーバの移行によりアドレスが変更になる可能性あり。）		
教材	テキスト：Mas-Collel, A., Whinston, M. D. and Green, J. R. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press（購入不要） 参考書：神取道弘（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社（（本講義を受けずとも）おすすめ）		

授業コード	EM30100010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅷ-(1)：マルクス経済学1		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅧ-(1):Marxian Political Economy1		
科目ナンバー	EMBAJ1512		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	本講義では、マルクスの経済学批判についての正確な基本知識を、テクストの輪読を通じて獲得することを目標とする。その上で、マルクスの経済学批判の今日的な意義について、解説やディスカッションを手掛かりに一緒に考えてみたい。		
授業の到達目標	マルクスの著作を講読し、テクストの解説ならび議論によって、その理論的な核心部分を正確に理解することを目標とする。受講生による毎回の予習とその予習範囲の報告（レジュメの作成）をもとにしたディスカッションを通じて、自分の言葉でマルクスの基本概念を説明できるようになることを目指す。		
授業内容・授業計画	授業では各回ごとに担当を決め、担当者は該当部分のまとめを作成し、最初に発表することで議論の土台を準備する。こちらで若干の補足や解説を行った後に、全体での議論を通じて、テクストを様々な角度から批判的に吟味していく。 第１回_イントロダクション 第２回_マルクスの経済学批判とは？ 第３回_『経済学批判要綱』① 第４回_『経済学批判要綱』② 第５回_『経済学批判要綱』③ 第６回_『経済学批判要綱』④ 第７回_『経済学批判』① 第８回_『経済学批判』② 第９回_『経済学批判』③ 第10回_『資本論』① 第11回_『資本論』② 第12回_『資本論』③ 第13回_『直接的生産の諸結果』① 第14回_『直接的生産の諸結果』②		
事前・事後学習の内容	授業前に、指定された部分を通読し、重要な点、わからない点、批判すべき点などについて簡単なメモを作成し、授業でのディスカッションに向けた準備をしておくこと。 授業後に再読し、理解が深まったことを確認できれば望ましい。		
評価方法	「まとめ」の発表を４０%、ディスカッションへの参加を４０%、学期末のレポートを２０%で評価する。		
受講生へのコメント	マルクスの思想は難解である。また時代遅れとされることもある。それでも今日まで長年にわたって多くの人々に読み継がれてきた古典の偉大さを体感しながら、資本主義社会についての理解を共に深めていけることを願っている。		
教材	参考書としては、佐々木隆治『カール・マルクス』（ちくま新書）やミヒャエル・ハインリッヒ『新しい資本論の読み方』を薦める。		

授業コード	EM30110010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅷ-(2)：政治経済分析2		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅧ-(2):Political Economy2		
科目ナンバー	EMBAJ1513		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	本講義では、現代の日本における貧困問題や新たなアンダークラスの出現についての文献を取り上げ、これらの問題についての認識を共有する。そのうえで、なぜ開発途上国だけでなく、成熟した先進国においてもなお貧困がなくならないのかについて、受講者が積極的に考えて発表する機会を設定し、資本主義（市場社会）の制度的・思想的問題についての理解を深めることを目指す。		
授業の到達目標	テクストの解説ならび議論によって、その核心部分を正確に理解することを目標とする。受講生による毎回の予習とその予習範囲の報告をもとにしたディスカッションを通じて、自分の言葉で資本主義（市場経済）や現代の日本における貧困問題や新たなアンダークラスに関する基本概念を説明できるようになることを目指す。		
授業内容・授業計画	授業は、第３回まで以外については、各回ごとに次のような流れで行う。①各回ごとの担当を決めて、担当者が該当部分のまとめを作成してそれを授業の最初に発表することで議論の土台を準備する。②教員が若干の補足や解説を行う。③その後、全体でディスカッションを通じて、内容の理解を深める。第１～３回までのあいだに、第４回から第１１回以までの担当者を確定します。第１２回から第１４回では、さらに、日本の貧困問題についての理解を深めるために、受講者でのグループワークを取り入れます。 第１回_オリエンテーション 第２回_シンプル族の価値観とライフスタイル 第３回_シンプル族の「衣」「食」「住」「遊び」、シンプル族が動かす資本主義（市場経済）の姿は？ 第４回_新しい階級社会の登場（「貧困」の境界、居住地と経済格差、所属と格差、正規と非正規の壁） 第５回_アンダークラスとは何か 第６回_現代日本のアンダークラス：データーからみえる特徴 第７回_若年・中年アンダークラス男性の現実 第８回_アンダークラス女性の現実 第９回_増えていく「下流老人」 第10回_失業者・無業者の現実 第11回_アンダークラスの階級意識と政治意識のねじれた関係 第12回_間違いだらけの「日本の貧困」、なぜ貧困を放置してはいけないのか？誰が貧困を作っているのか？ 第13回_メディアと貧困、精神疾患が生み出す貧困、地方の貧困、ソフトヤンキー、年越し派遣村 第14回_財源をどこに求めるか、支援者の問題、貧困対策（処方箋）を徹底的に考えてみる。		
事前・事後学習の内容	授業前に、指定された部分を通読し、重要な点、わからない点、批判すべき点などについて簡単なメモを作成し、授業でのディスカッションに向けた準備をしておくこと。授業後に再読し、理解が深まったことを確認できれば望ましい。		
評価方法	「まとめ」の発表を４０%、ディスカッションへの参加を４０%、学期末のレポートを２０%で評価する。		
受講生へのコメント	資本主義（市場経済）についてのさまざまな文献を手にとって読んでみよう。学術情報総合センターに通う習慣を身につけ、テキストだけでなく、関連する書籍にも目配りしよう。生協の書籍部のコーナー（経済学だけでない領域にも）や、大きな書店に週に一度程度は通って刺激を受けるのもよい。学術情報総合センターに入っていない新刊書であなたの関心のある書籍を見つけたら、学術情報センターの先生（２階）に相談するのもよい。		
教材	テキストとして、次の２冊を指定する。各自、生協テキスト販売部などを通じて入手すること。担当者の範囲を決めるために、可能なかぎり、オリエンテーションのときにもってくるのが望ましい。①橋本健二『アンダークラス―新たな下層階級の出現』ちくま新書、２０１８年（定価８２０円）、②阿部彩・鈴木大介『貧困を救えない国　日本』ＰＨＰ新書、２０１８年（定価９２０円）。なお、参考書として、三浦展『シンプル族の反乱―モノを買わない消費者の登場』２００９年、ＫＫベストセラーズ（定価７４３円）、三浦展『中高年シングルが日本を動かす―人口減少社会の消費と行動』朝日新書（定価７６０円）、橋本健二『新・日本の階級社会』講談社現代新書、２０１８年（定価９００円）をあげておく。		

授業コード	EM30120010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅸ-(1)：計量分析1		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅨ-(1):Econometrics1		
科目ナンバー	EMBAJ1514		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	鹿野　繁樹		
科目の主題	計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。		
授業の到達目標	この講義の目標は、統計学と計量経済学の基礎をマスターすることである。		
授業内容・授業計画	まず確率・統計を復習し、最小2乗法（OLS）による回帰直線を学ぶ。 次いで、古典的仮定のもとでの単回帰モデル・重回帰モデルの推定と検定を習得する。 最後に、回帰モデルの関数型の拡張を考える。 第１回_イントロダクション 第２回_確率論（1）：確率変数と確率分布 第３回_確率論（2）：正規分布・多次元分布 第４回_統計的推測（1）：基礎編 第５回_統計的推測（2）：推定と仮説件手 第６回_回帰直線と最小2 乗法（OLS） 第７回_決定係数 第８回_古典的回帰モデルとOLS 推定 第９回_回帰係数の仮説検定 第10回_統計ソフトgretl による回帰分析 第11回_重回帰分析（1）：重回帰OLS 第12回_重回帰分析（2）：コントロール変数 第13回_回帰モデルの拡張（1）：モデルの関数型 第14回_回帰モデルの拡張（2）：ダミー変数 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。 テキスト章末の復習問題を解くこと。		
評価方法	毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。		
受講生へのコメント	計量分析２とセットの科目です。引き続き後期に計量分析２を受講して下さい。		
教材	鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。		

授業コード	EM30160010	開講年度・学期	2019年度前期 集中
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅰ-(4):Issues in Economics B		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary Economy Ⅰ-(4):Issues in Economics B		
科目ナンバー	EMBAE1516		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	長谷川　淳一		
科目の主題	第二次世界大戦期以降の日本とイギリスの戦災復興および高度経済成長期の日本の都市問題・都市政策について検討する。		
授業の到達目標	現代の都市問題・都市政策の展開を英語で理解する。		
授業内容・授業計画	第１回_イントロダクション 第２回_都市計画史の概観 第３回_日本の戦災復興の事例(1) 第４回_日本の戦災復興の事例(2) 第５回_日本の戦災復興の事例(3) 第６回_日本の戦災復興の事例(4) 第７回_日本の戦災復興の事例(5) 第８回_第二次世界大戦期のイギリス 第９回_イギリスの戦災復興の事例(1) 第10回_イギリスの戦災復興の事例(2) 第11回_イギリスの戦災復興の事例(3) 第12回_イギリスの戦災復興の事例(4) 第13回_1968年都市計画法の制定 第14回_選挙での都市政策 試験		
事前・事後学習の内容	テキストとして提示するリストの学術雑誌論文をしっかり読まれたい。		
評価方法	授業での取り組み等: 50% 試験: 50%		
受講生へのコメント	授業では積極的な姿勢を示されたい。授業計画等シラバスの内容は変更する場合がある。		
教材	テキスト：学術雑誌論文のリストをおって提示する。		

授業コード	EM30010010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅰ-(1)：現代経済		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary Economy Ⅰ-(1):Contemporary Economy		
科目ナンバー	EMBAJ1501		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	わが国の人口は減少に転じ、少子・高齢化はいよいよ社会の大問題になっている。少子化への対応は、わが国のみならず先進諸国共通の課題である。本講義では、少子・高齢化に関する様々な問題について、経済的側面から多角的に議論を行う。特に、少子・高齢化を踏まえた経済政策のあり方について検討を行う。		
授業の到達目標	日本経済の少子・高齢化に関連する論点を理解し、今後の経済政策のあり方について考える力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_少子・高齢化-現状 第３回_少子・高齢化-要因 第４回_少子・高齢化-国際比較 第５回_市場メカニズムと政府の介入 第６回_経済政策の役割 第７回_公共財 第８回_少子化対策 第９回_少子・高齢化と雇用政策 第10回_少子・高齢化と所得格差 第11回_少子・高齢化と年金 第12回_少子・高齢化と医療 第13回_少子・高齢化と介護等 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	関連文献を読み、授業で扱うテーマの理解を深めること		
評価方法	レポート（30%）、期末試験（70%）によって評価する。		
受講生へのコメント	講義は学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学を修得していることを前提に進めます。		
教材	テキストは、特になし。		

授業コード	EM30020010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅱ：歴史分析		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅡ:Historical Analysis		
科目ナンバー	EMBAJ1504		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	本講義の目的は、経済史の研究がどのように行われているかを受講生に理解してもらうことである。貿易・都市・産業などのいくつかのテーマを取り上げ、関連する史料を解説する。テーマと史料の選択範囲は、日本・中国の近世・近代期（主に17世紀～19世紀）である。経済史関係の史料の解読と分析の練習を実施する。		
授業の到達目標	経済史研究の方法を理解すること、経済史関係の史料（本講義が扱うテーマの範囲内）が読めることを目標とする。とくに、修士論文を作成するための資料分析力の訓練も意識している。		
授業内容・授業計画	主に5つのテーマについて講義を進めていく。①通商制度の仕組み（とくに通商条約が成立する前の時代）、②港市の運営と商業空間、③商人団体の形成、④商業都市と市場圏、⑤産業振興と国産化。具体的な課題については、次の授業計画を参照。 第１回_イントロダクション 第２回_通商制度の分析（１）長崎会所の経営構造 第３回_通商制度の分析（２）「信牌」制のメカニズム 第４回_通商制度の分析（３）トレーディング・パス 第５回_通商制度の分析（４）取引契約 第６回_港市の運営（１）仲介業者 第７回_港市の運営（２）労働者とその編成 第８回_港市の商業空間-長崎・広州・釜山の比較- 第９回_商人団体の形成（１）糸割符仲間と五ヶ所商人 第10回_商人団体の形成（２）唐船貿易と「両局」 第11回_商業都市と市場圏（１）江戸時代の大坂 第12回_商業都市と市場圏（２）明清時代の蘇州 第13回_産業振興と国産化（１）生糸と織物産業 第14回_産業振興と国産化（２）磁器・砂糖・薬種 ＊授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
事前・事後学習の内容	授業前、次回講義のテーマに関する基礎知識を自ら調べて予習を行う。授業後、史料分析を中心とした小レポートを作成する。		
評価方法	授業中の練習問題（50%）と小レポート（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。		
教材	テキスト：とくに指定しない。 参考書：彭浩『近世日清通商関係史』（東京大学出版会、2015年）。ほかにも多数あり、授業中に指示する。		

授業コード	EM30040010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅳ：構造分析		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅣ:Structural Analysis		
科目ナンバー	EMBAJ1506		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	松澤　俊雄		
科目の主題	経済循環における産業構造と産業連関（および産業連関表）についての理解を図るとともに、運輸産業を例にして企業行動と利用者行動による「供給」・「需要」が資源配分（社会厚生）上や、地域社会の活性化等にどのように関わるかをみてゆきたい。地域・都市交通の性質を理解し、整備・運営上の方策や方向性についても探求してゆきたい。		
授業の到達目標	産業連関表の基礎的知識について学ぶ。都市交通の「性質」についての学習を踏まえ、運輸産業の構造を反映して整備・運営上の在り方（政策）についての思考力を養う。また、政策について経済学的（価値論的）および都市構造論的ソューションの両面から考えられるようにしたい。		
授業内容・授業計画	経済循環において各産業の生み出す生産物が他の産業に中間生産物として、また家計・政府などに最終需要としてどのように取引されるかを考える。つぎに運輸・交通産業を例としてその供給・需要構造をマクロ的に把握するとともに、企業・家計による需要について社会・経済的な要因分析を行う。また利用者獲得を巡る企業間・産業間競争について分析もおこなう。後半では地域・都市交通サービスを産業としてみるとともに、利用者からみた広い意味での公共財として、その整備・運営についての方向性を考えたい。 第１回_経済主体と経済循環 第２回_産業構造と産業連関表[I] 第３回_産業構造と産業連関表[II]（産業連関分析） 第４回_運輸産業の需要構造[I] 第５回_運輸産業の需要構造[II] 第６回_運輸事業者間・運輸産業間の競争[I]（利用者費用とサービス生産費用） 第７回_運輸事業者間・運輸産業間の競争[II] 第８回_交通政策と便益の測定(Marshall Measure,CV,EV,C-B分析) 第９回_運輸事業における価格形成（MC,Ramsey,Peak-Load等）と評価 第10回_都市交通の性質と分析[I] 第11回_都市交通の性質と分析[II](自動車交通を含む) 第12回_都市の活性化と交通整備 第13回_都市交通の運賃設定 第14回_域内バス産業の規制改革 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義資料に事前に目を通すようにして下さい。またできれば復習もおこなって下さい。		
評価方法	レポート課題の提出（70%）；期末試験（30%）で評価する予定。		
受講生へのコメント	日頃から運輸・交通問題に関心をもってマスメディア等に接して下さい。		
教材	テキスト：使用予定：別途指示する。講義資料を必要に応じて配布する（紙媒体・ネット上掲示） 参考書：国土交通省監修『交通経済統計要覧』（最新年版）(財)運輸政策研究機構発行；『国土交通白書』；ホームページでも、政策・統計等をダウンロード出来ます。 http://www.mlit.go.jp/ 国土交通白書など、国のHPからダウンロード可能な統計データ。		

授業コード	EM30050010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅴ：国際分析		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅤ:International Economy		
科目ナンバー	EMBAJ1507		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	開発経済の基本理論を用いて、植民地化、国民経済の形成過程、開発独裁（権威主義体制下での経済開発）、経済民主化、多国籍企業の台頭、多国間の経済協力などトピックスを中心に、韓国や北朝鮮を事例に経済・社会構造の変化について報告する。		
授業の到達目標	東アジア経済の分析理論に関する基本的枠組みを習得し、開発途上国が直面する諸問題について分析し、考える力（問題解決の方法）を身につける。		
授業内容・授業計画	本講義では、以下のようなトピックスに関する先行研究を材料に講義を行い、テーマの課題を中心に受講生と議論を行う。 第1回　イントロダクション:講義の進め方 第2回　植民地近代化論:朝鮮・台湾における植民地開発の光と影 第3回　従属論:低開発の発展: 第4回　世界システムと不等価交換：中枢と周辺 第5回　後発性利益と後発性不利益:第四世代工業化をどう理解すべきか 第6回　新国際分業：新興工業国の挑戦 第7回　企業内国際分業：国際化する多国籍企業の製造拠点 第8回　計画経済と社会主義市場経済：毛沢東と鄧小平 第9回　開発独裁：権威主義体制下の開発 第10回　経済援助と経済制裁:北朝鮮とどう向き合うか 第11回　経済のグローバル化と通貨危機：通貨危機に対する韓国とマレーシアの対応 第12回　経済協力と自由貿易協定:韓国と米国のＦＴＡについて考える 第13回　経済ナショナリズムと保護主義：米国と中国の貿易戦争について考える 第14回　まとめ：世界経済はどこに向かうのか		
事前・事後学習の内容	講義に関するトピックスに関するテキストの部分を事前に学習し、理解しておくこと。また毎回、課題を出すので、次回までに各自で学習しておくことが望ましい。		
評価方法	講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。		
受講生へのコメント	講義には絶えず積極的な姿勢で臨むこと。		
教材	朴一『20世紀東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2019年		

授業コード	EM30070010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅵ-(2)：マクロ分析2		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅥ-(2):Macroeconomics2		
科目ナンバー	EMBAJ1509		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	家計、企業、政府の相互依存をもとに、マクロ経済を見ていく。その中で、経済成長論やマクロ諸問題に取り組む。		
授業の到達目標	マクロ経済における理論・統計分析が理解できるようになること。		
授業内容・授業計画	第１回_マクロ経済学：ガイダンス 第２回_マクロ経済学の基礎：家計・企業・政府の相互依存 第３回_マクロ経済学の基礎：財市場、資本市場、労働市場とそれらの均衡 第４回_マクロ経済学の基礎：家計の効用最大化、企業の利潤最大化、政府の役割 第５回_経済理論で用いる数学の復習 第６回_経済成長論：ソローモデル 第７回_経済成長論：内生成長モデルの説明 第８回_経済成長論：代表的な内生成長モデル（Romerモデル） 第９回_経済成長論：代表的な内生成長モデル（その他） 第１０回_経済成長論：機械化の役割 第１１回_所得不平等の拡大：説明 第１２回_所得不平等の拡大：教育 第13回_所得不平等の拡大：労働 第14回_少子高齢化		
事前・事後学習の内容	毎回の授業内容を復習することで内容の理解を深めること。		
評価方法	講義の出席とレポートにより評価する。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストはなし。参考書は適宜紹介する。		

授業コード	EM30090010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅶ-(2)：ミクロ分析2		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅦ-(2):Microeconomic Theory2		
科目ナンバー	EMBAJ1511		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里		
科目の主題	大学院レベルのゲーム理論について学ぶとともに、実際の社会においてゲーム理論が戦略的相互作用を分析するのにどのように役に立つのかについて考察する。		
授業の到達目標	戦略や均衡などの概念を理解した上で、宿題を通して実際にモデルの均衡を求めることができるようになる。さらに完備情報ゲームや不完備情報ゲームを研究に用いることができるよう応用力を伸ばす。		
授業内容・授業計画	講義は予告なく変更されることがある。 第１回_はじめに 第２回_ナッシュ均衡① 第３回_ナッシュ均衡② 第４回_混合戦略① 第５回_混合戦略② 第６回_部分ゲーム完全均衡① 第７回_部分ゲーム完全均衡② 第８回_交渉 第９回_繰り返しゲーム① 第10回_繰り返しゲーム② 第11回_完全ベイジアン均衡 第12回_シグナリング 第13回_モラル・ハザード 第14回_逆淘汰 定期試験		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を読んで、予習・復習をすること。宿題を提出することは義務ではないが、強く推奨する。		
評価方法	期末試験　100% ただし、宿題の出来が良かった場合、考慮にいれることがある。		
受講生へのコメント	・授業中に私語をするなど他の学生に対して迷惑行為を行う者は、失格にする。 ・人の解答を写した宿題を提出しないこと。 ・宿題の問題は、英語である場合がある。		
教材	【教科書】 Martin J. Osborne. 2004. An Introduction to Game Theory. Oxford University Press. 【参考書】 ・岡田章. 2014年. 『ゲーム理論・入門 新版--人間社会の理解のために』　有斐閣アルマ. ・ロバート・ギボンズ.　1995年.『経済学のためのゲーム理論入門』　創文社.		

授業コード	EM30130010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅸ-(2)：計量分析2		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅨ-(2):Econometrics2		
科目ナンバー	EMBAJ1515		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	鹿野　繁樹		
科目の主題	計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。		
授業の到達目標	この講義は、計量経済学の標準的な分析ツールの理論と利用法を習得することを目標とする。		
授業内容・授業計画	まず、回帰係数の線形制約の検定を解説する。 次いで、古典的仮定よりもより一般的な仮定のもとでの回帰分析を考える。 そこでは、内生性バイアスとその対処法としての操作変数法が主題となる。 最後に二値反応変数の回帰分析として、プロビットを学ぶ。 第１回_回帰モデルのF 検定（1）：基礎編 第２回_回帰モデルのF 検定（2）：応用編 第３回_漸近理論の基礎 第４回_確率的説明変数（1）：条件付き期待値関数 第５回_確率的説明変数（2）：根源的仮定とOLS 第６回_分散の不均一性と仮説検定（1）：OLSの分散と分布 第７回_分散の不均一性と仮説検定（2）：WLS 第８回_内生性バイアスと操作変数法（1）：内生性バイアスとは？ 第９回_内生性バイアスと操作変数法（2）：IVと2SLS 第10回_内生性バイアスと操作変数法（3）：応用編 第11回_因果関係を立証できるか？ 第12回_最尤法（1）：基礎編 第13回_最尤法（2）：プロビット 第14回_最尤法（3）：トービット 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。 テキスト章末の復習問題を解くこと。		
評価方法	毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。		
受講生へのコメント	計量分析１とセットの科目です。前期に計量分析１を受講して下さい。		
教材	鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。		

授業コード	EM20191010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	ミクロ経済学研究		
英語科目授業名	Lecture on Microeconomic Analysis		
科目ナンバー	EMTHJ1609		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	産業組織に関わるミクロ経済学的分析に触れる。		
授業の到達目標	企業行動について、ミクロ経済学的（特に、ゲーム理論的）な視点を持てる様になる。また、数値例でそれを確かめられる様になる。		
授業内容・授業計画	主に、講義形式で行う。 第1回　ガイダンス 第2回　完全競争 第3回　寡占：数量競争 第4回　寡占：価格競争 第5回　2～4回補論 第6回　価格差別 第7回　垂直的関係 第8回　製品差別化 第9回　6～8回補論 第10回　広告 第11回　ネットワーク外部性 第12回　研究開発 第13回　参入・退出 第14回　10～13回補論		
事前・事後学習の内容	ガイダンス時に指示する。		
評価方法	主に、宿題により評価する。		
受講生へのコメント	まずは授業で扱う様な数値例のレベルでよいので、自身の研究に関しても、モデルを用いた議論もできる様になってもらえればと思う。		
教材	参考書：Belleflamme, P. and Peitz, M. (2015) Industrial Organization: Market and Strategies, 2nd ed., Cambridge University Press.（書籍HPにてスライド版無料ダウンロードサービスあり。）		

授業コード	EM20201010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	ミクロ経済学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Microeconomic Analysis		
科目ナンバー	EMTHJ1610		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	ミクロ経済学に関する最新の研究に触れる。		
授業の到達目標	各研究で何が行われているかを把握する。また、それを参考にどの様な研究計画が立てられるものなのかを知る。特に、様々なトピックが分析可能であること、また、どの様に分析できるのか、分析に際してどの様な注意が必要となって来るのかについて知る。		
授業内容・授業計画	NBER Digest（ニュース性の高い最新研究の一般向け要約が毎月四本以上掲載されている。）の記事を輪読する。扱う記事については、参加者の希望も聞きながら決めて行く。参考までに、以下が、前回同様の形式を取った際に扱った記事の一部である。 「Labor Supply and the Old Age Assistance Program」（2016年6月記事） 「Did a Legal Ivory Sale Increase Smuggling and Poaching?」（2016年9月記事） 「To Change, or Not to Change? Just Flip a Coin」（2016年10月） 「Can Online Delivery Increase Access to Education?」（2017年1月記事） 「Does `Gift Exchange' Increase Charitable Giving?」（2017年1月記事） 「The Immigrant as Innovator」（2017年4月記事） 「Benefits and Costs of Healthier School Lunches 」（2017年6月記事） 「Lead Exposure Linked to School Problems and Crime」（2017年7月記事） 「What Happens When Refugees Come to the United States」（2017年8月記事） 「The `Daughter Effect' at Venture Capital Firms」（2017年9月記事） 「Declining Work Hours and the Rise in Young Men's Gaming」（2017年9月記事） 「Investing in Colleges Boosts Attainment More than Tuition Cuts」（2017年10月記事） 「Explaining the Good Fortune of Dragon Year Children」（2017年11月記事） 「Shore Dwellers Perceive Less Risk from Flooding」（2017年12月記事） 「Performance Ticket Auctions: Going, Going, Gone」（2017年12月記事）		
事前・事後学習の内容	報告者は、報告回で出た疑問点について、ディスカッション回までに調べておく。また、関連する統計について調べる。報告者以外も、記事と論文のアブストラクトには目を通し、疑問点を整理しておく。		
評価方法	自分の担当回における報告及び他人の担当回におけるコメントにより評価する。		
受講生へのコメント	大学院基礎レベルのミクロ経済学、計量経済学を習得済みであると、より有意義であろう。		
教材	大学院基礎レベルのミクロ経済学（例：Mas-Colell et al. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press）、計量経済学（例：Wooldridge (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, Thomson Southern）の教科書。（購入の必要は無いが、あると便利かも知れない。）		

授業コード	EM21031010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	複雑系経済学研究		
英語科目授業名	Lecture on Economics of Complex Systems		
科目ナンバー	EMTHJ1613		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	創発や進化と言った複雑系の諸概念の理解と、エージェント・ベース・シミュレーション(ABS)という研究技法の習得を目的とした研究と演習を行う。複雑系研究及びABSの技法は、その多くが物理学や数学の研究分野で生み出されたものである一方で、地震や破壊、浸透などの地学、物理学分野や群れ行動、捕食被食関係などの生態学分野、人間関係などのネットワーク科学分野など多くの分野で応用され、学際的研究の代表例の一つとなっている。経済現象においても、株価変動や都市の形成、交通渋滞などで用いられている。この講義では経済分野における近年の研究をサーベイする。		
授業の到達目標	複雑系を応用して経済現象を理解し、それを元に独自の研究課題を発見し、研究を遂行できる能力を身に着けることを目標にする。		
授業内容・授業計画	複雑系研究の論文論文集を講読する。各人が、テキストのレジュメを作成し、授業では、そのレジュメに基づいた発表と、その内容についての討論を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price 第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China 第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends? 第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System. 第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market 第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation 第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire 第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption 第10回_Why Should the Economy be Competitive? 第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle 第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics 第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure 第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction		
事前・事後学習の内容	文献内容のレジュメを作成する。		
評価方法	授業での報告内容やディスカッションへの参加で評価する。		
受講生へのコメント	コンピュータを用いたエージェント・ベース・シミュレーションに興味のある学生の受講を望む。		
教材	Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011		

授業コード	EM21041010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	複雑系経済学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Economics of Complex Systems		
科目ナンバー	EMTHJ1614		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	エージェント・ベース・シミュレーションによる研究を遂行するためには、モデルをコンピューター上で実行するためのプログラミング能力のみならず、パラメータ・サーベイを行うためのバッチ処理、膨大に得られるデータを分析するデータマイニング技術など様々な技能が必要である。この演習では、既存研究を再現することで、これら能力を涵養する。		
授業の到達目標	複雑系経済学研究に必要なシミュレーション技能を身に着けることを目標にする。		
授業内容・授業計画	ペア科目である「複雑系経済学研究」で用いた論文で扱っているシミュレーションを再現する。論文に掲載されている結果を再現することで、その結果が出るメカニズムを理解する。また、論文で取り上げられていない論点について討議する。 第１回_ガイダンス 第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price 第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China 第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends? 第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System. 第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market 第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation 第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire 第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption 第10回_Why Should the Economy be Competitive? 第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle 第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics 第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure 第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction		
事前・事後学習の内容	「複雑系経済学研究」で取り上げた論文について、シミュレーションを実施し、論文の中に出てくる図表を再現する。更に、論文で触れられていない論点を見つけてくる。		
評価方法	授業での報告内容やディスカッションへの参加で評価する。		
受講生へのコメント	JAVAによるプログラムが必要である。		
教材	Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011		

授業コード	EM20071010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	マクロ経済動学研究		
英語科目授業名	Lecture on Dynamic Macroeconomics		
科目ナンバー	EMTHJ1619		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森　誠		
科目の主題	マクロ経済学における長期にわたる最適化の議論を講義する。		
授業の到達目標	ミクロ的基礎を持つマクロ経済学の最近の議論を理解することを目標とする。		
授業内容・授業計画	テキストを利用しながらマクロ経済動学の理論を講義する。 第１回_ガイダンス 第２回_従来の経済成長論　1-Solowモデル- 第３回_従来の経済成長論　2-技術進歩と成長- 第４回_合理的期待　1-Muthモデル- 第５回_合理的期待　2-Caganモデル- 第６回_ラムゼーモデル　1-最大値原理- 第７回_ラムゼーモデル　2-市場均衡- 第８回_ラムゼーモデル　3-政府支出- 第９回_世代重複モデル　1-2期間モデル- 第10回_世代重複モデル　2-Diamondモデル- 第11回_世代重複モデル　3-年金- 第12回_内生的成長モデル　1-AKモデル- 第13回_内生的成長モデル　2-Romerモデル- 第14回_内生的成長モデル　3-内生的な生産性増加-		
事前・事後学習の内容	講義前にはテキストの該当箇所を理解するのに必要な知識を復習する必要がある。講義後には理解が不十分だった箇所を他の文献等で理解を確実なものにすること。		
評価方法	平常点あるいはテストで評価する。		
受講生へのコメント	マクロ分析1およびマクロ分析2を受講しておくことが望ましい。		
教材	Benassy(2011)Macroeconomic Theory,Oxford		

授業コード	EM20081010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	マクロ経済動学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Dynamic Macroeconomics		
科目ナンバー	EMTHJ1620		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森　誠		
科目の主題	マクロ経済学における長期にわたる最適化の議論を理解する。		
授業の到達目標	ミクロ的基礎を持つマクロ経済学の最近の議論を理解することを目標とする。		
授業内容・授業計画	テキストを利用しながらマクロ経済動学の理論の報告および討論を行う。また、練習問題を解く。 第１回_ガイダンス 第２回_従来の経済成長論　1-Solowモデル- 第３回_従来の経済成長論　2-技術進歩と成長- 第４回_合理的期待　1-Muthモデル- 第５回_合理的期待　2-Caganモデル- 第６回_ラムゼーモデル　1-最大値原理- 第７回_ラムゼーモデル　2-市場均衡- 第８回_ラムゼーモデル　3-政府支出- 第９回_世代重複モデル　1-2期間モデル- 第10回_世代重複モデル　2-Diamondモデル- 第11回_世代重複モデル　3-年金- 第12回_内生的成長モデル　1-AKモデル- 第13回_内生的成長モデル　2-Romerモデル- 第14回_内生的成長モデル　3-内生的な生産性増加-		
事前・事後学習の内容	演習前にはテキストの該当箇所を理解するのに必要な知識を復習し報告の準備をする。演習後には理解が不十分だった箇所を他の文献等で理解を確実なものにすること。		
評価方法	平常点あるいはテストで評価する。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	Benassy(2011)Macroeconomic Theory,Oxford		

授業コード	EM20111010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	数量経済分析論研究		
英語科目授業名	Lecture on Quantitative Analyses of Economics		
科目ナンバー	EMTHJ1625		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	経済発展論において、いくつかの視点から理論分析を行う。		
授業の到達目標	経済発展に関するいくつかのテーマを学びながら、理論分析が理解できるようになる。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて、個別指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_経済発展論：イントロダクション 第３回_貧困の罠：説明 第４回_貧困の罠：投資、教育、出生 第５回_理論分析に関する数学の復習 第６回_経済発展の可能性：説明 第７回_経済発展の可能性：生産技術 第８回_経済発展の可能性：教育、その他 第９回_複数均衡：生産技術 第10回_複数均衡：所得格差と絡めて 第11回_Unified growth theory：説明 第12回_Unified growth theory：サーベイ 第13回_経済発展論：補足 第14回_統計分析：説明		
事前・事後学習の内容	講義をもとに、各自、経済分析の行い方への理解を深めること。		
評価方法	経済分析を行う能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。		

授業コード	EM20121010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	数量経済分析論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Quantitative Analyses of Economics		
科目ナンバー	EMTHJ1626		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	自らのテーマ選定のもと、既存の理論分析または統計分析を報告する。		
授業の到達目標	既存の研究論文をもとに具体的な分析を各自報告し、経済理論と実証分析への理解を深めていく。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて、個別指導を含め、具体的な研究の進め方を学ぶ。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。 第１回_イントロダクション（ガイダンス） 第２回_テーマ選定 第３回_既存の論文報告(グループ1)と議論：理論的考察 第４回_論文報告（グループ１）と議論：実証的検討 第５回_報告から必要となった理論分析の学習 第６回_報告から必要となった統計分析の学習 第７回_セミナー（他大学の研究者発表を聴講） 第８回_論文報告（グループ２）と議論：理論的考察 第９回_論文報告（グループ２）と議論：実証的検討 第10回_論文報告（グループ２）と議論：拡張の検討 第11回_報告から必要となった理論分析の復習 第12回_報告から必要となった統計分析の復習 第13回_セミナー（研究者発表２、質疑応答を課す） 第14回_これまでの発表の中から選定し再発表		
事前・事後学習の内容	講義をもとに、各自研究を進め、理論分析と統計分析を身に着けること。		
評価方法	経済学における分析能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。		

授業コード	EM20151010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	経済学説史研究		
英語科目授業名	Lecture on History of Political Economy		
科目ナンバー	EMHIJ1601		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	資本主義や市場経済の歴史と制度についての経済学思想家たちを取り上げる。とりわけ経済学史に関しては、20世紀前半のジョン・メイナード・ケインズ、カール・ポランニー、ヨゼフ・シュンペーター、フリードリッヒ・ハイエクの市場経済についての見解に照明を当てる。そしてネオリベラリズムが政治領域を席巻するに至った１９７０年代以降、現代にいたる資本主義と市場経済の歴史と制度について考察する。経済学の巨人たちは、社会・経済・政治思想（史）を領域横断的に闊歩し、自分の生きた時代を診断し、その問題と格闘するなかで、現代の私たちにとってもさまざまな示唆を与える古典的な著作をあらわした。本講義では、そうのような経済思想家たちの見解を学びながら報告・討論を行う。また、参加者の研究テーマや研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	自らの研究テーマに関連する先行研究を深く理解し、それらを経済学史・思想史的な方法を用いて、明快かつ論理的に報告できるようになることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	主たるテキストの各章や担当箇所を精読したうえで、レジュメを作成・報告し、それをもとにディスカッションや研究指導を行う。 第１回_講義の進め方（テキストを見ながら、担当者を決定）、現代経済学の系譜図 第２回_現代に甦るケインズ 第３回_J.M.ケインズと不確実性の時代 第４回_世界経済危機の「救済者」としてのケインズ、幻となったケインズの戦後秩序構想 第５回_P.サミュエルソンと「米国版ケインズ経済学」の誕生 第６回_J.K.ガルブレイスの政治経済学（制度の経済学） 第７回_H.ミンスキーの金融不安定性仮説、リーマンショックによる「復活」 第８回-反ケインズ革命の英雄、ガルブレイスの天敵　M.フリードマン 第９回_「経済学帝国主義」の推進者たち　G.ベッカー、R.ポズナー、R.ルーカス 第10回_F.ハイエクの「自生的秩序」としての市場観 第11回_市場経済への根源的批判者　K.ポランニー 第12回-２１世紀の資本主義はなぜ危機を抜け出せないのか 第13回_新しい（偽？アメリカ中心的発想？）ケインズ経済学者P.クルーグマン、リーマンショックを予言したR.シラー 第１４回_ワシントンコンセンサスを批判したJ.スティグリッツ、総括		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。受講後に、講義に用を踏まえ、自身の研究テーマと関連付けた生レポートを提出すること（詳細は講義中に指示する）。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	自らの知識や視野を日々、確かにするための時間を確保してください。図書館（学術情報総合センターの２階には新聞や神官や雑誌のコーナーもあります）に通う習慣を身につけること、生協や大きな書店の社会科学コーナーに立ち寄りあれこれと書籍を手に取っているうちに、専門分野以外から良い刺激を受けることがあります。各自の研究が着実に進むように、必読の先行研究文献を探し、いくつかを丁寧に読み、レジュメを作るといいでしょう。		
教材	最初に読むテキストとして次のものを指定する。各自、生協などで購入してから、最初の授業に出席すること。 東谷暁（ひがしたに　さとし）『経済学者の栄光と敗北―ケインズからクルーグマンまで１４人の物語』朝日新書、2013年。		

授業コード	EM20161010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	経済学説史研究演習		
英語科目授業名	Seminar on History of Political Economy		
科目ナンバー	EMHIJ1602		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する先行研究を取り上げた報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	経済学説史研究の方法を習得し、市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する知見を吸収し、自らの研究テーマや分析手法に関する手がかりを得ることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。 第１回_講義の進め方 第２回_レポートのまとめ方 第３回_テーマ選択 第４回_先行研究の各報告（１）、コメント 第５回_先行研究の各報告（２）、補足、コメント、再考 第６回_テーマ設定（１）-先行研究の分類、先行研究＋α、コメント- 第７回_中間レポートの各報告（１）、コメント 第８回_中間レポートの各報告（２）、補足、コメント、再考 第９回_先行研究の位置づけ、見直し、補足（１）-参考文献の整理- 第10回_複数の重要先行研究の各報告（１）、コメント 第11回_複数の先行研究の各報告（２）、補足、コメント、再考 第12回_課題論文の中間発表（１）コメント 第13回_課題論文の中間発表（２）補足、コメント、再考 第14回_発展研究		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	各自の研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。		
教材	特になし。		

授業コード	EM20171010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	社会思想史研究		
英語科目授業名	Lecture on History of Social Thought		
科目ナンバー	EMHIJ1603		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	国境を超える人の移動が活発化し、ナショナルなものの境界線が揺らぎつつあるなかで、ポストナショナルなシティズンシップ（市民権）に関するさまざまな構想が提唱され、一部では実施に移されている。この授業では、シティズンシップのポストナショナルな諸形態を実現しつつあるEUの試みを見ていく。		
授業の到達目標	授業では、マーストリヒト条約（1993年）で導入されたEUシティズンシップ、リスボン条約（2009年）によって法的拘束力を得たEU基本権憲章、2003年の長期居住者指令、2010年の難民指令などを見ていくことになる。2015年における難民の受け入れとパリでのテロ事件を受け、一定のバックラッシュを示しながらも、EU加盟国はいまや、EU市民だけでなく域外の国民にも、居住期間の長さに応じた市民としての地位を保障する方向へと向かっている。		
授業内容・授業計画	まずは、シティズンシップの概念、および移民・難民の地位身分を理解するうえで基本となる、T.H.マーシャルとH.アーレントの古典ともいうべき著作を日本語で読む。その後、ポストナショナルなシティズンシップをめぐる議論と、EUによるシティズンシップの改革の試み（欧州委員会が2000年に提示したのは、civic citizenshipという構想であった）とを、英語の文献を用いて概観する。		
授業内容・授業計画②	第１回 イントロダクション：問題の所在 第２回 下記のテキスト①の輪読その１：シティズンシップ概念の理解 第３回 下記のテキスト①の輪読その２：社会的シティズンシップの含意 第４回 下記のテキスト②の輪読その１：人権とシティズンシップの違い 第５回 下記のテキスト②の輪読その２：権利と公共圏 第６回 EUシティズンシップに関する文献の検討 第７回 EU基本権憲章に関する文献の検討 第８回 postnational citizenshipに関する文献の検討 第９回 EUにおけるcivic citizenshipに関する文献の検討 第10回 EUの長期居住者指令に関する文献の検討 第11回 EUの家族結合指令に関する文献の検討 第12回 EUにおけるcivic integration政策の動向１：オランダ 第13回 EUにおけるcivic integration政策の動向２：ドイツ 第14回 EUの難民指令の検討		
事前・事後学習の内容	受講に際しての予備知識は不要だが、毎回の授業の予習には相当の時間を要する。		
評価方法	授業中の報告と学期末の研究報告書とにより成績を評価する。		
受講生へのコメント	移民・難民問題に関心を寄せる諸君の受講を期待する。		
教材	テキスト①：T.H.マーシャル／T.ボットモア『シティズンシップと社会的階級』法律文化社。 テキスト②：H.アーレント『全体主義の起源２：帝国主義』みすず書房、第５章「国民国家の没落と人権の終焉」（コピーを配布）。		

授業コード	EM20181010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	社会思想史研究演習		
英語科目授業名	Seminar on History of Social Thought		
科目ナンバー	EMHIJ1604		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	国境を超える人の移動が活発化し、ナショナルなものの境界線が揺らぎつつあるなかで、ポストナショナルなシティズンシップ（市民権）に関するさまざまな構想が提唱され、一部では実施に移されている。この授業では、シティズンシップのポストナショナルな諸形態を実現しつつあるEUの試みを見ていく。		
授業の到達目標	この演習では、EUによる共通民政策とEU加盟国における移民・難民の受け入れの現状を理解するにとどまらず、そうした現状を批判的に評価するための規範的な視座を獲得することを目標にすえる。		
授業内容・授業計画	まずは、シティズンシップの概念、および移民・難民の地位身分を理解するうえで基本となる、T.H.マーシャルとH.アーレントの古典ともいうべき著作を日本語で読む。その後、ポストナショナルなシティズンシップをめぐる議論と、EUによるシティズンシップの改革の試み（欧州委員会が2000年に提示したのは、civic citizenshipという構想であった）とを、英語の文献を用いて概観する。		
授業内容・授業計画②	第１回 イントロダクション：問題の所在 第２回 下記のテキスト①の輪読その１：シティズンシップ概念の理解 第３回 下記のテキスト①の輪読その２：社会的シティズンシップの含意 第４回 下記のテキスト②の輪読その１：人権とシティズンシップの違い 第５回 下記のテキスト②の輪読その２：権利と公共圏 第６回 EUシティズンシップに関する文献の検討 第７回 EU基本権憲章に関する文献の検討 第８回 postnational citizenshipに関する文献の検討 第９回 EUにおけるcivic citizenshipに関する文献の検討 第10回 EUの長期居住者指令に関する文献の検討 第11回 EUの家族結合指令に関する文献の検討 第12回 EUにおけるcivic integration政策の動向１：オランダ 第13回 EUにおけるcivic integration政策の動向２：ドイツ 第14回 EUの難民指令の検討		
事前・事後学習の内容	受講に際しての予備知識は不要だが、毎回の授業の予習には相当の時間を要する。		
評価方法	授業中の報告と学期末の研究報告書とにより成績を評価する。		
受講生へのコメント	移民・難民問題に関心を寄せる諸君の受講を期待する。		
教材	テキスト①：T.H.マーシャル／T.ボットモア『シティズンシップと社会的階級』法律文化社。 テキスト②：H.アーレント『全体主義の起源２：帝国主義』みすず書房、第５章「国民国家の没落と人権の終焉」（コピーを配布）。		

授業コード	EM20231010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	労働経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Labour Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1601		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	福原　宏幸		
科目の主題	「ワーキングプア・就職困難者への就労支援」を主題にして講義を行う。これらの研究にあたっては、中間的労働市場論、アクティベーション、ベーシックインカム、そして社会的排除／包摂などの議論について理解することが求められることから、これらについても講義する。		
授業の到達目標	本講義では、労働市場構造分析や社会的排除／包摂論について十分な理解をすることと、問題の分析や解決を図る能力を養うことを到達目標とする。 ⑴専攻する分野を概説することができること。 ⑵専攻する分野で必要な分析手法を理解できること。 ⑶専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。		
授業内容・授業計画	欧米諸国の実態分析や政策理論についての研究も視野に入れ、他方で日本の実証的研究の成果を網羅するように心がけたい。また、毎回の講義では受講生の積極的な発言を引き出す形で授業を進めていく。 また、各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。 第１回 社会的排除／包摂論（１）-議論の歴史的発展- 第２回 社会的排除／包摂論（２）-実態把握の分析理論と政策類型- 第３回 社会的排除／包摂論（３）-EUの政策- 第４回 最低所得保障とベーシックインカム論（１） 第５回 最低所得保障とベーシックインカム論（２） 第６回 最低所得保障とベーシックインカム論（３） 第７回 アクティベーションと中間的労働市場（１） 第８回 アクティベーションと中間的労働市場（２） 第９回 個別的支援とまちづくり（１） 第10回 個別的支援とまちづくり（２） 第11回 日本における生活困窮者支援事業の展開 第12回 社会的企業と社会的連帯経済（１） 第13回 社会的企業と社会的連帯経済（２） 第14回 日本における社会的包摂と労働市場構造改革に向けて レポート提出		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	講義時の質問、報告、レポート等を総合的に評価します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	その都度、提示します。		

授業コード	EM20241010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	労働経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Labour Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1602		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	福原　宏幸		
科目の主題	「ワーキングプア・就職困難者への就労支援」を主題にして演習を行う。これらの研究にあたっては、中間的労働市場論、アクティベーション、ベーシックインカム、そして社会的排除／包摂などの議論を取り上げた報告・討論を行い、各受講生の研究課題に関しても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	本演習では、労働市場構造分析や社会的排除／包摂論について十分な理解をすることと、問題の分析や解決を図る能力を養うことを到達目標とする。また、修士論文・修了論文執筆に必要な知見を習得させる。 ⑴専攻する分野を概説することができること。 ⑵専攻する分野で必要な分析手法を理解できること。 ⑶専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。		
授業内容・授業計画	欧米諸国の実態分析や政策理論についての研究も視野に入れ、他方で日本の実証的研究の成果を網羅するように心がけたい。また、毎回の演習では受講生の積極的な発言を引き出す形で授業を進めていく。 また、各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。 第１回 社会的排除／包摂論（１）–議論の歴史的発展– 第２回 社会的排除／包摂論（２）–実態把握の分析理論と政策類型– 第３回 社会的排除／包摂論（３）–EUの政策– 第４回 最低所得保障とベーシックインカム論（１） 第５回 最低所得保障とベーシックインカム論（２） 第６回 最低所得保障とベーシックインカム論（３） 第７回 アクティベーションと中間的労働市場（１） 第８回 アクティベーションと中間的労働市場（２） 第９回 個別的支援とまちづくり（１） 第10回 個別的支援とまちづくり（２） 第11回 日本における生活困窮者支援事業の展開 第12回 社会的企業と社会的連帯経済（１） 第13回 社会的企業と社会的連帯経済（２） 第14回 日本における社会的包摂と労働市場構造改革に向けて レポート提出		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	演習時の討論、報告、レポート等を総合的に評価します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	その都度、提示します。		

授業コード	EM20311010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	財政政策論研究		
英語科目授業名	Lecture on Public-Finance Policy		
科目ナンバー	EMAPJ1609		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	現代の日本財政政策の基礎理論および政策議論についてレクチャーを行う。その際に気を付けることは財政理論、歴史、政策論をできるだけ偏りがないように講義をすることである。また、受講生が単に一方的に聞くだけではなく、講義の内容を受けてのやり取りもできるように心がける。		
授業の到達目標	修士論文の執筆レベルの知識の習得や議論のレベルまで引き上げることを目標とする。		
授業内容・授業計画	毎回の講義においてレジュメおよび資料をスクリーン・モニターに映しながら講義を進める。またレジュメおよび資料は事前に配布する。 第１回_本講義の趣旨・問題意識の確認とガイダンス 第２回_財政学という学問の特徴・本質は何か 第３回_公共財の理論とその批判 第４回_福祉国家論について 第５回_所得再分配の理論と実際 第６回_乗数理論とその現実 第７回_高度成長期の財政史 第８回_オイルショックから臨調行革までの財政史 第９回_バブル経済とは何か 第10回_小泉改革とは何だったのか 第11回_政権交代以降の財政の状況 第12回_土建国家という日本の公共事業 第13回_生活保障機能の変化とセーフティネット 第14回_政府間財政関係について		
事前・事後学習の内容	毎回の講義の最後に次回のレクチャーについてのあらすじと参考文献を提示する。受講者は事前に予習をすることが好ましい。また、毎回配布するレジュメと資料を用いて復習することも理解を深めるにあたっては好ましい。		
評価方法	平常点および期末レポートにより評価を行う。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	特になし		

授業コード	EM20321010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	財政政策論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Public-Finance Policy		
科目ナンバー	EMAPJ1610		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	本演習では財政にかかわる諸制度、とりわけ社会保障制度と他の諸制度との有機的な関係に着目しながら、今後の財政制度の在り方について受講者と議論を行う。		
授業の到達目標	租税政策、社会保障政策、地方分権などが有機的にかかわって財政政策をトータルで考えることができる思考能力の醸成を目的とする。		
授業内容・授業計画	関連する論文・著作を受講者が輪読・報告を行い、それをもとに全受講者間で議論を行う。 第１回_本演習の狙いの説明とガイダンス 第２回_年金と日本経済 第３回_医療と日本経済 第４回_介護と日本経済 第５回_社会福祉と日本経済 第６回_生活扶助と日本経済 第７回_労働政策と日本経済 第８回_社会保障とインフォーマルセクター 第９回_社会保障制度と租税構造 第10回_社会保障制度と国民負担 第11回_社会保障制度の財源問題 第12回_社会保障制度と消費税 第13回_社会保障制度と租税特別措置 第14回_社会保障制度と地方分権		
事前・事後学習の内容	報告者はもちろんのこと、受講者全員が事前の学習を行い、積極的に議論に参加することが求められる。また、授業後の復習を行うことにより理解度を高めるだけではなく、その後の議論のためにも役立つことを認識してもらいたい。		
評価方法	平常点および期末レポートにより評価を行う。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	適宜、授業中に指示する。		

授業コード	EM20371010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	金融経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Monetary Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1617		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融契約のミクロ理論モデル分析を学ぶ。		
授業の到達目標	金融契約に関する論文を理解し、批判する力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。出席者は事前に指示された論文を読んでおくこと。出席者には報告を行ってもらいます。そのため、ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることが必須です。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していること。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであること。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。 第１回_ガイダンス 第２回_金融契約理論(イントロダクション) 第３回_金融契約理論(サーベイ) 第４回_金融契約理論(基本モデル) 第５回_金融契約理論(拡張モデル) 第６回_金融契約理論(インプリケーション) 第７回_金融契約理論(結論) 第８回_D&Mモデル(イントロダクション) 第９回_D&Mモデル(サーベイ) 第10回_D&Mモデル(基本モデル) 第11回_D&Mモデル(拡張モデル) 第12回_D&Mモデル(インプリケーション) 第13回_D&Mモデル(結論) 第14回_D&Mモデルの批判的検討と分析の拡張		
事前・事後学習の内容	事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。 前回の授業内容を復習しておくこと。		
評価方法	平常点(授業態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。		
受講生へのコメント	十分な予習・復習時間を確保してください。		
教材	テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。		

授業コード	EM20381010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	金融経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Monetary Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1618		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融契約のミクロ理論モデル分析を学ぶ。		
授業の到達目標	金融契約に関する論文を理解し、批判する力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。指示した論文を出席者に報告してもらいます。そのため、ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることが必須です。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していること。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであること。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。 第１回_ガイダンス 第２回_金融契約理論(イントロダクション) 第３回_金融契約理論(サーベイ) 第４回_金融契約理論(基本モデル) 第５回_金融契約理論(拡張モデル) 第６回_金融契約理論(インプリケーション) 第７回_金融契約理論(結論) 第８回_B&Rモデル(イントロダクション) 第９回_B&Rモデル(サーベイ) 第10回_B&Rモデル(基本モデル) 第11回_B&Rモデル(拡張モデル) 第12回_B&Rモデル(インプリケーション) 第13回_B&Rモデル(結論) 第14回_B&Rモデルの批判的検討と分析の拡張		
事前・事後学習の内容	事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。 前回の授業内容を復習しておくこと。		
評価方法	平常点(授業態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。		
受講生へのコメント	毎回、報告をしてもらうことになりますので、十分な予習・復習時間を確保してください。		
教材	テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。		

授業コード	EM20831010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	産業経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Industrial Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1629		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	規制の経済理論および先進諸国における規制政策について報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	産業の規制政策に関する理論および先進諸国における規制政策について説明できるようになることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	各自が担当する論文を精読したうえ、日本語でレジュメを作成・報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。 第１回_講義の進め方（文献・担当者の決定） 第２回_Introduction to Economic Regulation 第３回_Theory of Natural Monopoly 第４回_Natural Monopoly Regulation and Electric Power 第５回_Franchise Bidding and Cable Television 第６回_Public Enterprise 第７回_Dynamic Issues in Natural Monopoly Regulation: Telecommunications 第８回_The Regulation of Potentially Competitive Markets: Theory and Estimation Methods 第９回_Economic Regulation of Transportation: Surface Freight and Airlines 第10回_Economic Regulation of Energy: Crude Oil and Natural Gas 第11回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: The Energy and Water Supply Industries 第12回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Transport Industries 第13回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Communications Industries 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	自らの知識を深めるよう、様々な先行研究にふれてください。		
教材	Mizutani, F. (2012) Regulatory reform of public utilities : The Japanese experience, Cheltenham, UK: Edward Elgar. Viscusi, W. K., Harrington, Jr., J. E. and Vernon, J. M. (2005) Economics of Regulation and Antitrust, 4th ed., Cambridge, MA: MIT Press.		

授業コード	EM20841010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	産業経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Industrial Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1630		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	課題論文作成に向け、分析対象および分析手法について報告・討論を行う。		
授業の到達目標	本講義では産業の規制政策について、個人指導と共に討論により問題の分析や解決を図る能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 （１）専攻する分野を概説することができること。 （２）専攻する分野で必要な分析手法を理解できること。 （３）専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。また、その習熟度を後期博士課程に相応しいレベルまで引き上げること。		
授業内容・授業計画	各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。 第１回_講義の進め方 第２回_レポートのまとめ方 第３回_テーマ選択 第４回_先行研究 第５回_現状把握（１）-制度- 第６回_現状把握（２）-データ収集- 第７回_中間レポートの報告 第８回_分析手法 第９回_データ分析（１）-データ整理- 第10回_データ分析（２）-プログラミングとパイロットテスト- 第11回_データ分析（３）-モデル推定- 第12回_分析結果の考察 第13回_課題論文の報告 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。		
教材	特になし。		

授業コード	EM20571010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	日本経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Japanese Economy		
科目ナンバー	EMAPJ1633		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討したい。		
授業の到達目標	日本経済が現在抱える問題への取り組みを深める。		
授業内容・授業計画	講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。 第１回_講義の進め方 第２回_労働問題-若年者・高齢者 第３回_労働問題-女性 第４回_少子化問題-要因 第５回_少子化問題-政策 第６回_貯蓄行動・資産選択 第７回_所得格差 第８回_社会保障-年金 第９回_社会保障-医療・介護 第10回_実証分析-データ 第11回_実証分析-基本的操作 第12回_実証分析-仮説設定 第13回_実証分析-仮説検証 第14回_実証分析-レポート作成に向けて		
事前・事後学習の内容	授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。		
評価方法	授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。		
教材	テキストは、特になし。		

授業コード	EM20581010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	日本経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Japanese Economy		
科目ナンバー	EMAPJ1634		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討したい。		
授業の到達目標	家計行動の側面から捉えた日本経済の課題を見出し、それを理論的・実証的に分析する力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。 第１回_講義の進め方 第２回_労働問題-若年者・高齢者 第３回_労働問題-女性 第４回_少子化問題-要因 第５回_少子化問題-政策 第６回_貯蓄行動・資産選択 第７回_所得格差 第８回_社会保障-年金 第９回_社会保障-医療・介護 第10回_実証分析-データ 第11回_実証分析-基本的操作 第12回_実証分析-仮説設定 第13回_実証分析-仮説検証 第14回_実証分析-レポート作成に向けて		
事前・事後学習の内容	授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。		
評価方法	授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。		
教材	テキストは、特になし。		

授業コード	EM20251010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	比較労使関係論研究		
英語科目授業名	Lecture on Industrial Relations		
科目ナンバー	EMGRJ1601		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	CHARLES　WEATHERS		
科目の主題	政治経済的な立場から日本および先進国の労使関係・雇用制度を勉強します。各国の制度的な類似点、相違点を分析するというアプローチを基本的に取っていきたいと考えています。		
授業の到達目標	日本をはじめ先進国の労使関係・雇用制度の特徴について基本的な知識を身につけることを目標にします。		
授業内容・授業計画	全ての参加者に参考にする資料について報告してもらい、それに基づいてディスカッションをします。また、修士論文への準備として、簡単な研究論文を書いてもらいます。 以下の15回の計画はサンプルコースです。参加者それぞれの興味やニーズによって調整します。 第１回_イントロダクション 第２回_日本の労使関係・雇用制度 第３回_戦後の労使関係の形成 第４回_労使関係制度の発展 第５回_春闘・賃金制度 第６回_非正規労働 第７回_均等法と女性労働問題 第８回_コミュニティユニオン及びNPO 第９回_若者と教育制度 第10回_アベノミクスと労働 第11回_北欧モデル 第12回_ドイツの労働政策 第13回_アメリカモデルと雇用制度 第14回_現在の課題		
事前・事後学習の内容	毎回、資料を読み、ディスカッションの準備をしてもらいます。また、自分の研究プロジェクトについて毎回報告してもらいます。		
評価方法	参加者の授業への準備及び熱心な討論。		
受講生へのコメント	現在、私は主に女性・非正規労働問題、公共部門労働問題について日米比較研究を行っていますので、政治経済や女性・ワーキングプア問題について関心がある院生に適すると思います。		
教材	第一回目の授業で参考となる資料を提示します。		

授業コード	EM20261010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	比較労使関係論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Industrial Relations		
科目ナンバー	EMGRJ1602		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	CHARLES　WEATHERS		
科目の主題	政治経済的な立場から日本および先進国の労使関係・雇用制度について研究します。各国の制度的な類似点、相違点を分析するというアプローチを基本的に取っていきたいと考えています。		
授業の到達目標	日本をはじめ先進国の労使関係・雇用制度の特徴について基本的な知識を身につけることを目標にします。また、資料検索および研究論文を作成するスキルを開発します。		
授業内容・授業計画	参加者の研究について報告してもらいます。また、修士論文への準備として、簡単な研究論文を書いてもらいます。 第１回_イントロダクション 第２回_日本の労使関係・雇用制度 第３回_戦後の労使関係の形成 第４回_労使関係制度の発展 第５回_春闘・賃金制度 第６回_非正規労働 第７回_均等法と女性労働問題 第８回_コミュニティユニオン及びNPO 第９回_若者と教育制度 第10回_アベノミクスと労働 第11回_北欧モデル 第12回_ドイツの労働政策 第13回_アメリカモデルと雇用制度 第14回_現在の課題		
事前・事後学習の内容	簡単な研究論文を作成するため、自立研究が求められます。		
評価方法	参加者の授業でのディスカッション、資料についての報告、および研究論文。		
受講生へのコメント	研究スキルの向を狙います。		
教材	参加者の研究課題に沿った内容の資料を提示します。		

授業コード	EM20611010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	東アジア経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on A Study on East Asian Economies		
科目ナンバー	EMGRJ1607		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	開発経済学の基本理論を用いて、植民地近代化、国民経済の形成過程、開発独裁、経済民主化、民族資本の形成、周辺国国家との経済協力などのトピックスを中心に、東アジアの構造変化について報告する。		
授業の到達目標	本講義では、東アジア経済の分析理論に関する知識を修得し、東アジア経済が抱える諸問題について考え、分析する能力を身につけることを達成目標とする。		
授業内容・授業計画	本講義では、以下のようなトピックスに関する最新の論文を材料に講義を行い、院生とテーマにそって議論を行う。 第1回　イントロダクション:講義の進め方 第2回　植民地近代化論:植民地支配の光と影 第3回　従属論：低開発の発展 第4回　世界システム論と不等価交換：中枢と周辺 第5回　後発性利益と後発性不利益：キャッチアップ工業化の功罪 第6回　新国際分業論：先進国と中進国 第7回　企業内国際分業：多国籍企業の製造拠点と販売拠点 第8回　計画経済と社会主義市場経済:鄧小平の挑戦 第9回　開発独裁：権威主義体制下の社会変動 第10回　経済援助と経済制裁：北朝鮮とどう向き合うか 第11回　経済のグローバル化と通貨危機：金大中とマハティールの構造改革 第12回　経済協力と自由貿易協定：FTAとTPP 第13回　経済ナショナリズムと保護主義：トランプと習近平 第14回　まとめ：世界経済はどこに向かうのか		
事前・事後学習の内容	講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。		
評価方法	講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にしておくこと。		
教材	朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2019年		

授業コード	EM20621010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	東アジア経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on A Study on East Asian Economies		
科目ナンバー	EMGRJ1608		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	東アジア経済に関する諸問題について報告・討論を行う。		
授業の到達目標	本講義では、東アジア経済について、個人指導と討論により課題分析や論文作成を行う基本的能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 （１）東アジア経済について概説する能力があること。 （２）東アジア経済を分析できる理論・手法をマスターしていること。 （３）東アジア経済に関して経済理論を駆使して分析する能力を有していること。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて個別指導を行い、具体的な研究の進め方を教授する。 　受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究をサポートする。 第1回から第5回、東アジア経済に関する理論研究。 第6回から第10回、東アジア経済に関する文献(現状分析)研究。 第11回から第14回、院生による研究発表と討論。 第1回　イントロダクション：講義の進め方 第2回　植民地近代化論：植民地支配の光と影 第3回　従属論：低開発の発展 第4回　世界システム論と不等価交換：中枢と周辺 第5回　後発性利益と後発性不利益：キャッチアップ工業化の功罪 第6回　新国際分業：先進国と中進国の新たな貿易関係 第7回　企業内国際分業：多国籍企業の製造拠点と販売拠点 第8回　計画経済と社会主義市場経済：毛沢東と鄧小平 第9回　開発独裁：権威主義体制下の社会変動 第10回　経済援助と経済制裁：北朝鮮とどう向き合うか 第11回　経済のグローバル化と通貨危機：金大中とマハティールの構造改革 第12回　経済協力と自由貿易協定：FTAとTPP 第13回　経済ナショナリズムと保護主義：トランプと習近平 第14回　まとめ：世界経済はどこに向かうのか		
事前・事後学習の内容	講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。		
評価方法	講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にしておくこと。		
教材	朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2019年		

授業コード	EM20631010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	東南アジア経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1609		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア経済を政治制度・経済制度・文化・社会といった多角的な視点から検討する。東南アジア全体の産業政策、都市化、教育の発展の経緯を鑑みた上で、各国の経済をより詳細に考察する。域内格差、所得格差、貧困問題、といった旧来からの論点に加え、近年、ますます重要になってきている環境問題やジェンダーの観点からも東南アジア各国経済を検討する。		
授業の到達目標	東南アジア経済に関する理解を深め、研究課題の発見を到達目標とする。		
授業内容・授業計画	授業の前半は講義を行い、後半は講義の中で取り上げたトピックに関する議論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー 第３回_東南アジア経済と教育・社会保障 第４回_移行経済国 第５回_農村経済 第６回_都市化とインフォーマルセクター 第７回_東南アジアの文化とビジネス 第８回_東南アジアの企業集団 第９回_アセアン経済共同体 第10回_インフラ開発 第11回_金融システム 第12回_中所得国化と経済格差 第13回_ジェンダー 第14回_環境問題		
事前・事後学習の内容	講義時に紹介する論文を読んでおくこと。		
評価方法	学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。		
受講生へのコメント	文献を読み込む時間を十分にとってください。		
教材	教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。		

授業コード	EM20641010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	東南アジア経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1610		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア経済に関する論文の報告・討論を行い、修士論文の作成に求められる基本的な知識と研究手法を学ぶ。		
授業の到達目標	文献研究を通してテーマの設定、データ収集、研究手法等を理解することを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	毎回、論文の輪読と議論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー 第３回_東南アジア経済と教育・社会保障 第４回_移行経済国 第５回_農村経済 第６回_都市化とインフォーマルセクター 第７回_東南アジアの文化とビジネス 第８回_東南アジアの企業集団 第９回_アセアン経済共同体 第10回_インフラ開発 第11回_金融システム 第12回_中所得国化と経済格差 第13回_ジェンダー 第14回_環境問題		
事前・事後学習の内容	講義時に紹介する論文を読んでおくこと。		
評価方法	学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。		
受講生へのコメント	文献を読み込む時間を十分にとってください。		
教材	教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。		

授業コード	EM20771010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	国際経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on International Economics		
科目ナンバー	EMGRJ1621		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	国際経済についての議論を様々な角度（経済理論）から検証する。		
授業の到達目標	経済発展を中心に、昨今の国際経済事情について理解を深めることが最大の目標となる。		
授業内容・授業計画	分担報告を求める。なお、図表などを用いた解説をおこなうこともあるが、高度な数学的解説は用いないよう配慮する。 第１回_イントロダクション 第２回_農業 第３回_農村信用 第４回_教育 第５回_労働移動 第６回_工業化 第７回_技術 第８回_開発金融 第９回_開発援助 第10回_持続可能な開発 第11回_課題報告　農業 第12回_課題報告　教育 第13回_課題報告　労働 第14回_課題報告　工業		
事前・事後学習の内容	テキストの予習と報告内容の復習を行う。		
評価方法	分担報告。		
受講生へのコメント	受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。		
教材	講義中に指示する。		

授業コード	EM20781010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	国際経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on International Economics		
科目ナンバー	EMGRJ1622		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	発展途上国経済に関する文献を読む。		
授業の到達目標	大学院レベルの国際経済および開発経済の知識を得る。		
授業内容・授業計画	文献をまとめ、いくつかのテーマについて討論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_不平等 第３回_貧困 第４回_人口 第５回_高齢化 第６回_教育 第７回_健康 第８回_農業発展 第９回_ミクロ経済学的視点 第10回_国際貿易 第11回_貿易理論 第12回_国際収支 第13回_経済危機 第14回_開発援助		
事前・事後学習の内容	事前に毎回の内容を読み終えておくことが求められる。 毎回の内容から関心の強い分野をレポートとしてまとめる。		
評価方法	分担報告のレポート		
受講生へのコメント	受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。		
教材	演習中に指示する。		

授業コード	EM20011010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	近代経済理論研究		
英語科目授業名	Lecture on Studies of Modern Economic Theory		
科目ナンバー	EMTHJ1601		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	世代重複モデルの研究		
授業の到達目標	マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される、世代重複モデルの基本が、理解できるようになること。		
授業内容・授業計画	マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方がどのように変わるかを検討する。 第１回_授業の進め方の説明 第２回_教科書的世代重複モデル 第３回_教科書的世代重複モデルの含意 第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入 第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度 第６回_固定係数の下での世代重複モデル 第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意 第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度 第９回_中間まとめ 第10回_技術進歩について 第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩 第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩 第13回_技術進歩の一般的効果 第14回_質問と回答		
事前・事後学習の内容	毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。講義終了後に残った 疑問点を整理しておく。		
評価方法	毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	基礎科目であるマクロ分析I・IIを、履修済みであることが望ましい。		
教材	授業の初回に提示する。		

授業コード	EM20021010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	近代経済理論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Studies of Modern Economic Theory		
科目ナンバー	EMTHJ1602		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	世代重複モデルの研究		
授業の到達目標	マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される、世代重複モデルの基本が理解でき、さらに自分で運用ができるようになること。		
授業内容・授業計画	マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方がどのように変わるかを、参加者自ら報告・計算もしながら検討する。 第１回_授業の進め方の説明 第２回_教科書的世代重複モデル 第３回_教科書的世代重複モデルの含意 第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入 第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度 第６回_固定係数の下での世代重複モデル 第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意 第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度 第９回_中間まとめ 第10回_技術進歩について 第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩 第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩 第13回_技術進歩の一般的効果 第14回_質問と回答		
事前・事後学習の内容	毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。毎回の授業終了後に残った 疑問点を整理しておく。		
評価方法	毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	基礎科目であるマクロ分析I・IIを、履修済みであることが望ましい。		
教材	授業の初回に提示する。		

授業コード	EM20031010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代資本主義論研究		
英語科目授業名	Lecture on The Study of The Theories of Modern Capitalism		
科目ナンバー	EMTHJ1603		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	「現代資本主義」はどのような特徴をもっているか？　それはしばしば「新自由主義」「認知資本主義」「レント資本主義」「プラットフォーム資本主義」といった形で呼ばれるが、それらはどういった特徴をもっているのか？　この授業ではマルクス主義のアプローチを基礎として、現代資本主義の特性とその矛盾（経済格差、恐慌、環境破壊など）について考察していく。その際には、マルクスの恐慌論や利潤率の傾向的低下法則、転形問題などが現代資本主義の問題点を分析するうえで、どれほどの妥当性を持つのかについても検討していきたい。		
授業の到達目標	自らの研究に関連した内容を見出し、それを批判的に検討することで、論文執筆のためのアイデアを練る。 読んだ研究文献を元にレジュメ作成・研究報告を行い、ディスカッションを行う。		
授業内容・授業計画	まずは、カール・マルクスの議論を概観する。そのうえで、リーマンショック以降の英米圏での論争を中心に、近年の論文や著作を読みながら、現代資本主義についてのマルクス主義的アプローチを考察していく。ハーヴェイ、フォスター、カルケディ、ブレナー、ロバーツ、クライマンらの議論を中心に現代資本主義が抱える問題点について、議論していきたい。関連テーマについての研究報告も歓迎する。 以下、人名は例とし、参加者の関心などに合わせ、柔軟に変更する。 第１回_イントロダクション 第２回_利潤率の傾向的低下 第３回_マルクスの恐慌論 第４回_マルクスの転形問題とTSSI 第５回_現代資本主義とマルクス 第６回_ハーヴェイの世界金融恐慌論 第７回_フォスターの過少消費説 第８回_フォスターの金融恐慌論 第９回_ブレナーの新自由主義批判 第10回_ブレナーの恐慌論 第11回_クライマンのマルクス擁護 第12回_クライマンの恐慌論 第13回_ロバーツの恐慌論 第14回_資本主義の「成熟」		
事前・事後学習の内容	指定されたテキストを読み、ディスカッションの準備をしておく。 関連文献なども紹介するので、興味や必要に応じて読む機会があれば望ましい。		
評価方法	報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	その度ごとに指定し、配布する。 英語論文が中心となるので注意されたい。		
教材	参加者の関心や研究状況に十分配慮し、論文執筆や学会発表の内容を検討する場所としても自由に使っていただければと思います。		

授業コード	EM20041010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代資本主義論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on The Study of The Theories of Modern Capitalism		
科目ナンバー	EMTHJ1604		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	現代資本主義と世界恐慌の関係について、関連した英語文献についての検討を引き続き行い、また授業で扱っている内容に近いテーマで研究報告を行う。		
授業の到達目標	英語論文を読んで、内容を批判的に検討し、それについてのレジュメ作成、研究報告を行う。		
授業内容・授業計画	引き続き、以下の文献を精読し、ディスカッションを通じて現代資本主義についての考察を深める。 違ったアプローチを比較し、お互いの議論のどういった点に理論的な貢献や限界があるのかを批判的に検討していく。 第１回_イントロダクション 第２回_利潤率の傾向的低下 第３回_マルクスの恐慌論 第４回_マルクスの転形問題とTSSI 第５回_現代資本主義とマルクス 第６回_ハーヴェイの世界金融恐慌論 第７回_フォスターの過少消費説 第８回_フォスターの金融恐慌論 第９回_ブレナーの新自由主義批判 第10回_ブレナーの恐慌論 第11回_クライマンのマルクス擁護 第12回_クライマンの恐慌論 第13回_ロバーツの恐慌論 第14回_資本主義の「成熟」		
事前・事後学習の内容	指定されたテキストを読み、レジュメを作成し、ディスカッションの準備をしておく。 事後には、授業のノートを見て、内容を復習する。		
評価方法	報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	オープンな雰囲気のなかで、自由な議論ができるように心がけたいと思っています。		
教材	その度ごとに指定する。		

授業コード	EM20451010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	マクロ経済学研究		
英語科目授業名	Lecture on Macroeconomic Analysis		
科目ナンバー	EMTHJ1607		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。		
授業の到達目標	制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解した上で新しい研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。 第１回 ガイダンス 第２回 文化と経済発展① 実証 第３回 文化と経済発展② 理論 第４回 文化と経済発展③ 総括 第５回 文化と制度① 私的所有権 第６回 文化と制度② 労使関係 第７回 文化と制度③ 再分配 第８回 文化と制度④ 総括 第９回 家族の絆と信頼① 移住 第10回 家族の絆と信頼② 出産 第11回 家族の絆と信頼③ 総括 第12回 家族とマクロ経済学① 人口動態 第13回 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転 第14回 家族とマクロ経済学③ 総括		
事前・事後学習の内容	参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。		
評価方法	平常点によって評価します。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。		
教材	Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014. M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.		

授業コード	EM20461010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	マクロ経済学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Macroeconomic Analysis		
科目ナンバー	EMTHJ1608		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。		
授業の到達目標	制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解した上で新しい研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。 第１回 ガイダンス 第２回 文化と経済発展① 実証 第３回 文化と経済発展② 理論 第４回 文化と経済発展③ 総括 第５回 文化と制度① 私的所有権 第６回 文化と制度② 労使関係 第７回 文化と制度③ 再分配 第８回 文化と制度④ 総括 第９回 家族の絆と信頼① 移住 第10回 家族の絆と信頼② 出産 第11回 家族の絆と信頼③ 総括 第12回 家族とマクロ経済学① 人口動態 第13回 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転 第14回 家族とマクロ経済学③ 総括		
事前・事後学習の内容	参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。		
評価方法	平常点によって評価します。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。		
教材	Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014. M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.		

授業コード	EM20131010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	統計理論研究		
英語科目授業名	Lecture on Statistics		
科目ナンバー	EMTHJ1627		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	統計学の経済分析への応用である計量経済学の基礎理論を学ぶ。基礎的な計量経済学の手法である、相関、線形回帰、区間推定、検定、時系列分析、多変量解析を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになるのが目標である。理論より応用に重点をおく。		
授業の到達目標	欧米の大学院で標準的なコアコースで取り上げられる計量経済学手法を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになること。		
授業内容・授業計画	テキストとしては，有斐閣NLASシリーズ『統計学』を使い，輪読形式で学ぶ．また，問題練習として，章末問題を解く．なお、内容に関しては受講者に合わせて微調整する余地があるので、要望をガイダンスの際に述べてほしい。 第１回_ガイダンス 第２回_第4章　相関と回帰（1）1節2節 第３回_第4章　相関と回帰（2）3節4節 第４回_第9章　推定（1）1節2節 第５回_第9章　推定（2）3節4節 第６回_第10章　仮説検定（1）1節2節 第７回_第10章　仮説検定（2）3節4節 第８回_第10章　仮説検定（3）5節補論 第９回_第11章　回帰分析の統計理論（1）1節2節 第10回_第11章　回帰分析の統計理論（2）3節4節5節 第11回_第12章　時系列分析の基礎（1）1節2節3節 第12回_第12章　時系列分析の基礎（2）4節5節6節 第13回_第13章　多変量解析の基礎（1）1節2節 第14回_第13章　多変量解析の基礎（2）3節4節 第15回_まとめ		
事前・事後学習の内容	学部レベルの統計学、計量経済学を履修していることが望ましい。 予復習は必須である。		
評価方法	平常点		
受講生へのコメント	基礎こそ大事です！		
教材	森棟他（2015）『統計学（NLASシリーズ）＜改訂版＞』有斐閣		

授業コード	EM20141010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	統計理論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Statistics		
科目ナンバー	EMTHJ1628		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	統計学の経済分析への応用である計量経済学の基礎理論を学ぶ。基礎的な計量経済学の手法である、相関、線形回帰、区間推定、検定、時系列分析、多変量解析を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになるのが目標である。理論より応用に重点をおく。こちらの演習では、問題演習を行う。		
授業の到達目標	欧米の大学院で標準的なコアコースで取り上げられる計量経済学手法を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになること。		
授業内容・授業計画	テキストとしては，有斐閣NLASシリーズ『統計学』を使い，輪読形式で学ぶ．また，問題練習として，章末問題を解く．なお、内容に関しては受講者に合わせて微調整する余地があるので、要望をガイダンスの際に述べてほしい。こちらの演習では、問題演習を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_第4章　相関と回帰（1）1節2節 第３回_第4章　相関と回帰（2）3節4節 第４回_第9章　推定（1）1節2節 第５回_第9章　推定（2）3節4節 第６回_第10章　仮説検定（1）1節2節 第７回_第10章　仮説検定（2）3節4節 第８回_第10章　仮説検定（3）5節補論 第９回_第11章　回帰分析の統計理論（1）1節2節 第10回_第11章　回帰分析の統計理論（2）3節4節5節 第11回_第12章　時系列分析の基礎（1）1節2節3節 第12回_第12章　時系列分析の基礎（2）4節5節6節 第13回_第13章　多変量解析の基礎（1）1節2節 第14回_第13章　多変量解析の基礎（2）3節4節		
事前・事後学習の内容	学部レベルの統計学、計量経済学を履修していることが望ましい。 予復習は必須である。		
評価方法	平常点		
受講生へのコメント	問題演習をいつするか？今でしょ！		
教材	森棟他（2015）『統計学（NLASシリーズ）＜改訂版＞』有斐閣		

授業コード	EM20211010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	社会政策論研究		
英語科目授業名	Lecture on Social Policy		
科目ナンバー	EMHIJ1605		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	社会政策・人口問題の専門知識を習得する。		
授業の到達目標	社会政策と人口問題の今日的動向について理解を深める。		
授業内容・授業計画	社会政策と人口問題の専門知識を提供する。 第１回_　ガイダンス 第２回_　変わる人口潮流 第３回_　日本の人口動向① 第４回_　日本の人口動向② 第５回_　長寿化とその影響 第６回_　少子化とその影響 第７回_　ライフコースの多様化とその影響 第８回_　世界の人口動向① 第９回_　世界の人口動向② 第10回_　世界の人口動向③ 第11回_　少子高齢化時代の政策論議① 第12回_　少子高齢化時代の政策論議② 第13回_　人口変動時代の社会政策 第14回_　まとめ		
事前・事後学習の内容	講義内で指示する課題に取り組むとともに、予習復習を心がける。		
評価方法	平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的に議論に参加してください。		
教材	初回の講義で指定する。		

授業コード	EM20221010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	社会政策論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Social Policy		
科目ナンバー	EMHIJ1606		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	社会政策・人口問題に関する文献資料を検討し、受講者の研究報告について討論する。		
授業の到達目標	社会政策・人口問題に関する文献資料を読み解き、社会政策に関する研究報告をする。		
授業内容・授業計画	文献資料の輪読と受講者の研究報告を予定している。 第１回_　ガイダンス 第２回_　文献資料の要約報告と討論　人口動向 第３回_　文献資料の要約報告と討論　生き方の変化 第４回_　文献資料の要約報告と討論　世界と日本 第５回_　文献資料の要約報告と討論　将来の人口 第６回_　文献資料の要約報告と討論　人口問題と社会政策 第７回_　文献資料の要約報告と討論　社会保障改革 第８回_　受講者による研究発表とコメント　受講者１の報告 第９回_　受講者による研究発表とコメント　受講者２の報告 第10回_　受講者による研究発表とコメント　受講者３の報告 第11回_　受講者による研究発表とコメント　受講者４の報告 第12回_　受講者による研究発表とコメント　受講者５の報告 第13回_　受講者による研究発表とコメント　受講者６の報告 第14回_　まとめ		
事前・事後学習の内容	文献資料の予習（検討）と講義内で出される課題に取り組んでいただく。		
評価方法	平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的に議論に参加してください。		
教材	初回の講義で指定する。		

授業コード	EM20411010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	産業技術論研究		
英語科目授業名	Lecture on Philosophy of Industrial Technologies		
科目ナンバー	EMHIJ1607		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	坂上　茂樹		
科目の主題	産業技術論･技術史を個別的技術領域に沈潜しつつ研究する。		
授業の到達目標	産業技術論･技術史研究に係わる基本的素養の獲得。		
授業内容・授業計画	デジタル･エレクトロニクス技術史を繙く。 第１回_ガイダンス 第２回_産業技術論研究、入門１　バベジの計算機 第３回_産業技術論研究、入門２　チューリング・マシン 第４回_産業技術論研究、入門３　ENIAC 第５回_産業技術論研究、入門４　EDVAC 第６回_産業技術論研究、基礎１　マイコン4004 第７回_産業技術論研究、基礎２　マイコン8008 第８回_産業技術論研究、基礎３　マイコン8080 第９回_産業技術論研究、基礎４　マイコン8086/8088 第10回_産業技術論研究、基礎５　消去型PROM 第11回_産業技術論研究、応用１ ARM6 第12回_産業技術論研究、応用２ LSI C5X 第13回_産業技術論研究、応用３ 第5世代コンピュータ 第14回_産業技術論研究、応用４　AI		
事前・事後学習の内容	研究実績を将来的展望の下に継続･発展させる。		
評価方法	期末レポートによる。		
受講生へのコメント	修士論文から博士論文への計画性を重視します。		
教材	随時選定。		

授業コード	EM20421010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	産業技術論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Philosophy of Industrial Technologies		
科目ナンバー	EMHIJ1608		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	坂上　茂樹		
科目の主題	産業技術論･技術史を個別的技術領域に沈潜しつつ研究し独自の視点を構築する。		
授業の到達目標	産業技術論･技術史研究に係わる応用的素養の獲得。		
授業内容・授業計画	デジタル･エレクトロニクス技術史を繙き、独自の問題を発掘する。 第１回_産業技術論研究入門、文献探索１ 機械式計算機 第２回_産業技術論研究入門、文献探索２ 真空管式計算機 第３回_産業技術論研究入門、文献探索３ チューリング･マシン 第４回_産業技術論研究入門、文献探索４ ノイマン型プログラム内蔵計算機 第５回_産業技術論研究入門、１についての文献批判と考証 第６回_産業技術論研究入門、２についての文献批判と考証 第７回_産業技術論研究入門、３についての文献批判と考証 第８回_産業技術論研究入門、４についての文献批判と考証 第９回_産業技術論研究入門、文献批判と考証：総合 第10回_産業技術論研究入門、１についてのサーヴェイ･レポート執筆･討議 第11回_産業技術論研究入門、２についてのサーヴェイ･レポート執筆･討議２ 第12回_産業技術論研究入門、３についてのサーヴェイ･レポート執筆･討議３ 第13回_産業技術論研究入門、４についてのサーヴェイ･レポート執筆･討議４ 第14回_産業技術論研究入門、サーヴェイ･レポート全体についての総括的討議		
事前・事後学習の内容	既存研究全般を見通す研究を将来的展望の下に進める。		
評価方法	期末サーヴェイ･レポートによる。		
受講生へのコメント	修士論文から博士論文への計画性を重視します。		
教材	随時選定、提供。		

授業コード	EM20711010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	日本経済史研究		
英語科目授業名	Lecture on Economic History of Japan		
科目ナンバー	EMHIJ1609		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	主題は日本経済史の講義であるが、本学期は都市経済史の諸課題を取り上げたい。都市経済史に関する文献および史料を輪読し、重要な論点をめぐって議論を行う。また日本の都市と比較するため、中国の都市も議論の対象としたい。		
授業の到達目標	経済史の基礎知識を固める一方、研究の動向を総合的に把握できることを目標とする。		
授業内容・授業計画	都市経済史の諸課題を取り上げて最先端の研究状況を説明する。事例紹介などを通じて研究の方法論を紹介する。 第１回_オリエンテーション 第２回_都市史研究の現状 第３回_日本の商業都市：大阪 第４回_中国の商業都市：蘇州 第５回_日本の貿易港市：長崎 第６回_中国の貿易港市：広州 第７回_史料の解析：都市の商業空間 第８回_史料の解析：都市運営 第９回_史料の解析：インフラ整備 第10回_史料の解析：都市と流通 第11回_事例紹介：満州国の「新京」 第12回_事例紹介：植民地時代の台北 第13回_総合議論-新しい方法論- 第14回_総合議論-学位論文の作成に向けて- ＊講義の内容が必要と参加者の要望に応じて変更される可能性がある。		
事前・事後学習の内容	輪読する論文を予め読む。毎回のゼミ終了後、議論中に提示された諸論点をまとめて理解を深める。		
評価方法	報告（50%）と討論（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。		
教材	テキスト、特になし。 学術雑誌『都市史研究』各号、『岩波講座　日本歴史』全22巻（岩波書店、2013～2015年）、『日本の対外関係』全7巻（吉川弘文館、2010～2013年）から都市関係の論文を選んで輪読のテキストとする。		

授業コード	EM20721010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	日本経済史研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Economic History of Japan		
科目ナンバー	EMHIJ1610		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	経済史研究および修士・博士学位論文作成の演習。経済史関係の史料を読み、研究ノートという形の報告、および学位論文を作成するための研究報告を実施する。		
授業の到達目標	史料の読解力やデータの分析力を高めることと、学位論文の研究を計画通り進めることを目標とする。		
授業内容・授業計画	参加者の経済史に関する研究の指導を最優先に取り組みたい。第1回では、それぞれの研究課題と進展状況を確かめる。その後の演習では、①研究の計画・構想、②先行研究のまとめ、③史料の紹介・分析、④総合発表、4段階に分けて報告してもらう。 第１回_オリエンテーション 第２回_研究構想の発表　グループ１ 第３回_研究構想の発表　グループ２ 第４回_先行研究のまとめ　グループ１ 第５回_先行研究のまとめ　グループ２ 第６回_史料調査 第７回_史料調査の報告 第８回_史料研究ノート　グループ１ 第９回_史料研究ノート　グループ２ 第10回_第1次研究発表　グループ１ 第11回_第1次研究発表　グループ２ 第12回_第2次研究発表　グループ１ 第13回_第2次研究発表　グループ２ 第14回_全体議論 ＊内容が変更される可能性がある。		
事前・事後学習の内容	報告者は前の週の演習で報告のテーマおよび参考書を予告する。参加者の全員はその参考書を読むことで予習を行う。終了後、演習中の議論の諸論点をまとめることで復習を行う。		
評価方法	報告（50%）と討論（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。		
教材	とくになし		

授業コード	EM21211010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	西洋経済史研究		
英語科目授業名	Lecture on Economic History of Europe		
科目ナンバー	EMHIJ1613		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	塩谷 昌史		
科目の主題	近年の西洋経済史の研究動向の概説をテキストに基づいて行う。最近の経済史の概説では、英米の研究紹介が中心になることが多いが、大陸ヨーロッパの研究動向にも触れてみたい。		
授業の到達目標	教員の講義を通じて、近年の西洋経済史の研究動向を理解できるようにすることである。		
授業内容・授業計画	この授業では、最近刊行された玉木俊明氏の『拡大するヨーロッパ世界』（知泉書館）を基に講義を行う。この著書では、西洋経済史の研究動向をフォローし、斬新な視角を提示しており、その研究内容は世界的な水準に達している。この著作の内容を解説する形で、授業を進めて行きたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_経済が成長するための制度 第３回_イスラームの台頭 第４回_北海・バルト海・地中海経済圏の統合 第５回_大西洋経済の形成 第６回_プロト工業化とは何だったのか？ 第７回_近代世界システムの成立 第８回_数量化・可視化傾向がもたらした変化 第９回_ヨーロッパとアジアの貿易 第10回_ディアスポラの経済史 第11回_ユーラシアにおける商人の商業ネットワーク 第12回_世界を変えたイギリス帝国と情報 第13回_綿花から見た産業革命 第14回_科学技術が経済に及ぼす影響		
事前・事後学習の内容	授業の前に、テキストで指定する章を予め読んできてください。		
評価方法	授業への出席と質疑応答等の積極性、レポート等を加味して評価を行う。		
受講生へのコメント	経済史に関心を持つ院生の方々を歓迎します。		
教材	玉木俊明『拡大するヨーロッパ世界1415-1914』知泉書館、2018年；塩谷昌史『ロシア綿業発展の契機』知泉書館、2014年。		

授業コード	EM21221010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	西洋経済史研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Economic History of Europe		
科目ナンバー	EMHIJ1614		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷 昌史		
科目の主題	近年、西洋経済史研究で重要な概念や方法を提示した文献を授業の中で輪読し、教員がその内容を解説すると同時に、演習の参加者にその概念や方法を個々人の研究の中でどのように応用していけるのかについて、議論することを中心にする。		
授業の到達目標	近年の西洋経済史研究の中で重要と思われる概念と方法を理解し、その応用を考えられるようになることを到達目標としたい。		
授業内容・授業計画	教員の方で重要と思われる、西洋経済史研究の文献リストを予め準備するが、演習の参加者の興味・関心によっては、文献リストの変更も考えている。西洋経済史の主要な概念の理解を目的としているが、他方で院生の研究に資するような文献も取り上げたいと考えている。オリエンテーションで、教員の方向性と院生の方々との関心との調整を行いたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_大塚久雄『近代欧州経済史序説』 第３回_ウォーラーステイン『近代世界システム』 第４回_オブライエン『帝国主義と工業化』 第５回_カーティン『異文化間交易の世界史』 第６回_Caracausi; Jeggle (ed) Commercial Networks and European Cities 第７回_各自の研究テーマに関連する研究の紹介① 第８回_ノース『制度・制度変化・経済成果』 第９回_Van Zanden, The Long Road to the Industrial Revolution 第10回_Riello, Cotton:The Fabric that made the Modern World 第11回_Mokyr, A Culture of Growth: The Origins of the Modern Economy 第12回_フランク『リオリエント』 第13回_ポメランツ『大分岐』 第14回_各自の研究テーマに関連する研究の紹介②		
事前・事後学習の内容	授業の前の週に輪読するテキストを指定するので、事前にテキストを読んできてください。		
評価方法	授業中の質疑応答や、各院生の研究の中間報告の内容等を総合して評価したい。		
受講生へのコメント	教員への要望は、できる限り取り入れて行きたいと考えているので、遠慮なく相談してください。		
教材	テキストや参考書は、その都度、授業の中で指示します。		

授業コード	EM20351010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	流通経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Distribution Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1615		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済論に関係した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文をもとに議論を行なう。		
授業の到達目標	流通経済論関連の論文を読む基礎力を身につけること		
授業内容・授業計画	取上げた論文の解説を行なう 第１回_講義の進め方 第２回_垂直構造 第３回_水平的差別化 第４回_垂直的差別化 第５回_外部性 第６回_エージェンシー 第７回_複数のエージェント 第８回_コモンエージェンシー 第９回_デリゲーション 第10回_アドバースセレクション 第11回_メカニズムデザイン 第12回_小売市場における計量分析 第13回_流通チャネルにおける計量分析 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を読んできて下さい。事後には、授業ノートをもとに理解を深めて下さい。		
評価方法	期末レポートに基づく		
受講生へのコメント	大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とします。		
教材	テキストは特になし、参考書は適宜指示します。		

授業コード	EM20361010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	流通経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Distribution Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1616		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済論に関連した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文の講読を行なった上で、実践的に検証する。		
授業の到達目標	流通経済論関連の論文を読む基礎力を身につけること		
授業内容・授業計画	指導教員が司会となり、取上げた論文について演習参加者全員でディスカッションを行なう 第１回_演習の進め方 第２回_垂直構造 第３回_水平的差別化 第４回_垂直的差別化 第５回_外部性 第６回_エージェンシー 第７回_複数のエージェント 第８回_コモンエージェンシー 第９回_デリゲーション 第10回_アドバースセレクション 第11回_メカニズムデザイン 第12回_小売市場における計量分析 第13回_流通チャネルにおける計量分析 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を読んできて下さい。事後には、授業ノートをもとに理解を深めて下さい。		
評価方法	期末レポートに基づく		
受講生へのコメント	大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とします。		
教材	テキストは特になし。参考書は適宜指示します。		

授業コード	EM20811010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	地方財政論研究		
英語科目授業名	Lecture on Local Public Finance		
科目ナンバー	EMAPJ1627		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	地方財政に関する諸問題の考察に用いられる、理論モデルや実証方法について、受講者の発表やその後の議論のなかで理解していく。		
授業の到達目標	地方財政論の文献について、特に、理論モデルの展開、実証結果が理解できる基礎的な力をつけること。		
授業内容・授業計画	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition), MIT Pressの中の地方財政に強く関連する3つの章（Ch.7 Club Goods and Local Public Goods、 Ch.19 Fiscal Federalism、Ch.20 Fiscal Competition）を輪読する予定である。 （受講者の希望によって文献は適宜な対応をとる。）		
授業内容・授業計画②	第１回　イントロダクション 第２回　Ch.7 Club Goods and Local Public Goods　-Introduction / Definitions- 第３回　Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Single-Product Clubs- 第４回　Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -The Tiebout Hypothsis- 第５回　Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Empirical Tests- 第６回　Ch.19 Fiscal Federalism　-Introduction / Arguments for Multi-level Government- 第７回　Ch.19 Fiscal Federalism　-Optimal Structure: Efficiency vs Stability- 第８回　Ch.19 Fiscal Federalism　-Acountability / Risk-Sharing / Hard and Soft Budgets- 第９回　Ch.19 Fiscal Federalism　-Evidence on decentralization- 第10回　Ch.20 Fiscal Competition　-Introduction- 第11回　Ch.20 Fiscal Competition　-Tax Competition- 第12回　Ch.20 Fiscal Competition　-Income Distribution- 第13回　Ch.20 Fiscal Competition　-Intergovernmental Transfers- 第14回　Ch.20 Fiscal Competition　-Evidence-		
事前・事後学習の内容	当然ながら、発表担当者だけでなく、それ以外の受講生も事前に予習すること。 また、理解できなかった部分は、事後的に講師に必ず相談、確認すること。		
評価方法	報告内容、議論への参加態度、レポートによって評価する。		
受講生へのコメント	指定する文献は、英語で書かれさらに数式モデルの展開が含まれるが、少なくとも大意をつかんでもらうような予習および発表をしてもらえれば、後は担当教員がフォローする。		
教材	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition),MIT Press		

授業コード	EM20821010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	地方財政論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Local Public Finance		
科目ナンバー	EMAPJ1628		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	地方財政に関する問題意識から、関連する最近の先行研究をサーベイする。 さらに、リサーチクエスチョンに対する仮説を構築し、データを用いた実証研究をおこなう。		
授業の到達目標	地方財政論に関する問題意識・課題の鮮明化、先行研究のサーベイができる基礎力を養うこと、 また、実証分析によってオリジナルな知見を習得できる力もつけることを目標とする。		
授業内容・授業計画	調査研究の手順を一通り解説する。その後、各自の関心にもとづき、調査研究を進め、中間および最終発表をしてもらい、それをレポートにまとめ提出してもらう。 第１回　演習の進め方 第２回　サーベイ方法 第３回　問題意識、課題の鮮明化と仮説構築 第４回　仮説の検証戦略 第５回　実践　問題意識の鮮明化 第６回　実践　課題の鮮明化 第７回　実践　仮説構築 第８回　実践　仮説の検証戦略 第９回　中間発表 第10回　実践　調査分析（前）　-データ収集・データマイニング- 第11回　実践　調査分析（中）　-予備的分析- 第12回　実践　調査分析（後）　-回帰分析- 第13回　最終発表１　-グループ1の発表- 第14回　最終発表２　-グループ2の発表-		
事前・事後学習の内容	日ごろから社会経済のニュースに関心をもち、調査研究の対象とするテーマ、問題意識を決めること。 統計分析については、テキスト等を参考にしながら、十分理解することを心がけること。		
評価方法	発表の内容や質疑への参加状況、調査研究の内容		
受講生へのコメント	修士論文（修了論文）に使える調査研究になればよいと思います。		
教材	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition) Wooldridge, J.(2008) Introductory Econometrics:A Modern Approach (fourth editon)		

授業コード	EM20890010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	空間経済学研究		
英語科目授業名	Lecture on Spatial Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1636		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	空間経済学は企業や家計（労働者）といった経済主体の立地を分析対象とする学問である．現実の経済においても，学問の世界においても，立地を分析することの重要性はますます高まってきている．本授業においては，都市（地域）内，都市（地域）間，国際間といった様々な空間スケールで生じる立地メカニズムを，数理的なモデルを通して学習していく．		
授業の到達目標	・空間経済学の主要なモデルを理解できるようになること． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解けるようになること．		
授業内容・授業計画	・スライドを用いた講義を行う． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解く． 第１回_Introduction 第２回_Residential Land Use Model 1 第３回_Residential Land Use Model 2 第４回_Spatial Competitoin 第５回_Monopolistic Competition and New Trade Theory 第６回_New Trade Theory 1: Home Market Effect 第７回_New Trade Theory 2: Welfare Analysis 第８回_Trade Policies and Footloose Capital Model 第９回_New Economic Geography 第10回_Core-Periphery Model 第11回_Quasi-Linear Model and Its Application 第12回_Inter-Firm Linkages and Agglomeration 第13回_Firm Hetergeneity 第14回_Summary		
事前・事後学習の内容	・事前の学習：事前に課題がある場合は必ずやってくること． ・事後の学習：講義で習ったことをよく復習しておくこと．		
評価方法	課題や討論における質および取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	・ミクロ経済学および経済数学の知識が求められる． ・英語論文を読む力が求められる．		
教材	・テキスト：特に指定しない． ・参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	EM20900010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	空間経済学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Spatial Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1635		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	空間経済学は企業や家計（労働者）といった経済主体の立地を分析対象とする学問である．現実の経済においても，学問の世界においても，立地を分析することの重要性はますます高まってきている．本授業においては，都市（地域）内，都市（地域）間，国際間といった様々な空間スケールで生じる立地メカニズムを，数理的なモデルを通して学習していく．		
授業の到達目標	・講義で学んだモデルを受講者自身で解けるようになること． ・関連する英語論文を読み，その内容を理解した上で，問題点や拡張などについて議論できるようになること．		
授業内容・授業計画	・講義で学んだモデルを受講者自身で解く． ・関連する英語論文を読み，その内容や問題点，拡張などについて議論する． 第１回_Introduction 第２回_Residential Land Use Model 1 第３回_Residential Land Use Model 2 第４回_Spatial Competitoin 第５回_Monopolistic Competition and New Trade Theory 第６回_New Trade Theory 1: Home Market Effect 第７回_New Trade Theory 2: Welfare Analysis 第８回_Trade Policies and Footloose Capital Model 第９回_New Economic Geography 第10回_Core-Periphery Model 第11回_Quasi-Linear Model and Its Application 第12回_Inter-Firm Linkages and Agglomeration 第13回_Firm Hetergeneity 第14回_Summary		
事前・事後学習の内容	・事前の学習：事前に課題がある場合は必ずやってくること． ・事後の学習：演習課題についてよく復習しておくこと．		
評価方法	課題やプレゼンテーション，討論の質・取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	・ミクロ経済学および経済数学の知識が求められる． ・英語論文を読む力が求められる．		
教材	・テキスト：特に指定しない． ・参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	EM20591010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	中国経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Chinese Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1603		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	中国の経済発展を数量データを使用して分析することです。		
授業の到達目標	中国の経済発展要因について数量的に把握し、他のアジア諸国との比較を行うことが目標になります。		
授業内容・授業計画	指定された教科書の内容を報告する形式をとります。全員、教科書の内容を予習して参加する必要があります。 第１回_ガイダンス 第２回_中国における産業構造変化の生産性上昇効果（1）TFPについて 第３回_中国における産業構造変化の生産性上昇効果（2）構造変化について 第４回_日本・台湾・韓国における産業構造変化の生産性上昇効果 第５回_中国における道路資本の生産力効果 第６回_日本における社会資本の生産力効果 第７回_中国工業における中小企業の役割（1）資本収益率仮説 第８回_中国工業における中小企業の役割（2）フロンティア生産関数 第９回_中国農村部における中小企業の役割（1）郷鎮企業 第10回_中国農村部における中小企業の役割（2）国有企業 第11回_中国農業の生産関数と過剰労働力の推定（1）ルイスの転換点 第12回_中国農業の生産関数と過剰労働力の推定（2）生産関数分析 第13回_日本・台湾・韓国における職種間賃金格差の縮小と技術進歩 第14回_中国における環境効率性の推計		
事前・事後学習の内容	授業に参加する前に教科書をきちんと読んでおく必要があります。		
評価方法	発表60%レポート40%で採点します。		
受講生へのコメント	中国の経済発展のメカニズムを数量データを使用して分析します。論文の書き方も指導したいと思います。		
教材	森脇祥太著『経済発展の計量分析』成文堂、2008年		

授業コード	EM20601010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	中国経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Chinese Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1604		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	修士論文作成のために必要な知識を得るために中国経済について書かれた文献を読みます。		
授業の到達目標	中国経済の最新のトピックスを文献研究を通じて理解することが目標となります。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_中国経済に関する文献研究（1）1920年代 第３回_中国経済に関する文献研究（2）1930年代 第４回_中国経済に関する文献研究（3）1940年代 第５回_中国経済に関する文献研究（4）中華人民共和国建国期 第６回_中国経済に関する文献研究（5）大躍進政策 第７回_中国経済に関する文献研究（6）文化大革命 第８回_中国経済に関する文献研究（7）改革開放期農業 第９回_中国経済に関する文献研究（8）改革開放期工業 第10回_中国経済に関する文献研究（9）直接投資 第11回_中国経済に関する文献研究（10）国際貿易 第12回_中国経済に関する文献研究（11）環境問題 第13回_中国経済に関する文献研究（12）財政 第14回_中国経済に関する文献研究（13）金融		
事前・事後学習の内容	指定された文献を読んで演習に参加する必要があります。		
評価方法	提出されたレポートで採点します。		
受講生へのコメント	積極的にゼミに参加すること。		
教材	特にありません。		

授業コード	EM20851010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	国際協力論研究		
英語科目授業名	Lecture on International Cooperation		
科目ナンバー	EMGRJ1619		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里		
科目の主題	戦争やテロ、交渉や制度構築など、主に国際政治経済分野における問題に、ゲーム理論や計量分析を用いてどのような研究が行われているか、既存の研究に足りないところは何か、どうすればより高い評価を得られる研究を行うことができるかについて、他の受講生や研究者との意見を交えながら模索する。		
授業の到達目標	現代の国際社会をとりまく様々な問題について、指定された論文を読みながら、原因を追究し、原因から帰結が発生するまでのメカニズムを論理的に説明する力を養う。		
授業内容・授業計画	第１回_Introduction 第２回_Resource Allocation 第３回_The Commitment Problem 第４回_Alliance 第５回_Audience Costs 第６回_Institutions (Reputation and Monitoring) 第７回_Institutions (Entry) 第８回_Civil War (Initiation) 第９回_Civil War (Termination) 第10回_Terrorism 第11回_Foreign Aid and Civil War 第12回_Democratic Peace 第13回_Regime Transition 第14回_Review		
事前・事後学習の内容	・すべての受講生は、その週に指定された論文を読んでくることが期待される。 ・授業の後には、授業内容を踏まえて復習をしておくこと。		
評価方法	・発表とディスカッションへの参加　40% ・レポート　60%		
受講生へのコメント	・受講生は、学部レベルのゲーム理論と計量経済学の知識を有している必要がある。 ・また、専門的な論文の内容を理解できるだけの英語力が求められる。 ・なお授業には、他の教員や外部からの研究者が参加することがある。		
教材	・毎週、授業のテーマにそった論文（英文）を紹介する。論文については、教員のホームページで確認することができる。		

授業コード	EM20861010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	国際協力論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on International Cooperation		
科目ナンバー	EMGRJ1620		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里		
科目の主題	戦争やテロ、交渉や制度構築など、主に国際政治経済分野における問題に、ゲーム理論や計量分析を用いてどのような研究が行われているか、既存の研究に足りないところは何か、どうすればより高い評価を得られる研究を行うことができるかについて、他の受講生や研究者との意見を交えながら模索する。		
授業の到達目標	講義で学んだ内容を踏まえ、以下の点について考察した上で、レポートを作成する。①どのようなパズルが他に考えられるか、②既存のモデルの欠点や考察されていない点はどこか。		
授業内容・授業計画	第１回_Introduction 第２回_Resource Allocation 第３回_The Commitment Problem 第４回_Alliance 第５回_Audience Costs 第６回_Institutions (Reputation and Monitoring) 第７回_Institutions (Entry) 第８回_Civil War (Initiation) 第９回_Civil War (Termination) 第10回_Terrorism 第11回_Foreign Aid and Civil War 第12回_Democratic Peace 第13回_Regime Transition 第14回_Review		
事前・事後学習の内容	・すべての受講生は、その週に指定された論文を読んでくることが期待される。 ・授業の後には、授業内容を踏まえて復習をしておくこと。		
評価方法	・発表とディスカッションへの参加　40% ・レポート　60%		
受講生へのコメント	・受講生は、学部レベルのゲーム理論と計量経済学の知識を有している必要がある。 ・また、専門的な論文の内容を理解できるだけの英語力が求められる。 ・なお授業には、他の教員や外部からの研究者が参加することがある。		
教材	・毎週、授業のテーマにそった論文（英文）を紹介する。論文については、教員のホームページで確認することができる。		

授業コード	EM20870010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	世界経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on World Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1627		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉える。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスを修論執筆をはじめとする自身の研究に活かすことができる。		
授業内容・授業計画	まず西洋経済史を中心に経済史を概観して、資本制に関する理解を深める。ついで世界経済の段階規定を行い、さらに現代世界経済の把握へと進む。 　受講生の状況や要望に応じ、担当者による全面的な講義形式とするか、ゼミ形式で受講生に輪読で報告してもらったうえで議論するか、授業の運営形態については柔軟に考えたい。 第１回_経済学と経済政策 —この学問の成り立ち 第２回_資本制の起源 —農民層分解と三大階級、さらに現代の経営 第３回_産業革命と社会の変容 —その何次めかにある今日 第４回_最初のグローバリゼーション —工業製品輸出の世界化 第５回_中進国のキャッチアップ —手段としての関税と国民市場 第６回_19世紀後半の時代状況と明治維新 —間に合った産業化 第７回_貿易思想と産業育成政策 —WTO創設に伴うこのアプローチの射程 第８回_戦後日本の分断 —国際競争に曝されているセクターとそれ以外 第９回_ソ連型社会主義の挑戦と後退 —線型発展史観の動揺 第10回_世界システム論の貢献 —基軸経済論との対比 第11回_冷戦の終結とグローバリゼーション —勢力圏分割の終焉 第12回_雁行形態論とPLC仮説 —それらの前提の溶解 第13回_国際通貨システムの変容 —2つの本位制の解体 第14回_地域経済統合と自由貿易体制の行方 —ドイツ関税同盟からEU、その先へ		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深める。関連文献にもできるだけ眼を通すよう心がける。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	問題意識をもって参加されたい。		
教材	拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版，2017年第2刷）		

授業コード	EM20880010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	世界経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on World Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1628		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	世界経済の動態を捉え、その中での多国籍企業ならびにグローバル企業の到達段階について解明する。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスを修論執筆をはじめとする自身の研究に活かすことができる。		
授業内容・授業計画	多国籍企業の出現、グローバル企業の登場を焦点とする現代世界経済の把握を行う。 　授業は、随時受講生の研究発表を行うとともに、テキストとして関連するテーマの英書を選定し輪読を行う。 　留学生主体の場合には、日本語文献をもって代える場合もある。 第１回_自己紹介と全体のガイダンス 第２回_各自の卒論と研究計画の概要の報告 第３回_テキストの輪読① 第４回_テキストの輪読② 第５回_テキストの輪読③ 第６回_テキストの輪読④ 第７回_テキストの輪読⑤ 第８回_各自の研究テーマに関連する先行研究の紹介① 第９回_各自の研究テーマに関連する先行研究の紹介② 第10回_テキストの輪読⑥ 第11回_テキストの輪読⑦ 第12回_テキストの輪読⑧ 第13回_テキストの輪読⑨ 第14回_総括の報告		
事前・事後学習の内容	各自が修論執筆に勤しむことはもとよりであるが、本演習を通じて極力視野を広げることを心がけられたい。		
評価方法	演習の平常点を5割、論文の執筆状況を5割として評価する。		
受講生へのコメント	問題意識をもって参加されたい。		
教材	開講時に指示する。		

授業コード	EM10011010	開講年度・学期	2019年度前期、2019年度後期
科目授業名	前期研究指導1		
英語科目授業名	Research Guidance for the Master's Course 1		
科目ナンバー	EMRGJ1501		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙1参照		
科目の主題	修士論文作成に必要な研究手法を習得させる。		
授業の到達目標	当該分野の必読文献を読破し、研究に必要な諸概念を十分に理解する。 また、理論的研究、実証的研究、制度的研究など、分野に応じてそれぞれの研究手法の基礎を習得する。		
授業内容・授業計画	少人数のゼミ形式で、当該分野における研究の現状把握及び研究手法の基礎作りを行う。 また、論文テーマの絞り込みを指導する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書を読み、理解が不十分なところを補いゼミでの報告に備える。 復習として、各回ゼミでの報告と討論を通じて理解が不十分と指摘された点、さらに検討すべき点について、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	各自の研究テーマに関する最先端の研究について正確な理解が、まず求められる。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

授業コード	EM10021010	開講年度・学期	2019年度前期、2019年度後期
科目授業名	前期研究指導2		
英語科目授業名	Research Guidance for the Master's Course 2		
科目ナンバー	EMRGJ3601		
単位数	4単位	授業形態	
担当教員氏名（代表含む）	別紙1参照		
科目の主題	修士論文作成について指導する。		
授業の到達目標	研究手法を習熟させ、充実した修士論文の作成をめざす。		
授業内容・授業計画	少人数のゼミ形式で、当該分野における研究の現状把握及び研究手法の基礎作りを行う。 また、論文テーマの絞り込みを指導する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書を読み、理解が不十分なところを補いゼミでの報告に備える。 復習として、各回ゼミでの報告と討論を通じて理解が不十分と指摘された点、さらに検討すべき点について、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	担当教員が個別に指示する。		
教材	「前期研究指導1」を受けていることが前提である。 また、修士論文作成においては、助言教員の研究指導と助言を仰ぐ必要がある。		

授業コード	EM10050010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	ワークショップ		
英語科目授業名	Workshop		
科目ナンバー	EMRGJ2511		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森　誠、中川　満		
科目の主題	修了レポート・論文の構想をたてます。先行研究を調べ、それを発表することを通じて、研究の準備を行います。		
授業の到達目標	自分の興味ある研究分野を理解することを目標にします。それに付随して、サーベイが行える、そして、それを発表できることも必要です。		
授業内容・授業計画	お手本として、担当者がサーベイと研究を発表します。そのもと、参加者が各自の興味のもと、サーベイしそれを発表します。 第１回_イントロダクション 第２回_教員（森）によるサーベイ 第３回_教員（中川）によるサーベイ 第４回_テーマの紹介と選択 第５回_研究動機の発表と質疑 第６回_研究テーマの一時的な発表 第７回_データ収集と分析の仕方 第８回_研究テーマの最終的な発表と質疑 第９回_サーベイの途中経過の発表 第10回_サーベイの本報告 第11回_サーベイに対する添削 第12回_添削に基づく質疑応答 第13回_サーベイの最終報告 第14回_参加者による意見交換		
事前・事後学習の内容	講義時に学んだ研究の進め方をもとに、各自、経済分析の行い方への理解を深めること。		
評価方法	講義時の報告、出席等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。		

授業コード	EM10060010	開講年度・学期	2019年度前期、2019年度後期
科目授業名	修了論文指導		
英語科目授業名	Supervision for Final Paper		
科目ナンバー	EMRGJ3611		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙1参照		
科目の主題	修了論文作成に必要な研究上の指導を行う。		
授業の到達目標	研究手法の一層の習熟及び修了論文作成に必要な知見を習得する。		
授業内容・授業計画	ゼミで論文草稿を報告し、内容について議論する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_最終報告		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書を読み、理解が不十分なところを補いゼミでの報告に備える。 復習として、ゼミでの報告と討論を通じて理解が不十分と指摘された点、さらに検討すべき点について、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成したか、平常点、ゼミにおける論文草稿報告等により総合的に判断する。		
受講生へのコメント	「ワークショップ」を受けていることが前提である。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

前期研究指導 1・2　及び　修了論文指導　担当教員一覧

理論経済分野

○中嶋　哲也：近代経済理論（経済成長理論及び不況理論の研究）
○中島　義裕：複雑系経済学（理論・実証・計算機実験による市場の進化的理解）
○中村　英樹：数量経済分析論（国内不平等、機械化の影響）
○森　　誠：マクロ経済動学（分配・投資行動と資本主義経済の成長）
○岡澤　亮介：マクロ経済学（マクロ経済学の制度と経済成長、公共選択論）
○北原　　稔：ミクロ経済学（応用ミクロ経済学）
○齋藤　幸平：現代資本主義論（『資本論』研究、環境政治経済学）
○中川　　満：統　計　理　論（単位根分析に対する構造変化の影響に関する研究）

経済史・経済思想分野

○坂上　茂樹：産業技術論（技術史論に基づく産業技術論）
○中村　健吾：社会思想史（マックス・ヴェーバー研究、欧州統合と国民国家、シティズンシップと人権）
○若森みどり：経済学説史（カール・ポランニー研究、現代社会経済思想、経済思想史）
○塩谷　昌史：西洋経済史（ロシア地域研究、近代統計制度の比較経済史）
○杉田　菜穂：社会政策論（日本を中心とする人口問題と社会政策の歴史研究）
○彭　　浩：日本経済史（海外貿易と国内の産業構造の相互関連、貿易制度・商人組織の史的研究）

応用経済分野

○浦西　秀司：産業経済論（公益事業の規制政策に関する計量分析）
○滋野由紀子：日本経済論（日本経済と家計行動の相互関連）
○髙塚　　創：空間経済学（空間経済の諸問題に関する研究）
○辻　　賢二：金融経済論（金融契約に関する理論モデル分析）
○福原　宏幸：労働経済論（失業・非正規雇用、貧困および社会的排除についての研究）
○松本　　淳：財政政策論（公的年金制度改革、年金課税、日本の社会保障制度と租税制度の関係について）
○小川　　亮：地方財政論（地方財政および都市・地域経済に関する実証研究）
○柴田　　淳：流通経済論（生産から消費に至るまでの分業と価格形成メカニズムの分析）

グローバル経済分野

○C. ウェザーズ：比較労使関係論（日本と欧米の雇用制度と政治経済の比較研究）
○有賀　敏之：世界経済論（多国籍企業・グローバル企業、国際貿易体制に関する研究）
○金子　勝規：東南アジア経済論（タイ地域研究、ASEAN 経済論、社会開発および社会福祉に関する実証分析）
○久保　彰宏：国際経済論（国際マクロ経済分析）
○朴　　一：東アジア経済論（朝鮮半島地域研究、日韓・日朝関係論、国際労働移動及び移民労働者に関する実証研究）
○森脇　祥太：経済開発論・中国経済論（アジア諸国を対象とした経済発展の比較研究）
○岩波由香里：国際協力論（国際制度を通じた国家間協力に関する国際政治経済分析）

後期博士課程

分野科目

研究指導

授業コード	ED20191010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	ミクロ経済学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Microeconomic Analysis		
科目ナンバー	EDTHJ1709		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	産業組織に関わるミクロ経済学的分析に触れる。		
授業の到達目標	企業行動について、ミクロ経済学的（特に、ゲーム理論的）な視点を持てる様になる。また、数値例でそれを確かめられる様になる。		
授業内容・授業計画	主に、講義形式で行う。 第1回　ガイダンス 第2回　完全競争 第3回　寡占：数量競争 第4回　寡占：価格競争 第5回　2～4回補論 第6回　価格差別 第7回　垂直的関係 第8回　製品差別化 第9回　6～8回補論 第10回　広告 第11回　ネットワーク外部性 第12回　研究開発 第13回　参入・退出 第14回　10～13回補論		
事前・事後学習の内容	ガイダンス時に指示する。		
評価方法	主に、宿題により評価する。		
受講生へのコメント	まずは授業で扱う様な数値例のレベルでよいので、自身の研究に関しても、モデルを用いた議論もできる様になってもらえればと思う。		
教材	参考書：Belleflamme, P. and Peitz, M. (2015) Industrial Organization: Market and Strategies, 2nd ed., Cambridge University Press.（書籍HPにてスライド版無料ダウンロードサービスあり。）		

授業コード	ED20201010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	ミクロ経済学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Microeconomic Analysis		
科目ナンバー	EDTHJ1710		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	ミクロ経済学に関する最新の研究に触れる。また、それを参考に、研究計画を立ててみる。		
授業の到達目標	各研究で何が行われているかを把握する。また、それを参考にどの様な研究計画が立てられるものなのかを知る。特に、様々なトピックが分析可能であること、また、どの様に分析できるのか、分析に際してどの様な注意が必要となって来るのかについて知る。		
授業内容・授業計画	NBER Digest（ニュース性の高い最新研究の一般向け要約が毎月四本以上掲載されている。）の記事を輪読する。扱う記事については、参加者の希望も聞きながら決めて行く。参考までに、以下が、前回同様の形式を取った際に扱った記事の一部である。 「Labor Supply and the Old Age Assistance Program」（2016年6月記事） 「Did a Legal Ivory Sale Increase Smuggling and Poaching?」（2016年9月記事） 「To Change, or Not to Change? Just Flip a Coin」（2016年10月） 「Can Online Delivery Increase Access to Education?」（2017年1月記事） 「Does `Gift Exchange' Increase Charitable Giving?」（2017年1月記事） 「The Immigrant as Innovator」（2017年4月記事） 「Benefits and Costs of Healthier School Lunches 」（2017年6月記事） 「Lead Exposure Linked to School Problems and Crime」（2017年7月記事） 「What Happens When Refugees Come to the United States」（2017年8月記事） 「The `Daughter Effect' at Venture Capital Firms」（2017年9月記事） 「Declining Work Hours and the Rise in Young Men's Gaming」（2017年9月記事） 「Investing in Colleges Boosts Attainment More than Tuition Cuts」（2017年10月記事） 「Explaining the Good Fortune of Dragon Year Children」（2017年11月記事） 「Shore Dwellers Perceive Less Risk from Flooding」（2017年12月記事） 「Performance Ticket Auctions: Going, Going, Gone」（2017年12月記事）		
事前・事後学習の内容	報告者は、報告回で出た疑問点について、次回までに調べておく。また、関連する統計について調べる。報告者以外も、記事と論文のアブストラクトには目を通し、疑問点を整理しておく。また、次回までに、報告記事を参考にした模擬研究計画を検討しておく。		
評価方法	自分の担当回における報告及び他人の担当回におけるコメント、また、最終的に提出する模擬研究計画により評価する。		
受講生へのコメント	大学院基礎レベルのミクロ経済学、計量経済学を習得済みであると、より有意義であろう。		
教材	大学院基礎レベルのミクロ経済学（例：Mas-Colell et al. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press）、計量経済学（例：Wooldridge (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, Thomson Southern）の教科書。（購入の必要は無いが、あると便利かも知れない。）		

授業コード	ED21031010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	複雑系経済学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economics of Complex Systems		
科目ナンバー	EDTHJ1713		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	創発や進化と言った複雑系の諸概念の理解と、エージェント・ベース・シミュレーション(ABS)という研究技法の習得を目的とした研究と演習を行う。複雑系研究及びABSの技法は、その多くが物理学や数学の研究分野で生み出されたものである一方で、地震や破壊、浸透などの地学、物理学分野や群れ行動、捕食被食関係などの生態学分野、人間関係などのネットワーク科学分野など多くの分野で応用され、学際的研究の代表例の一つとなっている。経済現象においても、株価変動や都市の形成、交通渋滞などで用いられている。この授業では、経済学分野における最近の研究についてサーベイする。更に、その研究を発展させるための論点について討議する。		
授業の到達目標	自ら発見した課題をモデル化し、エージェント・ベース・シミュレーションによって研究できる能力を身につけることを目標にする。		
授業内容・授業計画	複雑系研究の論文論文集を講読する。各人が、テキストのレジュメを作成し、授業では、そのレジュメに基づいた発表と、その内容についての討論を行う。後期課程の学生は、討議を進行するためのファシリテータとしての役割も担う。 第１回_ガイダンス 第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price 第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China 第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends? 第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System. 第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market 第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation 第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire 第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption 第10回_Why Should the Economy be Competitive? 第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle 第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics 第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure 第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction		
事前・事後学習の内容	文献のレジュメを作成し、討議するための論点を見つける。		
評価方法	授業での報告内容や討議への参加で評価する。		
受講生へのコメント	エージェント・ベース・シミュレーションで研究を行いたい学生の受講を望む。		
教材	Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011		

授業コード	ED21041010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	複雑系経済学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Economics of Complex Systems		
科目ナンバー	EDTHJ1714		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	エージェント・ベース・シミュレーションによる研究を遂行するためには、モデルをコンピュータ上で実行するためのプログラミング能力のみならず、パラメータ・サーベイを行うためのバッチ処理、膨大に得られるデータを分析する、データマイニング技術など様々な技能が必要である。この演習では、既存研究を再現することで、これら能力を涵養する。		
授業の到達目標	エージェント・ベース・シミュレーションを用いた研究を完成させるために必要な能力を身に着けることを目標にする。		
授業内容・授業計画	ペア科目である「複雑系経済学特殊研究」で用いた論文で扱っているシミュレーションを再現するとともに、新しい結果について報告する。また、その独自の結果についての討議をファシリテートする。 第１回_ガイダンス 第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price 第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China 第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends? 第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System. 第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market 第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation 第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire 第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption 第10回_Why Should the Economy be Competitive? 第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle 第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics 第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure 第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction		
事前・事後学習の内容	「複雑系経済学特殊研究」で取り上げた論文について、シミュレーションを実施し、論文の中に出てくる+M87:M88図表を再現する。更に、論文で触れられていないシミュレーション結果を出し、その結果に関する討議内容を準備する。		
評価方法	授業での報告内容やディスカッションへの参加で評価する。		
受講生へのコメント	javaによるプログラムが必要である。		
教材	Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011		

授業コード	ED20071010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	マクロ経済動学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Dynamic Macroeconomics		
科目ナンバー	EDTHJ1719		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森　誠		
科目の主題	マクロ経済学における長期にわたる最適化の議論のより進んだ内容を講義する。		
授業の到達目標	ミクロ的基礎を持つマクロ経済学の最近の議論について、より進んだ内容を理解することを目標とする。		
授業内容・授業計画	テキストを利用しながらマクロ経済動学のより進んだ理論を講義する。 第１回_ガイダンス 第２回_従来の経済成長論　1-Solowモデル- 第３回_従来の経済成長論　2-技術進歩と成長- 第４回_合理的期待　1-Muthモデル- 第５回_合理的期待　2-Caganモデル- 第６回_ラムゼーモデル　1-最大値原理- 第７回_ラムゼーモデル　2-市場均衡- 第８回_ラムゼーモデル　3-政府支出- 第９回_世代重複モデル　1-2期間モデル- 第10回_世代重複モデル　2-Diamondモデル- 第11回_世代重複モデル　3-年金- 第12回_内生的成長モデル　1-AKモデル- 第13回_内生的成長モデル　2-Romerモデル- 第14回_内生的成長モデル　3-内生的な生産性増加-		
事前・事後学習の内容	講義前にはテキストの該当箇所を理解するのに必要な知識を復習する必要がある。講義後には理解が不十分だった箇所を他の文献等で理解を確実なものにすること。		
評価方法	平常点あるいはテストで評価する。		
受講生へのコメント	マクロ経済動学研究と演習を受講しておくことが望ましい。		
教材	Benassy(2011)Macroeconomic Theory,Oxford		

授業コード	ED20081010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	マクロ経済動学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Dynamic Macroeconomics		
科目ナンバー	EDTHJ1720		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森　誠		
科目の主題	マクロ経済学における長期にわたる最適化の議論についてより進んだ内容を理解する。		
授業の到達目標	ミクロ的基礎を持つマクロ経済学の最近の議論について、より進んだ内容を理解することを目標とする。		
授業内容・授業計画	テキストを利用しながらマクロ経済動学のより進んだ理論の報告および討論を行う。また、練習問題を解く。 第１回_ガイダンス 第２回_従来の経済成長論　1-Solowモデル- 第３回_従来の経済成長論　2-技術進歩と成長- 第４回_合理的期待　1-Muthモデル- 第５回_合理的期待　2-Caganモデル- 第６回_ラムゼーモデル　1-最大値原理- 第７回_ラムゼーモデル　2-市場均衡- 第８回_ラムゼーモデル　3-政府支出- 第９回_世代重複モデル　1-2期間モデル- 第10回_世代重複モデル　2-Diamondモデル- 第11回_世代重複モデル　3-年金- 第12回_内生的成長モデル　1-AKモデル- 第13回_内生的成長モデル　2-Romerモデル- 第14回_内生的成長モデル　3-内生的な生産性増加-		
事前・事後学習の内容	演習前にはテキストの該当箇所を理解するのに必要な知識を復習し報告の準備をする。演習後には理解が不十分だった箇所を他の文献等で理解を確実なものにすること。		
評価方法	平常点あるいはテストで評価する。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	Benassy(2011)Macroeconomic Theory,Oxford		

授業コード	ED20111010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	数量経済分析論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Quantitative Analyses of Economics		
科目ナンバー	EDTHJ1725		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	経済発展論において、いくつかの視点から理論分析を行う。		
授業の到達目標	経済発展に関するいくつかのテーマを学びながら、理論分析が行えるようになる。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて、個別指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_経済発展論：イントロダクション 第３回_貧困の罠：説明 第４回_貧困の罠：投資、教育、出生 第５回_理論分析に関する数学の復習 第６回_経済発展の可能性：説明 第７回_経済発展の可能性：生産技術 第８回_経済発展の可能性：教育、その他 第９回_複数均衡：生産技術 第10回_複数均衡：所得格差と絡めて 第11回_Unified growth theory：説明 第12回_Unified growth theory：サーベイ 第13回_経済発展論：補足 第14回_統計分析：説明		
事前・事後学習の内容	講義をもとに、各自、経済分析の行い方への理解を深めること。		
評価方法	経済分析を行う能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。		

授業コード	ED20121010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	数量経済分析論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Quantitative Analyses of Economics		
科目ナンバー	EDTHJ1726		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	いくつかの理論分析と統計分析を学習しながら、経済理論や統計手法を用いた分析を自ら行う。		
授業の到達目標	経済理論と統計分析を習得し、それらを使って論文が書けることを目標とする。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて、個別指導を含め、具体的な研究の進め方を学ぶ。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。 第１回_イントロダクション（ガイダンス） 第２回_テーマ選定 第３回_既存の論文報告(グループ1)と議論：理論的考察 第４回_論文報告（グループ１）と議論：実証的検討 第５回_報告から必要となった理論分析の学習 第６回_報告から必要となった統計分析の学習 第７回_セミナー（他大学の研究者発表を聴講） 第８回_論文報告（グループ２）と議論：理論的考察 第９回_論文報告（グループ２）と議論：実証的検討 第10回_論文報告（グループ２）と議論：拡張の検討 第11回_報告から必要となった理論分析の復習 第12回_報告から必要となった統計分析の復習 第13回_セミナー（研究者発表２、質疑応答を課す） 第14回_これまでの発表の中から選定し再発表		
事前・事後学習の内容	予習として、研究論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、自ら補足すること。		
評価方法	経済を分析する能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は適宜紹介する。		

授業コード	ED20151010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	経済学説史研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on History of Political Economy		
科目ナンバー	EDHIJ1701		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	資本主義や市場経済の歴史と制度についての経済学思想家たちを取り上げる。とりわけ経済学史に関しては、20世紀前半のジョン・メイナード・ケインズ、カール・ポランニー、ヨゼフ・シュンペーター、フリードリッヒ・ハイエクの市場経済についての見解に照明を当てる。そしてネオリベラリズムが政治領域を席巻するに至った１９７０年代以降、現代にいたる資本主義と市場経済の歴史と制度について考察する。経済学の巨人たちは、社会・経済・政治思想（史）を領域横断的に闊歩し、自分の生きた時代を診断し、その問題と格闘するなかで、現代の私たちにとってもさまざまな示唆を与える古典的な著作をあらわした。本講義では、そうのような経済思想家たちの見解を学びながら報告・討論を行う。また、参加者の研究テーマや研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	自らの研究テーマに関連する先行研究を深く理解し、それらを経済学史・思想史的な方法を用いて、明快かつ論理的に報告できるようになることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	主たるテキストの各章や担当箇所を精読したうえで、レジュメを作成・報告し、それをもとにディスカッションや研究指導を行う。 第１回_講義の進め方（テキストを見ながら、担当者を決定）、現代経済学の系譜図 第２回_現代に甦るケインズ 第３回_J.M.ケインズと不確実性の時代 第４回_世界経済危機の「救済者」としてのケインズ、幻となったケインズの戦後秩序構想 第５回_P.サミュエルソンと「米国版ケインズ経済学」の誕生 第６回_J.K.ガルブレイスの政治経済学（制度の経済学） 第７回_H.ミンスキーの金融不安定性仮説、リーマンショックによる「復活」 第８回-反ケインズ革命の英雄、ガルブレイスの天敵　M.フリードマン 第９回_「経済学帝国主義」の推進者たち　G.ベッカー、R.ポズナー、R.ルーカス 第10回_F.ハイエクの「自生的秩序」としての市場観 第11回_市場経済への根源的批判者　K.ポランニー 第12回-２１世紀の資本主義はなぜ危機を抜け出せないのか 第13回_新しい（偽？アメリカ中心的発想？）ケインズ経済学者P.クルーグマン、リーマンショックを予言したR.シラー 第１４回_ワシントンコンセンサスを批判したJ.スティグリッツ、総括		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。受講後に、講義に用を踏まえ、自身の研究テーマと関連付けた生レポートを提出すること（詳細は講義中に指示する）。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	自らの知識や視野を日々、確かにするための時間を確保してください。図書館（学術情報総合センターの２階には新聞や神官や雑誌のコーナーもあります）に通う習慣を身につけること、生協や大きな書店の社会科学コーナーに立ち寄りあれこれと書籍を手に取っているうちに、専門分野以外から良い刺激を受けることがあります。各自の研究が着実に進むように、必読の先行研究文献を探し、いくつかを丁寧に読み、レジュメを作るといいでしょう。		
教材	最初に読むテキストとして次のものを指定する。各自、生協などで購入してから、最初の授業に出席すること。 東谷暁（ひがしたに　さとし）『経済学者の栄光と敗北―ケインズからクルーグマンまで１４人の物語』朝日新書、2013年。		

授業コード	ED20161010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	経済学説史研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on History of Political Economy		
科目ナンバー			
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	資本主義や市場経済の歴史と制度についての経済学思想家たちを取り上げる。とりわけ経済学史に関しては、20世紀前半のジョン・メイナード・ケインズ、カール・ポランニー、ヨゼフ・シュンペーター、フリードリッヒ・ハイエクの市場経済についての見解に照明を当てる。そしてネオリベラリズムが政治領域を席巻するに至った１９７０年代以降、現代にいたる資本主義と市場経済の歴史と制度について考察する。経済学の巨人たちは、社会・経済・政治思想（史）を領域横断的に闊歩し、自分の生きた時代を診断し、その問題と格闘するなかで、現代の私たちにとってもさまざまな示唆を与える古典的な著作をあらわした。本講義では、そうのような経済思想家たちの見解を学びながら報告・討論を行う。また、参加者の研究テーマや研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	自らの研究テーマに関連する先行研究を深く理解し、それらを経済学史・思想史的な方法を用いて、明快かつ論理的に報告できるようになることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	主たるテキストの各章や担当箇所を精読したうえで、レジュメを作成・報告し、それをもとにディスカッションや研究指導を行う。 第１回_講義の進め方（テキストを見ながら、担当者を決定）、現代経済学の系譜図 第２回_現代に甦るケインズ 第３回_J.M.ケインズと不確実性の時代 第４回_世界経済危機の「救済者」としてのケインズ、幻となったケインズの戦後秩序構想 第５回_P.サミュエルソンと「米国版ケインズ経済学」の誕生 第６回_J.K.ガルブレイスの政治経済学（制度の経済学） 第７回_H.ミンスキーの金融不安定性仮説、リーマンショックによる「復活」 第８回-反ケインズ革命の英雄、ガルブレイスの天敵　M.フリードマン 第９回_「経済学帝国主義」の推進者たち　G.ベッカー、R.ポズナー、R.ルーカス 第10回_F.ハイエクの「自生的秩序」としての市場観 第11回_市場経済への根源的批判者　K.ポランニー 第12回-２１世紀の資本主義はなぜ危機を抜け出せないのか 第13回_新しい（偽？アメリカ中心的発想？）ケインズ経済学者P.クルーグマン、リーマンショックを予言したR.シラー 第１４回_ワシントンコンセンサスを批判したJ.スティグリッツ、総括		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。受講後に、講義に用を踏まえ、自身の研究テーマと関連付けた生レポートを提出すること（詳細は講義中に指示する）。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	自らの知識や視野を日々、確かにするための時間を確保してください。図書館（学術情報総合センターの２階には新聞や神官や雑誌のコーナーもあります）に通う習慣を身につけること、生協や大きな書店の社会科学コーナーに立ち寄りあれこれと書籍を手に取っているうちに、専門分野以外から良い刺激を受けることがあります。各自の研究が着実に進むように、必読の先行研究文献を探し、いくつかを丁寧に読み、レジュメを作るといいでしょう。		
教材	最初に読むテキストとして次のものを指定する。各自、生協などで購入してから、最初の授業に出席すること。 東谷暁（ひがしたに　さとし）『経済学者の栄光と敗北―ケインズからクルーグマンまで１４人の物語』朝日新書、2013年。		

授業コード	ED20171010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	社会思想史研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on History of Social Thought		
科目ナンバー	EDHIJ1703		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	国境を超える人の移動が活発化し、ナショナルなものの境界線が揺らぎつつあるなかで、ポストナショナルなシティズンシップ（市民権）に関するさまざまな構想が提唱され、一部では実施に移されている。この授業では、シティズンシップのポストナショナルな諸形態を実現しつつあるEUの試みを見ていく。		
授業の到達目標	授業では、マーストリヒト条約（1993年）で導入されたEUシティズンシップ、リスボン条約（2009年）によって法的拘束力を得たEU基本権憲章、2003年の長期居住者指令、2010年の難民指令などを見ていくことになる。その際、英語の専門的研究文献の読解能力を高めることを目標にすえる。		
授業内容・授業計画	まずは、シティズンシップの概念、および移民・難民の地位身分を理解するうえで基本となる、T.H.マーシャルとH.アーレントの古典ともいうべき著作を日本語で読む。その後、ポストナショナルなシティズンシップをめぐる議論と、EUによるシティズンシップの改革の試み（欧州委員会が2000年に提示したのは、civic citizenshipという構想であった）とを、英語の文献を用いて概観する。		
授業内容・授業計画②	第１回 イントロダクション：問題の所在 第２回 下記のテキスト①の輪読その１：シティズンシップ概念の理解 第３回 下記のテキスト①の輪読その２：社会的シティズンシップの含意 第４回 下記のテキスト②の輪読その１：人権とシティズンシップの違い 第５回 下記のテキスト②の輪読その２：権利と公共圏 第６回 EUシティズンシップに関する文献の検討 第７回 EU基本権憲章に関する文献の検討 第８回 postnational citizenshipに関する文献の検討 第９回 EUにおけるcivic citizenshipに関する文献の検討 第10回 EUの長期居住者指令に関する文献の検討 第11回 EUの家族結合指令に関する文献の検討 第12回 EUにおけるcivic integration政策の動向１：オランダ 第13回 EUにおけるcivic integration政策の動向２：ドイツ 第14回 EUの難民指令の検討		
事前・事後学習の内容	受講に際しての予備知識は不要だが、毎回の授業の予習には相当の時間を要する。		
評価方法	学期末の研究報告書により成績を評価する。		
受講生へのコメント	移民・難民問題に関心を寄せる諸君の受講を期待する。		
教材	テキスト①：T.H.マーシャル／T.ボットモア『シティズンシップと社会的階級』法律文化社。 テキスト②：H.アーレント『全体主義の起源２：帝国主義』みすず書房、第５章「国民国家の没落と人権の終焉」（コピーを配布）。		

授業コード	ED20181010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	社会思想史研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on History of Social Thought		
科目ナンバー	EDHIJ1704		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	国境を超える人の移動が活発化し、ナショナルなものの境界線が揺らぎつつあるなかで、ポストナショナルなシティズンシップ（市民権）に関するさまざまな構想が提唱され、一部では実施に移されている。この授業では、シティズンシップのポストナショナルな諸形態を実現しつつあるEUの試みを見ていく。		
授業の到達目標	この演習では、EUによる共通民政策とEU加盟国における移民・難民の受け入れの現状を理解するにとどまらず、そうした現状を批判的に評価するための規範的な視座を獲得することを目標にすえる。また、英語文献を用いたプレゼンテーション能力の向上を図る。		
授業内容・授業計画	まずは、シティズンシップの概念、および移民・難民の地位身分を理解するうえで基本となる、T.H.マーシャルとH.アーレントの古典ともいうべき著作を日本語で読む。その後、ポストナショナルなシティズンシップをめぐる議論と、EUによるシティズンシップの改革の試み（欧州委員会が2000年に提示したのは、civic citizenshipという構想であった）とを、英語の文献を用いて概観する。		
授業内容・授業計画②	第１回 イントロダクション：問題の所在 第２回 下記のテキスト①の輪読その１：シティズンシップ概念の理解 第３回 下記のテキスト①の輪読その２：社会的シティズンシップの含意 第４回 下記のテキスト②の輪読その１：人権とシティズンシップの違い 第５回 下記のテキスト②の輪読その２：権利と公共圏 第６回 EUシティズンシップに関する文献の検討 第７回 EU基本権憲章に関する文献の検討 第８回 postnational citizenshipに関する文献の検討 第９回 EUにおけるcivic citizenshipに関する文献の検討 第10回 EUの長期居住者指令に関する文献の検討 第11回 EUの家族結合指令に関する文献の検討 第12回 EUにおけるcivic integration政策の動向１：オランダ 第13回 EUにおけるcivic integration政策の動向２：ドイツ 第14回 EUの難民指令の検討		
事前・事後学習の内容	受講に際しての予備知識は不要だが、毎回の授業の予習には相当の時間を要する。		
評価方法	学期末の研究報告書により成績を評価する。		
受講生へのコメント	移民・難民問題に関心を寄せる諸君の受講を期待する。		
教材	テキスト①：T.H.マーシャル／T.ボットモア『シティズンシップと社会的階級』法律文化社。 テキスト②：H.アーレント『全体主義の起源２：帝国主義』みすず書房、第５章「国民国家の没落と人権の終焉」（コピーを配布）。		

授業コード	ED20231010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	労働経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Labour Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1701		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	福原　宏幸		
科目の主題	「ワーキングプア・就職困難者への就労支援」を主題にして講義を行う。これらの研究にあたっては、中間的労働市場論、アクティベーション、ベーシックインカム、そして社会的排除／包摂などの議論について理解することが求められることから、これらについても講義する。		
授業の到達目標	博士論文執筆に必要な知見を習得させる。また、研究を進める上で必要となる分析方法について十分に理解できるようになることが達成目標である。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究課題に即して議論を深めながら、講義を行う。 第１回 社会的排除／包摂論（１）−議論の歴史的発展− 第２回 社会的排除／包摂論（２）−実態把握の分析理論と政策類型− 第３回 社会的排除／包摂論（３）−EUの政策− 第４回 最低所得保障とベーシックインカム論（１） 第５回 最低所得保障とベーシックインカム論（２） 第６回 最低所得保障とベーシックインカム論（３） 第７回 アクティベーションと中間的労働市場（１） 第８回 アクティベーションと中間的労働市場（２） 第９回 個別的支援とまちづくり（１） 第10回 個別的支援とまちづくり（２） 第11回 日本における生活困窮者支援事業の展開 第12回 社会的企業と社会的連帯経済（１） 第13回 社会的企業と社会的連帯経済（２） 第14回 日本における社会的包摂と労働市場構造改革に向けて レポート提出		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	講義時報告、レポート等を総合的に評価します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	その都度、提示します。		

授業コード	ED20241010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	労働経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Labour Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1702		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	福原　宏幸		
科目の主題	「ワーキングプア・就職困難者への就労支援」を主題にして、ワーキングプアや就職困難者、さらに中間的労働市場論、アクティベーション、ベーシックインカム、そして社会的排除／包摂などを取り上げた報告・討論を行い、各受講生の研究課題に関しても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	博士論文執筆に必要な知見を習得させる。また、研究を進める上で必要となる分析方法について、討論を通して本人が十分に理解できるようになることが達成目標である。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究の進捗経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を指導する。 第１回 社会的排除／包摂論（１）−議論の歴史的発展− 第２回 社会的排除／包摂論（２）−実態把握の分析理論と政策類型− 第３回 社会的排除／包摂論（３）−EUの政策− 第４回 最低所得保障とベーシックインカム論（１） 第５回 最低所得保障とベーシックインカム論（２） 第６回 最低所得保障とベーシックインカム論（３） 第７回 アクティベーションと中間的労働市場（１） 第８回 アクティベーションと中間的労働市場（２） 第９回 個別的支援とまちづくり（１） 第10回 個別的支援とまちづくり（２） 第11回 日本における生活困窮者支援事業の展開 第12回 社会的企業と社会的連帯経済（１） 第13回 社会的企業と社会的連帯経済（２） 第14回 日本における社会的包摂と労働市場構造改革に向けて レポート提出		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 復習として、各回の終了後、受講生には、自分の研究課題についての研究をどこまで推し進めることができたかを確認してもらうとともに、課題となった点の理解を深めてもらう。		
評価方法	演習時報告、レポート等を総合的に評価します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	その都度、提示します。		

授業コード	ED20311010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	財政政策論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Public-Finance Policy		
科目ナンバー	EDAPJ1709		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	現代の日本財政政策の基礎理論および政策議論についてレクチャーを行う。その際に気を付けることは財政理論、歴史、政策論をできるだけ偏りがないように講義をすることである。また、受講生が単に一方的に聞くだけではなく、講義の内容を受けてのやり取りもできるように心がける。		
授業の到達目標	博士課程に相応しい思考や研究レベルの向上を目的とする。		
授業内容・授業計画	毎回の講義においてレジュメおよび資料をスクリーン・モニターに映しながら講義を進める。またレジュメおよび資料は事前に配布する。 第１回_本講義の趣旨・問題意識の確認とガイダンス 第２回_財政学という学問の特徴・本質は何か 第３回_公共財の理論とその批判 第４回_福祉国家論について 第５回_所得再分配の理論と実際 第６回_乗数理論とその現実 第７回_高度成長期の財政史 第８回_オイルショックから臨調行革までの財政史 第９回_バブル経済とは何か 第10回_小泉改革とは何だったのか 第11回_政権交代以降の財政の状況 第12回_土建国家という日本の公共事業 第13回_生活保障機能の変化とセーフティネット 第14回_政府間財政関係について		
事前・事後学習の内容	毎回の講義の最後に次回のレクチャーについてのあらすじと参考文献を提示する。受講者は事前に予習をすることが好ましい。また、毎回配布するレジュメと資料を用いて復習することも理解を深めるにあたっては好ましい。		
評価方法	平常点および期末レポートにより評価を行う。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	特になし		

授業コード	ED20321010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	財政政策論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Public-Finance Policy		
科目ナンバー	EDAPJ1710		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	本演習では財政にかかわる諸制度、とりわけ社会保障制度と他の諸制度との有機的な関係に着目しながら、今後の財政制度の在り方について受講者と議論を行う。		
授業の到達目標	租税政策、社会保障政策、地方分権などが有機的にかかわって財政政策をトータルで考えることができる思考能力の醸成を目的とする。またその思考レベルを博士課程に相応しいレベルまで引き上げることも目標とする。		
授業内容・授業計画	関連する論文・著作を受講者が輪読・報告を行い、それをもとに全受講者間で議論を行う。 第１回_本演習の狙いの説明とガイダンス 第２回_年金と日本経済 第３回_医療と日本経済 第４回_介護と日本経済 第５回_社会福祉と日本経済 第６回_生活扶助と日本経済 第７回_労働政策と日本経済 第８回_社会保障とインフォーマルセクター 第９回_社会保障制度と租税構造 第10回_社会保障制度と国民負担 第11回_社会保障制度の財源問題 第12回_社会保障制度と消費税 第13回_社会保障制度と租税特別措置 第14回_社会保障制度と地方分権		
事前・事後学習の内容	報告者はもちろんのこと、受講者全員が事前の学習を行い、積極的に議論に参加することが求められる。また、授業後の復習を行うことにより理解度を高めるだけではなく、その後の議論のためにも役立つことを認識してもらいたい。		
評価方法	平常点および期末レポートにより評価を行う。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	適宜、授業中に指示する。		

授業コード	ED20371010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	金融経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Monetary Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1717		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融契約のミクロ理論モデル分析を学び、モデル作成の技術を身に付ける。		
授業の到達目標	金融契約に関する論文を理解し、モデル作成の技術を身に付ける。さらに、博士論文執筆のための分析能力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。出席者は事前に指示された論文を読んでおくこと。出席者には報告を行ってもらいます。そのため、ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることが必須です。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していること。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであること。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。 第１回_ガイダンス 第２回_金融契約理論(イントロダクション) 第３回_金融契約理論(サーベイ) 第４回_金融契約理論(基本モデル) 第５回_金融契約理論(拡張モデル) 第６回_金融契約理論(インプリケーション) 第７回_金融契約理論(結論) 第８回_D&M(1997)モデル(イントロダクション) 第９回_D&M(1997)モデル(サーベイ) 第10回_D&M(1997)モデル(基本モデル) 第11回_D&M(1997)モデル(拡張モデル) 第12回_D&M(1997)モデル(インプリケーション) 第13回_D&M(1997)モデル(結論) 第14回_D&M(1997)モデルの批判的検討と分析の拡張		
事前・事後学習の内容	事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。 前回の授業の復習をしてくること。		
評価方法	平常点(授業態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。		
受講生へのコメント	十分な予習・復習時間を確保してください。		
教材	テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。		

授業コード	ED20381010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	金融経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Monetary Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1718		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融契約のミクロ理論モデル分析を学び、モデル分析の技術を身に付ける。		
授業の到達目標	金融契約に関する論文を理解し、モデル作成の技術を身に付ける。さらに、博士論文執筆のための分析能力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。指示した論文を出席者に報告してもらいます。そのため、ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることが必須です。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していること。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであること。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。 第１回_ガイダンス 第２回_金融契約理論の応用(イントロダクション) 第３回_金融契約理論の応用(サーベイ) 第４回_金融契約理論の応用(基本モデル) 第５回_金融契約理論の応用(拡張モデル) 第６回_金融契約理論の応用(インプリケーション) 第７回_金融契約理論の応用(結論) 第８回_B&Rモデル(イントロダクション) 第９回_B&Rモデル(サーベイ) 第10回_B&Rモデル(基本モデル) 第11回_B&Rモデル(拡張モデル) 第12回_B&Rモデル(インプリケーション) 第13回_B&Rモデル(結論) 第14回_B&Rモデルの批判的検討と分析の拡張		
事前・事後学習の内容	事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。 前回の授業の復習をしてくること。		
評価方法	平常点(授業態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。		
受講生へのコメント	毎回、報告をしてもらうことになりますので、十分な予習・復習時間を確保してください。		
教材	テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。		

授業コード	ED20831010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	産業経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Industrial Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1729		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	規制の経済理論および先進諸国における規制政策について報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	産業の規制政策に関する理論および先進諸国における規制政策について説明できるようになることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	各自が担当する論文を精読したうえ、日本語でレジュメを作成・報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。 第１回_講義の進め方（文献・担当者の決定） 第２回_Introduction to Economic Regulation 第３回_Theory of Natural Monopoly 第４回_Natural Monopoly Regulation and Electric Power 第５回_Franchise Bidding and Cable Television 第６回_Public Enterprise 第７回_Dynamic Issues in Natural Monopoly Regulation: Telecommunications 第８回_The Regulation of Potentially Competitive Markets: Theory and Estimation Methods 第９回_Economic Regulation of Transportation: Surface Freight and Airlines 第10回_Economic Regulation of Energy: Crude Oil and Natural Gas 第11回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: The Energy and Water Supply Industries 第12回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Transport Industries 第13回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Communications Industries 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	自らの知識を深めるよう、様々な先行研究にふれてください。		
教材	Mizutani, F. (2012) Regulatory reform of public utilities : The Japanese experience, Cheltenham, UK: Edward Elgar. Viscusi, W. K., Harrington, Jr., J. E. and Vernon, J. M. (2005) Economics of Regulation and Antitrust, 4th ed., Cambridge, MA: MIT Press.		

授業コード	ED20841010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	産業経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Industrial Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1730		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	課題論文作成に向け、分析対象および分析手法について報告・討論を行う。		
授業の到達目標	本講義では産業の規制政策について、個人指導と共に討論により問題の分析や解決を図る能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 （１）専攻する分野を概説することができること。 （２）専攻する分野で必要な分析手法を理解できること。 （３）専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。また、その習熟度を後期博士課程に相応しいレベルまで引き上げること。		
授業内容・授業計画	各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。 第１回_講義の進め方 第２回_レポートのまとめ方 第３回_テーマ選択 第４回_先行研究 第５回_現状把握（１）-制度- 第６回_現状把握（２）-データ収集- 第７回_中間レポートの報告 第８回_分析手法 第９回_データ分析（１）-データ整理- 第10回_データ分析（２）-プログラミングとパイロットテスト- 第11回_データ分析（３）-モデル推定- 第12回_分析結果の考察 第13回_課題論文の報告 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。		
教材	特になし。		

授業コード	ED20571010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	日本経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Japanese Economy		
科目ナンバー	EDAPJ1733		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討する。		
授業の到達目標	わが国の家計行動の解明や家計の視点に重点をおいた政策評価、今後望まれる政策の探求への取り組みを深める。		
授業内容・授業計画	講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。 第１回_講義の進め方 第２回_労働問題-若年者・高齢者 第３回_労働問題-女性 第４回_少子化問題-要因 第５回_少子化問題-政策 第６回_貯蓄行動・資産選択 第７回_所得格差 第８回_社会保障-年金 第９回_社会保障-医療・介護 第10回_実証分析-データ 第11回_実証分析-基本的操作 第12回_実証分析-仮説設定 第13回_実証分析-仮説検証 第14回_実証分析-レポート作成に向けて		
事前・事後学習の内容	授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。		
評価方法	授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。		
教材	テキストは、特になし。		

授業コード	ED20581010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	日本経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Japanese Economy		
科目ナンバー	EDAPJ1734		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討する。		
授業の到達目標	家計行動の側面から捉えた日本経済における新たな研究課題を見出し、それを理論的・実証的に分析する力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。 第１回_講義の進め方 第２回_労働問題-若年者・高齢者 第３回_労働問題-女性 第４回_少子化問題-要因 第５回_少子化問題-政策 第６回_貯蓄行動・資産選択 第７回_所得格差 第８回_社会保障-年金 第９回_社会保障-医療・介護 第10回_実証分析-データ 第11回_実証分析-基本的操作 第12回_実証分析-仮説設定 第13回_実証分析-仮説検証 第14回_実証分析-レポート作成に向けて		
事前・事後学習の内容	授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。		
評価方法	授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。		
教材	テキストは、特になし。		

授業コード	ED20251010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	比較労使関係論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Industrial Relations		
科目ナンバー	EDGRJ1701		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	CHARLES　WEATHERS		
科目の主題	政治経済的な立場から日本および先進国の労使関係・雇用制度について研究します。各国の制度的な類似点、相違点を分析するというアプローチを基本的に取っていきたいと考えています。		
授業の到達目標	日本をはじめ先進国の労使関係・雇用制度の特徴について基本的な知識を身につけることを目標にします。また、分析能力を向上させます。		
授業内容・授業計画	全ての参加者に参考にする資料について報告してもらい、それに基づいてディスカッションをします。また、博士論文への準備として、簡単な研究論文を書いてもらいます。 以下の15回の計画はサンプルコースです。参加者それぞれの興味やニーズによって調整します。 第１回_イントロダクション 第２回_日本の労使関係・雇用制度 第３回_戦後の労使関係の形成 第４回_労使関係制度の発展 第５回_春闘・賃金制度 第６回_非正規労働 第７回_均等法と女性労働問題 第８回_コミュニティユニオン及びNPO 第９回_若者と教育制度 第10回_アベノミクスと労働 第11回_北欧モデル 第12回_ドイツの労働政策 第13回_アメリカモデルと雇用制度 第14回_現在の課題		
事前・事後学習の内容	毎回、資料を読み、ディスカッションの準備をしてもらいます。		
評価方法	参加者の授業への準備及び熱心な討論。		
受講生へのコメント	現在、私は主に女性・非正規労働問題、公共部門労働問題について日米比較研究を行っていますので、政治経済や女性・ワーキングプア問題について関心がある院生に適すると思います。		
教材	第一回目の授業で参考となる資料を提示します。		

授業コード	ED20261010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	比較労使関係論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Industrial Relations		
科目ナンバー	EDGRJ1702		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	CHARLES　WEATHERS		
科目の主題	政治経済的な立場から日本および先進国の労使関係・雇用制度について研究します。各国の制度的な類似点、相違点を分析するというアプローチを基本的に取っていきたいと考えています。		
授業の到達目標	日本をはじめ先進国の労使関係・雇用制度の特徴について基本的な知識を身につけることを目標にします。 また、分析能力を向上させるとともに、資料検索および研究論文を作成するスキルを開発します。		
授業内容・授業計画	博士論文への準備として、簡単な研究論文を書いてもらいます。 第１回_イントロダクション 第２回_日本の労使関係・雇用制度 第３回_戦後の労使関係の形成 第４回_労使関係制度の発展 第５回_春闘・賃金制度 第６回_非正規労働 第７回_均等法と女性労働問題 第８回_コミュニティユニオン及びNPO 第９回_若者と教育制度 第10回_アベノミクスと労働 第11回_北欧モデル 第12回_ドイツの労働政策 第13回_アメリカモデルと雇用制度 第14回_現在の課題		
事前・事後学習の内容	研究論文を作成するため、教員の下での自立研究が求められます。		
評価方法	論文を評価します。		
受講生へのコメント	研究スキルを向上させるため、資料検索や情報のまとめ方を重視します。		
教材	参加者の研究課題に沿った内容の資料を提示します。		

授業コード	ED20611010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	東アジア経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on A Study on East Asian Economies		
科目ナンバー	EDGRJ1707		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	開発経済学の基本理論を用いて、植民地近代化、国民経済の形成過程、開発独裁、経済民主化、民族資本の形成、周辺国国家との経済協力などのトピックスを中心に、東アジアの構造変化について報告する。		
授業の到達目標	本講義では、東アジア経済の分析理論に関する知識を修得し、東アジア経済が抱える諸問題について考え、分析する能力を身につけることを達成目標とする。		
授業内容・授業計画	本講義では、以下のようなトピックスに関する最新の論文を材料に講義を行い、院生とテーマにそって議論を行う。 第1回_イントロダクション:講義の進め方 第2回_植民地近代化論:植民地支配の光と影 第3回_従属論：低開発の発展 第4回_世界システム論と不等価交換：中枢と周辺 第5回_後発性利益と後発性不利益：キャッチアップ工業化の功罪 第6回_新国際分業論：先進国と中進国 第7回_企業内国際分業：多国籍企業の製造拠点と販売拠点 第8回_計画経済と社会主義市場経済:鄧小平の挑戦 第9回_開発独裁：権威主義体制下の社会変動 第10回_経済援助と経済制裁：北朝鮮とどう向き合うか 第11回_経済のグローバル化と通貨危機：金大中とマハティール 第12回_経済協力と自由貿易協定：FTAとTPP 第13回_経済ナショナリズムと保護主義：トランプと習近平 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。		
評価方法	講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にしておくこと。		
教材	朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2019年		

授業コード	ED20621010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	東アジア経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on A Study on East Asian Economies		
科目ナンバー	EDGRJ1708		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	東アジア経済に関する諸問題について報告・討論を行う。		
授業の到達目標	本講義では、東アジア経済について、個人指導と討論により課題分析や論文作成を行う能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 （１）東アジア経済について概説する能力があること。 （２）東アジア経済を分析できる理論・手法をマスターしていること。 （３）東アジア経済に関して経済理論を駆使して分析する能力を有していること。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて個別指導を行い、具体的な研究の進め方を教授する。 　受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究をサポートする。 第1回から第5回、東アジア経済に関する理論研究。 第6回から第10回、東アジア経済に関する文献(現状分析)研究。 第11回から第14回、院生による研究発表と討論。 第1回　講義の進め方：講義の進め方 第2回　植民地近代化論：植民地支配の光と影 第3回　従属論：低開発の発展 第4回　世界システム論と不等価交換：中枢と周辺 第5回　後発性利益と後発性不利益：キャッチアップ工業化の功罪 第6回　新国際分業：先進国と中進国 第7回　企業内国際分業：多国籍企業の製造拠点と販売拠点 第8回　計画経済と社会主義市場経済：鄧小平の挑戦 第9回　開発独裁：権威主義体制下の社会変動 第10回　経済援助と経済制裁：北朝鮮とどう向き合うか 第11回　経済のグローバル化と通貨危機：金大中とマハティールの構造改革 第12回　経済協力と自由貿易協定：FTAとTPP 第13回　経済ナショナリズムと保護主義：トランプと習近平 第14回　まとめ：世界経済はどこに向かうのか		
事前・事後学習の内容	講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。		
評価方法	講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にしておくこと。		
教材	朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2019年		

授業コード	ED20631010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	東南アジア経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1709		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア経済を政治制度・経済制度・文化・社会といった多角的な視点から検討する。東南アジア全体の産業政策、都市化、教育の発展の経緯を鑑みた上で、各国の経済をより詳細に考察する。域内格差、所得格差、貧困問題、といった旧来からの論点に加え、近年、ますます重要になってきている環境問題やジェンダーの観点からも東南アジア各国経済を検討する。		
授業の到達目標	東南アジア経済に関する理解を深め、研究課題の再発見を到達目標とする。		
授業内容・授業計画	授業の前半は講義を行い、後半は講義の中で取り上げたトピックに関する議論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー 第３回_東南アジア経済と教育・社会保障 第４回_移行経済国 第５回_農村経済 第６回_都市化とインフォーマルセクター 第７回_東南アジアの文化とビジネス 第８回_東南アジアの企業集団 第９回_アセアン経済共同体 第10回_インフラ開発 第11回_金融システム 第12回_中所得国化と経済格差 第13回_ジェンダー 第14回_環境問題		
事前・事後学習の内容	講義時に紹介する論文を読んでおくこと。		
評価方法	学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。		
受講生へのコメント	文献を読み込む時間を十分にとってください。		
教材	教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。		

授業コード	ED20641010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	東南アジア経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1710		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア経済に関する論文の報告・討論を行い、博士論文の作成に求められる基本的な知識と研究手法を学ぶ。		
授業の到達目標	文献研究を通してテーマの設定、データ収集、研究手法等を理解することを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	毎回、論文の輪読と議論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー 第３回_東南アジア経済と教育・社会保障 第４回_移行経済国 第５回_農村経済 第６回_都市化とインフォーマルセクター 第７回_東南アジアの文化とビジネス 第８回_東南アジアの企業集団 第９回_アセアン経済共同体 第10回_インフラ開発 第11回_金融システム 第12回_中所得国化と経済格差 第13回_ジェンダー 第14回_環境問題		
事前・事後学習の内容	講義時に紹介する論文を読んでおくこと。		
評価方法	学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。		
受講生へのコメント	議論への積極的な参加を求めます。		
教材	教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。		

授業コード	ED20771010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	国際経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on International Economics		
科目ナンバー	EDGRJ1721		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	国際経済についての議論を様々な角度（経済理論）から検証する。		
授業の到達目標	経済発展を中心に、昨今の国際経済事情について理解を深め、解説するできることが最大の目標となる。		
授業内容・授業計画	分担報告を求める。なお、図表などを用いた解説をおこなうこともあるが、高度な数学的解説は用いないよう配慮する。 第１回_イントロダクション 第２回_農業 第３回_農村信用 第４回_教育 第５回_労働移動 第６回_工業化 第７回_技術 第８回_開発金融 第９回_開発援助 第10回_持続可能な開発 第11回_課題報告　農業 第12回_課題報告　教育 第13回_課題報告　労働 第14回_課題報告　工業		
事前・事後学習の内容	テキストの予習と報告内容の復習を行い、最終課題レポート作成及び報告につなげていく。		
評価方法	報告内容とレポートを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。		
教材	講義中に指示する。		

授業コード	ED20781010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	国際経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on International Economics		
科目ナンバー	EDGRJ1722		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	発展途上国経済に関する文献を読む。		
授業の到達目標	大学院レベルの国際経済および開発経済の知識を得て、ケーススタディを行う。		
授業内容・授業計画	文献をまとめ、いくつかのテーマについて討論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_不平等 第３回_貧困 第４回_人口 第５回_高齢化 第６回_教育 第７回_健康 第８回_農業発展 第９回_ミクロ経済学的視点 第10回_国際貿易 第11回_貿易理論 第12回_国際収支 第13回_経済危機 第14回_開発援助		
事前・事後学習の内容	事前に毎回の内容を読み終えておくことと事後にサマリーの作成が求められる。		
評価方法	分担報告のレポート 関心のある分野についてのレポート		
受講生へのコメント	受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。		
教材	演習中に指示する。		

授業コード	ED20011010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	近代経済理論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Studies of Modern Economic Theory		
科目ナンバー	EDTHJ1701		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	世代重複モデルの研究		
授業の到達目標	マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される、世代重複モデルの、政策問題への応用ができるようになること。		
授業内容・授業計画	マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方、および政策効果の解釈がどのように変わるかを検討する。 第１回_授業の進め方の説明 第２回_教科書的世代重複モデル 第３回_教科書的世代重複モデルの含意 第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入 第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度 第６回_固定係数の下での世代重複モデル 第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意 第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度 第９回_中間まとめ 第10回_技術進歩について 第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩 第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩 第13回_技術進歩の一般的効果 第14回_質問と回答		
事前・事後学習の内容	毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。講義終了後に残った疑問点を整理しておく。		
評価方法	毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	基礎科目であるマクロ分析I、IIの内容を理解していることが、受講の前提である。		
教材	授業の初回に提示する。		

授業コード	ED20021010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	近代経済理論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Studies of Modern Economic Theory		
科目ナンバー	EDTHJ1702		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	世代重複モデルの研究		
授業の到達目標	マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される世代重複モデルを、政策問題への応用も含め、自分で操作できるようになること。		
授業内容・授業計画	マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方、および政策効果の解釈がどのように変わるかを、受講生みずから計算しながら実感する。 第１回_授業の進め方の説明 第２回_教科書的世代重複モデル 第３回_教科書的世代重複モデルの含意 第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入 第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度 第６回_固定係数の下での世代重複モデル 第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意 第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度 第９回_中間まとめ 第10回_技術進歩について 第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩 第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩 第13回_技術進歩の一般的効果 第14回_質問と回答		
事前・事後学習の内容	毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。毎回の授業終了後に残った疑問点を整理しておく。		
評価方法	毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	基礎科目であるマクロ分析I、IIの内容を理解していること、および毎回扱うモデルの計算を 自分でこなす姿勢が、受講の前提である。		
教材	授業の初回に提示する。		

授業コード	ED20031010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代資本主義論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on The Study of The Theories of Modern Capitalism		
科目ナンバー	EDTHJ1703		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	「現代資本主義」はどのような特徴をもっているか？　それはしばしば「新自由主義」「認知資本主義」「レント資本主義」「プラットフォーム資本主義」といった形で呼ばれるが、それらはどういった特徴をもっているのか？　この授業ではマルクス主義のアプローチを基礎として、現代資本主義の特性とその矛盾（経済格差、恐慌、環境破壊など）について考察していく。その際には、マルクスの恐慌論や利潤率の傾向的低下法則、転形問題などが現代資本主義の問題点を分析するうえで、どれほどの妥当性を持つのかについても検討していきたい。		
授業の到達目標	自らの研究に関連した内容を見出し、それを批判的に検討することで、論文執筆のためのアイデアを練る。読んだ研究文献を元にレジュメ作成・研究報告を行い、ディスカッションを行う。		
授業内容・授業計画	まずは、カール・マルクスの議論を概観する。そのうえで、リーマンショック以降の英米圏での論争を中心に、近年の論文や著作を読みながら、現代資本主義についてのマルクス主義的アプローチを考察していく。ハーヴェイ、フォスター、カルケディ、ブレナー、ロバーツ、クライマンらの議論を中心に現代資本主義が抱える問題点について、議論していきたい。関連テーマについての研究報告も歓迎する。 以下、人名は例とし、参加者の関心などに合わせ、柔軟に変更する。 第１回_イントロダクション 第２回_利潤率の傾向的低下 第３回_マルクスの恐慌論 第４回_マルクスの転形問題とTSSI 第５回_現代資本主義とマルクス 第６回_ハーヴェイの世界金融恐慌論 第７回_フォスターの過少消費説 第８回_フォスターの金融恐慌論 第９回_ブレナーの新自由主義批判 第10回_ブレナーの恐慌論 第11回_クライマンのマルクス擁護 第12回_クライマンの恐慌論 第13回_ロバーツの恐慌論 第14回_資本主義の「成熟」		
事前・事後学習の内容	指定されたテキストを読み、ディスカッションの準備をしておく。 関連文献なども紹介するので、興味や必要に応じて読む機会があれば望ましい。		
評価方法	報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	参加者の関心や研究状況に十分配慮し、論文執筆や学会発表の内容を検討する場所としても自由に使っていただければと思います。		
教材	その度ごとに指定し、配布する。 英語の論文が中心となるので注意されたい。		

授業コード	ED20041010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	現代資本主義論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on The Study of The Theories of Modern Capitalism		
科目ナンバー	EDTHJ1704		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	現代資本主義と世界恐慌の関係について、関連した英語文献についての検討を引き続き行い、また授業で扱っている内容に近いテーマで研究報告を行う。		
授業の到達目標	英語論文を読んで、内容を批判的に検討し、それについてのレジュメ作成、研究報告を行う。		
授業内容・授業計画	引き続き、以下の文献を精読し、ディスカッションを通じて現代資本主義についての考察を深める。 違ったアプローチを比較し、お互いの議論のどういった点に理論的な貢献や限界があるのかを批判的に検討していく。 第１回_イントロダクション 第２回_利潤率の傾向的低下 第３回_マルクスの恐慌論 第４回_マルクスの転形問題とTSSI 第５回_現代資本主義とマルクス 第６回_ハーヴェイの世界金融恐慌論 第７回_フォスターの過少消費説 第８回_フォスターの金融恐慌論 第９回_ブレナーの新自由主義批判 第10回_ブレナーの恐慌論 第11回_クライマンのマルクス擁護 第12回_クライマンの恐慌論 第13回_ロバーツの恐慌論 第14回_資本主義の「成熟」		
事前・事後学習の内容	指定されたテキストを読み、レジュメを作成し、ディスカッションの準備をしておく。 事後には、授業のノートを見て、内容を復習する。		
評価方法	報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	オープンな雰囲気のなかで、自由な議論ができるよう気を付けたいと思っています。		
教材	その度ごとに英語文献を指定する。		

授業コード	ED20451010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	マクロ経済学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Macroeconomic Analysis		
科目ナンバー	EDTHJ1707		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。		
授業の到達目標	制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解した上で新しい研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。 第１回 ガイダンス 第２回 文化と経済発展① 実証 第３回 文化と経済発展② 理論 第４回 文化と経済発展③ 総括 第５回 文化と制度① 私的所有権 第６回 文化と制度② 労使関係 第７回 文化と制度③ 再分配 第８回 文化と制度④ 総括 第９回 家族の絆と信頼① 移住 第10回 家族の絆と信頼② 出産 第11回 家族の絆と信頼③ 総括 第12回 家族とマクロ経済学① 人口動態 第13回 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転 第14回 家族とマクロ経済学③ 総括		
事前・事後学習の内容	参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。		
評価方法	平常点によって評価します。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。		
教材	Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014. M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.		

授業コード	ED20461010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	マクロ経済学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Macroeconomic Analysis		
科目ナンバー	EDTHJ1708		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。		
授業の到達目標	制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解した上で新しい研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。 第１回 ガイダンス 第２回 文化と経済発展① 実証 第３回 文化と経済発展② 理論 第４回 文化と経済発展③ 総括 第５回 文化と制度① 私的所有権 第６回 文化と制度② 労使関係 第７回 文化と制度③ 再分配 第８回 文化と制度④ 総括 第９回 家族の絆と信頼① 移住 第10回 家族の絆と信頼② 出産 第11回 家族の絆と信頼③ 総括 第12回 家族とマクロ経済学① 人口動態 第13回 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転 第14回 家族とマクロ経済学③ 総括		
事前・事後学習の内容	参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。		
評価方法	平常点によって評価します。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。		
教材	Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014. M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.		

授業コード	ED20131010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	統計理論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Statistics		
科目ナンバー	EDTHJ1727		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	統計学の経済分析への応用である計量経済学の理論を学ぶ。こちらの特殊研究では、理論に重点をおく。		
授業の到達目標	計量経済学の理論的理解		
授業内容・授業計画	欧米での大学院コアコースの標準的教科書であるGreene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)の前半を輪読する。 第１回_Chapter 2 The Classical Multiple Linear Regression Model 第２回_Chapter 3 Least Squares 第３回_Finite-Sample Properties of the Least Squares Estimator 第４回_Large-Sample Properties of the Least Squares and Instrumental Variables Estimators 第５回_Inference and Prediction 第６回_Functional Form and Structural Change 第７回_Specification Analysis and Model Selection 第８回_Nonlinear Regression Models 第９回_Nonspherical Disturbances-The Generalized Regression Model 第10回_Heteroscedasticity 第11回_Serial Correlation 第12回_Models for Panel Data 第13回_Systems of Regression Equations 第14回_Simultaneous-Equations Models 第15回_Estimation Frameworks in Econometrics		
事前・事後学習の内容	修士レベルの計量経済学講義を受けていることが前提。 予復習必須		
評価方法	平常点		
受講生へのコメント	頑張りましょう！		
教材	Greene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)		

授業コード	ED20141010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	統計理論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Statistics		
科目ナンバー	EDTHJ1728		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	統計学の経済分析への応用である計量経済学の理論を学ぶ。こちらの特殊研究では、理論に重点をおく。これは、問題演習を行う。		
授業の到達目標	計量経済学の理論的理解		
授業内容・授業計画	欧米での大学院コアコースの標準的教科書であるGreene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)の前半を輪読する。こちらは問題演習を行う。 第１回_Chapter 2 The Classical Multiple Linear Regression Model 第２回_Chapter 3 Least Squares 第３回_Finite-Sample Properties of the Least Squares Estimator 第４回_Large-Sample Properties of the Least Squares and Instrumental Variables Estimators 第５回_Inference and Prediction 第６回_Functional Form and Structural Change 第７回_Specification Analysis and Model Selection 第８回_Nonlinear Regression Models 第９回_Nonspherical Disturbances-The Generalized Regression Model 第10回_Heteroscedasticity 第11回_Serial Correlation 第12回_Models for Panel Data 第13回_Systems of Regression Equations 第14回_Simultaneous-Equations Models 第15回_Estimation Frameworks in Econometrics		
事前・事後学習の内容	修士レベルの計量経済学講義を受けていることが前提。 予復習必須		
評価方法	平常点		
受講生へのコメント	問題演習こそ理解への王道です。		
教材	Greene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)		

授業コード	ED20211010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	社会政策論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Social Policy		
科目ナンバー	EDHIJ1705		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	社会・人口問題の専門知識を習得し、あるテーマについての自分なりの考えをもつ。		
授業の到達目標	社会・人口問題の今日的動向、今後の展望について理解を深める。		
授業内容・授業計画	社会・人口問題の専門知識を提供する。 第１回_　ガイダンス 第２回_　少子化と社会政策 第３回_　高齢化と社会政策 第４回_　人口減少と社会政策 第５回_　人口移動と社会政策 第６回_　人口問題と子ども 第７回_　人口問題と女性 第８回_　歴史のなかの人口問題 第９回_　人口論の射程 第10回_　人口論の形成と展開 第11回_　戦後日本の家族計画 第12回_　戦後日本の社会開発 第13回_　戦後日本の家族政策 第14回_　まとめ		
事前・事後学習の内容	講義内で指示した課題に取り組むとともに、予習復習を心がける。		
評価方法	平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的に議論に参加してください。		
教材	講義内で指定する。		

授業コード	ED20221010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	社会政策論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Social Policy		
科目ナンバー	EDHIJ1706		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	人口・社会政策に関する文献資料を検討し、受講者の研究報告について討論する。		
授業の到達目標	人口・社会政策の文献資料を読み解き、人口・社会政策に関する研究報告をする。		
授業内容・授業計画	文献資料の輪読と受講者の研究報告を予定している。 第１回_　ガイダンス 第２回_　文献資料の要約報告と討論　　ポスト人口転換期の到来 第３回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期の出生動向 第４回_　文献資料の要約報告と討論　　ポスト人口転換期の死亡動向 第５回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期の人口移動 第６回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期のゆくえ 第７回_　文献資料の要約報告と討論　総括 第８回_　受講者による研究発表とコメント　受講者１ 第９回_　受講者による研究発表とコメント　受講者２ 第10回_　受講者による研究発表とコメント　受講者３ 第11回_　受講者による研究発表とコメント　受講者４ 第12回_　受講者による研究発表とコメント　受講者５ 第13回_　受講者による研究発表とコメント　受講者６ 第14回_　まとめ		
事前・事後学習の内容	文献資料の予習（検討）と講義内で出される課題に取り組んでいただく。		
評価方法	平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的に議論に参加してください。		
教材	初回の講義で指定する。		

授業コード	ED20411010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	産業技術論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Philosophy of Industrial Technologies		
科目ナンバー	EDHIJ1707		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	坂上　茂樹		
科目の主題	産業技術論･技術史を個別的技術領域に沈潜しつつ研究し、固有の成果を産出する。		
授業の到達目標	産業技術論･技術史研究に係わる専門的素養の獲得。		
授業内容・授業計画	デジタル･エレクトロニクス技術史研究を深化させる。 第１回_ガイダンス 第２回_産業技術論特殊研究、上級基礎１　業務用録音装置AMPEX200 第３回_産業技術論特殊研究、上級基礎２ 45/45ステレオレコード 第４回_産業技術論特殊研究、上級基礎３　業務用YTR PV-100 第５回_産業技術論特殊研究、上級基礎４ ベータとVHS 第６回_産業技術論特殊研究、上級応用１ CCDイメージセンサ 第７回_産業技術論特殊研究、上級応用２ ハイビジョンMUSE 第８回_産業技術論特殊研究、上級応用３　CDC101 第９回_産業技術論特殊研究、上級応用４ α-7000 第10回_産業技術論特殊研究、上級応用５ DAT DTC-1000ES 第11回_産業技術論特殊研究、固有領域１ ARMの組込み向けRISCコア 第12回_産業技術論特殊研究、固有領域２　携帯電話用LSI C5X 第13回_産業技術論特殊研究、固有領域３ ネットワーク・オーディオシステム 第14回_産業技術論特殊研究、固有領域４　LTE(64QST)		
事前・事後学習の内容	既存研究を渉猟し、独自の将来的展望の下に批判･発展させる。		
評価方法	期末レポートによる。		
受講生へのコメント	自らの博士論文執筆への助けとなるよう戦略を立てて欲しい。		
教材	随時指定。		

授業コード	ED20421010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	産業技術論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Philosophy of Industrial Technologies		
科目ナンバー	EDHIJ1708		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	坂上　茂樹		
科目の主題	産業技術論･技術史を個別的技術領域に沈潜しつつ研究し独自の成果を構築する。		
授業の到達目標	産業技術論･技術史研究に係わる独自の発信能力の獲得。		
授業内容・授業計画	デジタル･エレクトロニクス技術史を繙き、固有の論点を発掘する。 第１回_ガイダンス 第２回_産業技術論特殊研究、個別課題設定１　基礎理論･技術 第３回_産業技術論特殊研究、個別課題設定２　半導体技術 第４回_産業技術論特殊研究、個別課題設定３　基幹部品 第５回_産業技術論特殊研究、個別課題設定４　コンピュータ 第６回_産業技術論特殊研究、１についての発表･討議 第７回_産業技術論特殊研究、２についての発表･討議 第８回_産業技術論特殊研究、３についての発表･討議 第９回_産業技術論特殊研究、４についての発表･討議 第10回_産業技術論特殊研究、執筆のための討議 第11回_産業技術論特殊研究、１についての個別成果報告 第12回_産業技術論特殊研究、２についての個別成果報告 第13回_産業技術論特殊研究、３についての個別成果報告 第14回_産業技術論特殊研究、４についての個別成果報告		
事前・事後学習の内容	既存の研究成果についての自修に努めると共に、独自の視点から発展させ、既存研究全般の超克を目指す。		
評価方法	期末レポートによる。		
受講生へのコメント	博士論文への貢献性を重視します。		
教材	随時探索、選定、提供。		

授業コード	ED20711010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	日本経済史研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economic History of Japan		
科目ナンバー	EDHIJ1709		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	主題は日本経済史の諸論点である。本学期は都市経済史の諸課題に絞りたい。都市経済史に関する文献および史料を輪読し、重要な論点をめぐって議論を行う。		
授業の到達目標	経済史研究の方法論を深める一方、研究の動向を総合的に把握できることを目標とする。		
授業内容・授業計画	都市経済史の諸課題を取り上げて最先端の研究状況を説明する。事例紹介などを通じて研究の方法論を紹介する。 第１回_イントロダクション 第２回_都市史研究の現状 第３回_日本の商業都市：大阪 第４回_中国の商業都市：蘇州 第５回_日本の貿易港市：長崎 第６回_中国の貿易港市：広州 第７回_史料の解析：都市空間 第８回_史料の解析：都市運営 第９回_史料の解析：インフラ整備 第10回_史料の解析：都市と流通 第11回_事例紹介：満州国の「新京」 第12回_事例紹介：植民地時代の台北 第13回_総合議論-新しい方法論- 第14回_総合議論-学位論文の作成に向けて- ＊授業の内容が必要と受講生の要望に応じて変更される可能性がある。		
事前・事後学習の内容	輪読する論文を予め読む。毎回のゼミ終了後、議論中に提示された諸論点をまとめて理解を深める。		
評価方法	報告（50%）と討論（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキスト、特になし。 学術雑誌『都市史研究』各号、『岩波講座　日本歴史』全22巻（岩波書店、2013～2015年）、『日本の対外関係』全7巻（吉川弘文館、2010～2013年）から都市研究の論文を選んで輪読のテキストとする。		

授業コード	ED20721010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	日本経済史研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Economic History of Japan		
科目ナンバー	EDHIJ1710		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	経済史研究および修士・博士学位論文作成の演習。経済史関係の史料を読み、史料研究ノートという形の報告、および学位論文を作成するための関連研究の報告を行う。		
授業の到達目標	高度な史料解読力を身につけ、学位論文の研究を着実に進めることを目標とする。		
授業内容・授業計画	参加者の経済史に関する研究の指導を最優先に取り組みたい。第1回では、それぞれの研究課題と進展状況を確かめる。その後の演習では、①研究の計画・構想、②先行研究のまとめ、③史料の紹介・分析、④総合発表、4段階に分けて報告してもらう。 第１回_オリエンテーション 第２回_研究構想の発表　グループ１ 第３回_研究構想の発表　グループ２ 第４回_先行研究のまとめ　グループ１ 第５回_先行研究のまとめ　グループ２ 第６回_史料調査 第７回_史料調査の報告 第８回_史料研究ノート　グループ１ 第９回_史料研究ノート　グループ２ 第10回_第1次研究発表　グループ１ 第11回_第1次研究発表　グループ２ 第12回_第2次研究発表　グループ１ 第13回_第2次研究発表　グループ２ 第14回_全体議論 ＊演習の内容が必要と参加者の要望に応じて変更される可能性がある。		
事前・事後学習の内容	報告者は前の週の演習で報告のテーマおよび参考書を予告する。参加者の全員はその参考書を読むことで予習を行う。終了後、演習中の議論の諸論点をまとめることで復習を行う。		
評価方法	報告（50%）と討論（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。		
教材	特になし		

授業コード	ED21211010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	西洋経済史研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economic History of Europe		
科目ナンバー	EDHIJ1713		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	塩谷 昌史		
科目の主題	近年の西洋経済史の研究動向の概説をテキストに基づいて行う。最近の経済史の概説では、英米の研究紹介が中心になることが多いが、大陸ヨーロッパの研究動向にも触れてみたい。		
授業の到達目標	教員の講義を通じて、近年の西洋経済史の研究動向を理解できるようにすることである。		
授業内容・授業計画	この授業では、最近刊行された玉木俊明氏の『拡大するヨーロッパ世界』（知泉書館）を基に講義を行う。この著書では、西洋経済史の研究動向をフォローし、斬新な視角を提示しており、その研究内容は世界的な水準に達している。この著作の内容を解説する形で、授業を進めて行きたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_経済が成長するための制度 第３回_イスラームの台頭 第４回_北海・バルト海・地中海経済圏の統合 第５回_大西洋経済の形成 第６回_プロト工業化とは何だったのか？ 第７回_近代世界システムの成立 第８回_数量化・可視化傾向がもたらした変化 第９回_ヨーロッパとアジアの貿易 第10回_ディアスポラの経済史 第11回_ユーラシアにおける商人の商業ネットワーク 第12回_世界を変えたイギリス帝国と情報 第13回_綿花から見た産業革命 第14回_科学技術が経済に及ぼす影響		
事前・事後学習の内容	授業の前に、テキストで指定する章を予め読んできてください。		
評価方法	授業への出席と質疑応答等の積極性、レポート等を加味して評価を行う。		
受講生へのコメント	経済史に関心を持つ院生の方々を歓迎します。		
教材	玉木俊明『拡大するヨーロッパ世界1415-1914』知泉書館、2018年；塩谷昌史『ロシア綿業発展の契機』知泉書館、2014年。		

授業コード	ED21221010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	西洋経済史研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Economic History of Europe		
科目ナンバー	EDHIJ1714		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷 昌史		
科目の主題	近年、西洋経済史研究で重要な概念や方法を提示した文献を授業の中で輪読し、教員がその内容を解説すると同時に、演習の参加者にその概念や方法を個々人の研究の中でどのように応用していけるのかについて、議論することを中心にする。		
授業の到達目標	近年の西洋経済史研究の中で重要と思われる概念と方法を理解し、その応用を考えられるようになることを到達目標としたい。		
授業内容・授業計画	教員の方で重要と思われる、西洋経済史研究の文献リストを予め準備するが、演習の参加者の興味・関心によっては、文献リストの変更も考えている。西洋経済史の主要な概念の理解を目的としているが、他方で院生の研究に資するような文献も取り上げたいと考えている。オリエンテーションで、教員の方向性と院生の方々との関心との調整を行いたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_大塚久雄『近代欧州経済史序説』 第３回_ウォーラーステイン『近代世界システム』 第４回_オブライエン『帝国主義と工業化』 第５回_カーティン『異文化間交易の世界史』 第６回_Caracausi; Jeggle (ed) Commercial Networks and European Cities 第７回_各自の研究テーマに関連する研究の紹介① 第８回_ノース『制度・制度変化・経済成果』 第９回_Van Zanden, The Long Road to the Industrial Revolution 第10回_Riello, Cottton: The Fabric that made the Modern World 第11回_Mokyr, A Culture of Growth: The Origins of the Modern Economy 第12回_フランク『リオリエント』 第13回_ポメランツ『大分岐』 第14回_各自の研究テーマに関連する研究の紹介②		
事前・事後学習の内容	授業の前の週に輪読するテキストを指定するので、事前にテキストを読んできてください。		
評価方法	授業中の質疑応答や、各院生の研究の中間報告の内容等を総合して評価したい。		
受講生へのコメント	教員への要望は、できる限り取り入れて行きたいと考えているので、遠慮なく相談してください。		
教材	テキストや参考書は、その都度、授業の中で指示します。		

授業コード	ED20351010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	流通経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Distribution Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1715		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済論に関連した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文の講読を行なった上で、実践的に検証する。		
授業の到達目標	流通経済論関連の論文を読む基礎力を身につけた上で、自分自身の問題意識に基づいた論文作成ができるようになること		
授業内容・授業計画	指導教員が司会となり、取上げた論文について演習参加者全員でディスカッションを行なう 第１回_演習の進め方 第２回_垂直構造 第３回_水平的差別化 第４回_垂直的差別化 第５回_外部性 第６回_エージェンシー 第７回_複数のエージェント 第８回_コモンエージェンシー 第９回_デリゲーション 第10回_アドバースセレクション 第11回_メカニズムデザイン 第12回_小売市場における計量分析 第13回_流通チャネルにおける計量分析 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を読んできて下さい。事後には、授業ノートをもとに理解を深めて下さい。		
評価方法	期末レポートに基づく		
受講生へのコメント	大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とします。		
教材	テキストは特になし。参考書は適宜指示します。		

授業コード	ED20361010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	流通経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Distribution Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1716		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済論に関係した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文をもとに議論を行なう。		
授業の到達目標	流通経済論関連の論文を読む基礎力を身につけた上で、自分自身の問題意識に基づいた論文作成ができるようになること。		
授業内容・授業計画	取上げた論文の解説を行なう 第１回_講義の進め方 第２回_垂直構造 第３回_水平的差別化 第４回_垂直的差別化 第５回_外部性 第６回_エージェンシー 第７回_複数のエージェント 第８回_コモンエージェンシー 第９回_デリゲーション 第10回_アドバースセレクション 第11回_メカニズムデザイン 第12回_小売市場における計量分析 第13回_流通チャネルにおける計量分析 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を読んできて下さい。事後には、授業ノートをもとに理解を深めて下さい。		
評価方法	期末レポートに基づく		
受講生へのコメント	大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とします。		
教材	テキストは特になし、参考書は適宜指示します。		

授業コード	ED20811010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	地方財政論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Local Public Finance		
科目ナンバー	EDAPJ1727		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	地方財政に関する諸問題の考察に用いられる、理論モデルや実証方法について、受講者の発表やその後の議論のなかで理解していく。		
授業の到達目標	地方財政論の文献について、特に、理論モデルの展開、実証結果が理解でき、かつ、自分自身の研究に応用できる高度な力をつけること。		
授業内容・授業計画	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition),MIT Pressの中の地方財政に強く関連する3つの章（Ch.7 Club Goods and Local Public Goods、 Ch.19 Fiscal Federalism、Ch.20 Fiscal Competition）を輪読する予定である。 （受講者の希望によって文献は適宜な対応をとる。）		
授業内容・授業計画②	第１回_イントロダクション 第２回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Introduction / Definitions- 第３回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Single-Product Clubs- 第４回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -The Tiebout Hypothsis- 第５回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Empirical Tests- 第６回_Ch.19 Fiscal Federalism -Introduction / Arguments for Multi-level Government- 第７回_Ch.19 Fiscal Federalism -Optimal Structure: Efficiency vs Stability- 第８回_Ch.19 Fiscal Federalism -Acountability / Risk-Sharing / Hard and Soft Budgets- 第９回_Ch.19 Fiscal Federalism -Evidence on decentralization- 第10回_Ch.20 Fiscal Competition -Introduction- 第11回_Ch.20 Fiscal Competition -Tax Competition- 第12回_Ch.20 Fiscal Competition -Income Distribution- 第13回_Ch.20 Fiscal Competition -Intergovernmental Transfers- 第14回_Ch.20 Fiscal Competition -Evidence-		
事前・事後学習の内容	当然ながら、発表担当者だけでなく、それ以外の受講生も事前に予習すること。 また、理解できなかった部分は、事後的に講師に必ず相談、確認すること。		
評価方法	報告内容、議論への参加態度、レポートによって評価する。		
受講生へのコメント	修士の院生をリードするような発表、質疑応答を期待する。		
教材	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition),MIT Press		

授業コード	ED20821010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	地方財政論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Local Public Finance		
科目ナンバー	EDAPJ1728		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	地方財政に関する問題意識から、関連する先行研究を網羅的にサーベイする。 さらに、リサーチクエスチョンに対して経済理論モデルに基づいた仮説を構築し、数式モデルの展開またはデータを用いた実証によってその仮説の検証を試みる。		
授業の到達目標	地方財政論に関する問題意識・課題の鮮明化、先行研究のサーベイが高度におこなえること、また、理論モデルの展開や実証分析によって、オリジナルかつ高度な知見を習得し、解説できることを目標とする。		
授業内容・授業計画	調査研究の手順を一通り解説する。その後、各自の関心にもとづき、調査研究を進め、中間および 最終発表をしてもらい、それをレポートにまとめ提出してもらう。 第１回　演習の進め方 第２回　サーベイ方法 第３回　問題意識、課題の鮮明化と仮説構築 第４回　仮説の検証戦略 第５回　実践　問題意識の鮮明化 第６回　実践　課題の鮮明化 第７回　実践　仮説構築 第８回　実践　仮説の検証戦略 第９回　中間発表 第10回　実践　調査分析（前）　-データ収集・データマイニング- 第11回　実践　調査分析（中）　-予備的分析- 第12回　実践　調査分析（後）　-回帰分析- 第13回　最終発表１　-グループ1の発表- 第14回　最終発表２　-グループ2の発表-		
事前・事後学習の内容	日ごろから社会経済のニュースに関心をもち、調査研究の対象とするテーマ、問題意識を決めること。 理論モデルは数式による表記を試みること。 統計分析については、テキスト等を参考にしながら、十分理解することを心がけること。		
評価方法	発表の内容や質疑への参加状況、調査研究の内容		
受講生へのコメント	博士論文に使える調査研究になればよいと思います。		
教材	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition) Wooldridge, J.(2008) Introductory Econometrics:A Modern Approach (fourth editon)		

授業コード	ED20890010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	空間経済学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Spatial Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1735		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	空間経済学は企業や家計（労働者）といった経済主体の立地を分析対象とする学問である．現実の経済においても，学問の世界においても，立地を分析することの重要性はますます高まってきている．本授業においては，都市（地域）内，都市（地域）間，国際間といった様々な空間スケールで生じる立地メカニズムを，数理的なモデルを通して学習していく．		
授業の到達目標	・空間経済学の主要なモデルを理解できるようになること． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解けるようになること．		
授業内容・授業計画	・スライドを用いた講義を行う． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解く． 第１回_Introduction 第２回_Residential Land Use Model 1 第３回_Residential Land Use Model 2 第４回_Spatial Competitoin 第５回_Monopolistic Competition and New Trade Theory 第６回_New Trade Theory 1: Home Market Effect 第７回_New Trade Theory 2: Welfare Analysis 第８回_Trade Policies and Footloose Capital Model 第９回_New Economic Geography 第10回_Core-Periphery Model 第11回_Quasi-Linear Model and Its Application 第12回_Inter-Firm Linkages and Agglomeration 第13回_Firm Hetergeneity 第14回_Summary		
事前・事後学習の内容	・事前の学習：事前に課題がある場合は必ずやってくること． ・事後の学習：講義で習ったことをよく復習しておくこと．		
評価方法	課題や討論における質および取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	・ミクロ経済学および経済数学の知識が求められる． ・英語論文を読む力が求められる．		
教材	・テキスト：特に指定しない． ・参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	ED20900010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	空間経済学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Spatial Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1736		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	空間経済学は企業や家計（労働者）といった経済主体の立地を分析対象とする学問である．現実の経済においても，学問の世界においても，立地を分析することの重要性はますます高まってきている．本授業においては，都市（地域）内，都市（地域）間，国際間といった様々な空間スケールで生じる立地メカニズムを，数理的なモデルを通して学習していく．		
授業の到達目標	・講義で学んだモデルを受講者自身で解けるようになること． ・関連する英語論文を読み，その内容を理解した上で，問題点や拡張などについて議論できるようになること．		
授業内容・授業計画	・講義で学んだモデルを受講者自身で解く． ・関連する英語論文を読み，その内容や問題点，拡張などについて議論する． 第１回_Introduction 第２回_Residential Land Use Model 1 第３回_Residential Land Use Model 2 第４回_Spatial Competitoin 第５回_Monopolistic Competition and New Trade Theory 第６回_New Trade Theory 1: Home Market Effect 第７回_New Trade Theory 2: Welfare Analysis 第８回_Trade Policies and Footloose Capital Model 第９回_New Economic Geography 第10回_Core-Periphery Model 第11回_Quasi-Linear Model and Its Application 第12回_Inter-Firm Linkages and Agglomeration 第13回_Firm Hetergeneity 第14回_Summary		
事前・事後学習の内容	・事前の学習：事前に課題がある場合は必ずやってくること． ・事後の学習：演習課題についてよく復習しておくこと．		
評価方法	課題やプレゼンテーション，討論の質・取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	・ミクロ経済学および経済数学の知識が求められる． ・英語論文を読む力が求められる．		
教材	・テキスト：特に指定しない． ・参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	ED20591010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	中国経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Chinese Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1703		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	中国経済の発展を開発経済学のフレーム・ワークで分析します。		
授業の到達目標	中国経済の発展を開発経済学の諸理論によって分析し、計量経済学的に検証出来るようになることを目標とします。		
授業内容・授業計画	中国経済について開発経済学的に分析しながら、他の東アジア諸国との比較を試みるような授業を行います。 第１回_ガイダンス 第２回_初期条件と歴史的文化的特性 第３回_成長モデルと構造変化 第４回_ルイス・モデルと中国の転換点（1）ルイスの転換点 第５回_ルイス・モデルと中国の転換点（2）生産関数分析 第６回_外向型発展モデルと中国 第７回_雁行形態論 第８回_人口転換と人口ボーナス 第９回_分配と貧困 第10回_人的資本と教育 第11回_中国の環境問題 第12回_開発独裁モデル 第13回_中国の開発経験のディスカッション　1980-90年代について 第14回_中国の開発経験のディスカッション　2000年代以降について		
事前・事後学習の内容	教科書の予習を行い参加すること。		
評価方法	レポートで評価します。		
受講生へのコメント	授業開始時に指示します。		
教材	積極的に授業に参加すること。		

授業コード	ED20601010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	中国経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Chinese Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1704		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	中国経済について書かれた英語文献を輪読します。		
授業の到達目標	中国経済について書かれた英語文献の読解に慣れることによって博士論文の作成に役立てることが目標となります。		
授業内容・授業計画	中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読が授業の内容になります。 第１回_ガイダンス 第２回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（1）GDPの計測 第３回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（2）価格指数の計測 第４回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（3）海外直接投資 第５回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（4）農業 第６回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（5）工業 第７回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（6）郷鎮企業 第８回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（7）国有企業改革 第９回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（8）地球温暖化 第10回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（9）酸性雨 第11回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（10）農業環境問題 第12回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（11）国際貿易 第13回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（12）国際金融 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	指定された英語文献、学術論文を予習すること。		
評価方法	レポートで評価します。		
受講生へのコメント	積極的な参加を期待します。		
教材	授業中に指示します。		

授業コード	ED20851010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	国際協力論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on International Cooperation		
科目ナンバー	EDGRJ1719		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里		
科目の主題	戦争やテロ、交渉や制度構築など、主に国際政治経済分野における問題に、ゲーム理論や計量分析を用いてどのような研究が行われているか、既存の研究に足りないところは何か、どうすればより高い評価を得られる研究を行うことができるかについて、他の受講生や研究者との意見を交えながら模索する。		
授業の到達目標	講義で学んだ内容を踏まえ、以下の点について考察した上で、論文を作成する。①どのようなパズルが他に考えられるか、②既存のモデルの欠点や考察されていない点はどこか、③新しいモデルをどのように構築することができるか、④これまでの検証の問題点は何か、⑤どのようにすれば既存の研究とは異なる検証を行うことができるか。		
授業内容・授業計画	第１回_Introduction 第２回_Resource Allocation 第３回_The Commitment Problem 第４回_Alliance 第５回_Audience Costs 第６回_Institutions (Reputation and Monitoring) 第７回_Institutions (Entry) 第８回_Civil War (Initiation) 第９回_Civil War (Termination) 第10回_Terrorism 第11回_Foreign Aid and Civil War 第12回_Democratic Peace 第13回_Regime Transition 第14回_Review		
事前・事後学習の内容	・すべての受講生は、その週に指定された論文を読んでくることが期待される。 ・授業の後には、授業内容を踏まえて復習をしておくこと。		
評価方法	・発表とディスカッションへの参加　40% ・論文　60%		
受講生へのコメント	・毎週、授業のテーマにそった論文（英文）を紹介する。論文については、教員のホームページで確認することができる。		
教材	・受講生は、学部レベルのゲーム理論と計量経済学の知識を有している必要がある。 ・また、専門的な論文の内容を理解できるだけの英語力が求められる。 ・なお授業には、他の教員や外部からの研究者が参加することがある。		

授業コード	ED20861010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	国際協力論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on International Cooperation		
科目ナンバー	EDGRJ1720		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里		
科目の主題	戦争やテロ、交渉や制度構築など、主に国際政治経済分野における問題に、ゲーム理論や計量分析を用いてどのような研究が行われているか、既存の研究に足りないところは何か、どうすればより高い評価を得られる研究を行うことができるかについて、他の受講生や研究者との意見を交えながら模索する。		
授業の到達目標	現代の国際社会をとりまく様々な問題について、授業で指定された論文を参考にしながら、以下の点について考察する。①何がパズルか、②既存の研究に足りないものや欠点は何か、③既存の研究に代わるものとしてどのようなアプローチをとっているか、④原因と帰結は何か、⑤原因から帰結がどのようなメカニズムで発生するのか、⑥モデルや議論から導出される仮説は何か、⑦仮説をどのように検証しているか、⑧その検証は既存の研究とどう異なるのか、⑨得られた帰結をどのように正当化しているのか、⑩政策や他の分野へのどのような提言を行っているのか。		
授業内容・授業計画	第１回_Introduction 第２回_Resource Allocation 第３回_The Commitment Problem 第４回_Alliance 第５回_Audience Costs 第６回_Institutions (Reputation and Monitoring) 第７回_Institutions (Entry) 第８回_Civil War (Initiation) 第９回_Civil War (Termination) 第10回_Terrorism 第11回_Foreign Aid and Civil War 第12回_Democratic Peace 第13回_Regime Transition 第14回_Review		
事前・事後学習の内容	・すべての受講生は、その週に指定された論文を読んでくることが期待される。 ・授業の後には、授業内容を踏まえて復習をしておくこと。		
評価方法	・発表とディスカッションへの参加　40% ・論文　60%		
受講生へのコメント	・受講生は、学部レベルのゲーム理論と計量経済学の知識を有している必要がある。 ・また、専門的な論文の内容を理解できるだけの英語力が求められる。 ・なお授業には、他の教員や外部からの研究者が参加することがある。		
教材	・毎週、授業のテーマにそった論文（英文）を紹介する。論文については、教員のホームページで確認することができる。		

授業コード	ED20870010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	世界経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on World Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1727		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉える。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスをみずからの研究に活かすことができる。		
授業内容・授業計画	まず西洋経済史を中心に経済史を概観して、資本制に関する理解を深める。ついで世界経済の段階規定を行い、さらに現代世界経済の把握へと進む。 　受講生の状況や要望に応じ、担当者による全面的な講義形式とするか、ゼミ形式で受講生に輪読で報告してもらったうえで議論するか、授業の運営形態については柔軟に考えたい。 第１回_経済学と経済政策 —この学問の成り立ち 第２回_資本制の起源 —農民層分解と三大階級、さらに現代の経営 第３回_産業革命と社会の変容 —その何次めかにある今日 第４回_最初のグローバリゼーション —工業製品輸出の世界化 第５回_中進国のキャッチアップ —手段としての関税と国民市場 第６回_19世紀後半の時代状況と明治維新 —間に合った産業化 第７回_貿易思想と産業育成政策 —WTO創設に伴うこのアプローチの射程 第８回_戦後日本の分断 —国際競争に曝されているセクターとそれ以外 第９回_ソ連型社会主義の挑戦と後退 —線型発展史観の動揺 第10回_世界システム論の貢献 —基軸経済論との対比 第11回_冷戦の終結とグローバリゼーション —勢力圏分割の終焉 第12回_雁行形態論とPLC仮説 —それらの前提の溶解 第13回_国際通貨システムの変容 —2つの本位制の解体 第14回_地域経済統合と自由貿易体制の行方 —ドイツ関税同盟からEU、その先へ		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深める。関連文献にもできるだけ眼を通すよう心がける。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	問題意識をもって参加されたい。		
教材	拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版，2017年第2刷）		

授業コード	ED20880010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	世界経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on World Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1728		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	世界経済の動態を捉え、その中での多国籍企業ならびにグローバル企業の到達段階について解明する。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスをみずからの研究に活かすことができる。		
授業内容・授業計画	多国籍企業の出現、グローバル企業の登場を焦点とする現代世界経済の把握を行う。 　授業は、随時受講生の研究発表を行うとともに、テキストとして関連するテーマの英書を選定し輪読を行う。 　留学生主体の場合には、日本語文献をもって代える場合もある。 第１回_自己紹介と全体のガイダンス 第２回_各自の修論の概要の報告 第３回_テキストの輪読① 第４回_テキストの輪読② 第５回_テキストの輪読③ 第６回_テキストの輪読④ 第７回_テキストの輪読⑤ 第８回_各自の研究テーマに関連する先行研究の紹介① 第９回_各自の研究テーマに関連する先行研究の紹介② 第10回_テキストの輪読⑥ 第11回_テキストの輪読⑦ 第12回_テキストの輪読⑧ 第13回_テキストの輪読⑨ 第14回_総括の報告		
事前・事後学習の内容	各自が博論執筆に勤しむことはもとよりであるが、本演習を通じて極力視野を広げることを心がけられたい。		
評価方法	演習の平常点を5割、論文の執筆状況を5割として評価する。		
受講生へのコメント	問題意識をもって参加されたい。		
教材	開講時に指示する。		

授業コード	ED10011010	開講年度・学期	2019年度前期、2019年度後期
科目授業名	後期研究指導1		
英語科目授業名	Research Guidance for the Doctoral Course1		
科目ナンバー	EDRGJ1701		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙2参照		
科目の主題	博士論文執筆に必要な知見を習得させる。		
授業の到達目標	博士論文の部分草稿を作成する。		
授業内容・授業計画	当該分野内外の先端研究を消化し、研究手法を習熟させる。 また、論文作成に必要な研究資料の収集についても助言する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補い報告の準備をすること。 復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、指摘された研究書や、学術掲載論文を読み理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	各自の研究テーマに関して、先端研究の正確な理解の上に、各自の独自な視点を見出すこと。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

授業コード	ED10021010	開講年度・学期	2019年度前期、2019年度後期
科目授業名	後期研究指導2		
英語科目授業名	Research Guidance for the Doctoral Course2		
科目ナンバー	EDRGJ3801		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙2参照		
科目の主題	博士論文執筆に必要な指導を行う。		
授業の到達目標	レフェリー誌への投稿論文を完成させる。その上で、２本目の投稿論文を作成する。		
授業内容・授業計画	「後期研究指導1」に引き続き、当該分野内外の先端研究を消化し、研究手法を習熟させる。 また、論文作成に必要な研究資料の収集についても助言する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補い報告の準備をすること。 復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、指摘された研究書や、学術掲載論文を読み理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	「後期研究指導1」を受けていることが前提である。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

授業コード	ED10031010	開講年度・学期	2019年度前期、2019年度後期
科目授業名	後期研究指導3		
英語科目授業名	Research Guidance for the Doctoral Course3		
科目ナンバー	EDRGJ5901		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙2参照		
科目の主題	博士論文作成の指導を行う。		
授業の到達目標	論文草稿を基に、長所短所を指摘し、充実した博士論文を完成させる。		
授業内容・授業計画	年度当初に、論文題目、章別編成を作成し、中間段階で、論文草稿、要旨を作成する。 その後、論文の審査委員会、公聴会での意見を反映させ、博士論文を完成させる。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補い報告の準備をすること。 復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、指摘された研究書や、学術掲載論文を読み理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	「後期研究指導2」を受けていることが前提である。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

別紙 2

後期研究指導 1・2・3　担当教員一覧

理論経済分野

○中嶋　哲也：近代経済理論（経済成長理論及び不況理論の研究）
○中島　義裕：複雑系経済学（理論・実証・計算機実験による市場の進化的理解）
○中村　英樹：数量経済分析論（国内不平等、機械化の影響）
○森　　誠：マクロ経済動学（分配・投資行動と資本主義経済の成長）

経済史・経済思想分野

○坂上　茂樹：産業技術論（技術史論に基づく産業技術論）
○中村　健吾：社会思想史（マックス・ヴェーバー研究、欧州統合と国民国家、シティズンシップと人権）
○若森　みどり：経済学説史（カール・ポランニー研究、現代社会経済思想、経済思想史）

応用経済分野

○浦西　秀司：産業経済論（公益事業の規制政策に関する計量分析）
○滋野由紀子：日本経済論（日本経済と家計行動の相互関連）
○辻　　賢二：金融経済論（金融契約に関する理論モデル分析）
○福原　宏幸：労働経済論（失業・非正規雇用、貧困および社会的排除についての研究）
○松本　　淳：財政政策論（公的年金制度改革、年金課税、日本の社会保障制度と租税制度の関係について）

グローバル経済分野

○C. ウェザーズ：比較労使関係論（日本と欧米の雇用制度と政治経済の比較研究）
○有賀　敏之：世界経済論（多国籍企業・グローバル企業、国際貿易体制に関する研究）
○金子　勝規：東南アジア経済論（タイ地域研究、ASEAN 経済論、社会開発および社会福祉に関する実証分析）
○久保　彰宏：国際経済論（国際マクロ経済分析）
○朴　　一：東アジア経済論（朝鮮半島地域研究、日韓・日朝関係論、国際労働移動及び移民労働者に関する実証研究）
○森脇　祥太：経済開発論・中国経済論（アジア諸国を対象とした経済発展の比較研究）

＊　注意事項

＊　杉本キャンパスマップ

＊　教員名簿

注 意 事 項

・定期試験受験上の注意

1　試験会場においては、黒板に提示してある着席表のとおり着席すること。

2　各自の机上に学生証を提示しておくこと。万一学生証を忘れたときは必ず学生サポートセンター経済学研究科教務担当に申し出て指示を受けること。

3　解答しないで退場する場合は、試験開始後 30 分を経過し、かつ、問題用紙および答案用紙を監督者に返還した後でなければ退場することができない。

4　遅刻した者は試験開始 20 分経過後は入場することができない。

5　不正行為を行なった者に対してはその期の成績はすべて無効とする。

・交通機関の運休、気象条件の悪化による授業の休講および定期試験の延期措置について

1　交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関の①または②のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）を行った場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、運休の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

① JR阪和線全線

② Osaka Metro御堂筋線全線およびJR大阪環状線全線が同時

2　気象条件の悪化による授業の休講について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報（すべて対象とする）のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

（別表）

運行再開・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午 前 7 時 以 前		全時限
午 前 10 時 以 前	1・2 時限	3・4・5 時限
午前10 時を過ぎても運行再開・警報解除されない場合	全時限	

※交通機関の運休とは、事故、気象現象、地震、交通ストライキ、その他の理由により交通機関が運行休止になり、通学が困難な場合をいう。

※授業中または試験中に、暴風警報又は特別警報が発令された場合は、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から授業は休講とする。

※別段の決定をするときは、学生サポートセンター1階にある経済学部掲示板に掲示をする。

・感染症等罹患時の措置について

本学では、学校保健安全法の定めにより、「学校において予防すべき感染症」に罹患、または罹患した疑いがある場合、大学内での感染拡大を予防するため、出席停止の措置をとることになっている。詳細については全学ポータルサイト（https://www.portal.osaka-cu.ac.jp/ja/）を確認し、所定の手続きを行う必要がある。

杉本キャンパス

〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138

JR杉本町駅より

1号館（本部）
学術情報総合センター
各学部
2号館
全学共通教育棟へ

理学部
生活科学部
工学部へ

1 1号館
- URAセンター
- 事務室
  （人事課、財務課、管理課
  社会連携課、研究支援課）

2 商学部棟
3 経済学部棟
4 法学部棟
5 文学部棟
6 経済研究所棟
- 都市経営研究科
- 創造都市研究科
- 人権問題研究センター
- 証券研究センター

7 都市研究プラザ
8 田中記念館
- 事務室
  （大学サポーター交流室）

9 保健管理センター
10 河海工学実験場
11 学術情報総合センター
- 大学史資料室
- 事務室
  （情報推進課
  学術情報総合センター運営課）

12 理学部棟
- 数学研究所

13 工学部棟
14 生活科学部棟
15 工作技術センター

16 生活科学部棟別館
- 心理臨床室

17 2号館
- 都市健康・スポーツ研究センター
- 複合先端研究機構

18 全学共通教育棟
- 英語教育開発センター
- 大学教育研究センター
- 学修支援推進室
  （OCU ラーニングセンター）
- Global Village
- 事務室
  （共通教育支援室（学務企画課）
  国際交流室）

19 4号館
20 基礎教育実験棟
21 第1学生ホール
22 第2学生ホール
23 第3学生ホール

24 スポーツハウス
25 ゲストハウス
26 インキュベータ
27 高原記念館
- 地域連携センター

28 学生サポートセンター
- 事務室
  （内部監査室、大学戦略課
  就職支援室、安全衛生管理室
  学務企画課、学生支援課
  入試室、広報室、大学計理課）

29 共通研究棟
30 人工光合成研究センター
31 理系共通実験棟
32 本部棟
- 事務室
  （総務課）

33 戦没学友の碑
34 五代友厚像

杉本キャンパス　教室一覧

建物	階層	教室番号
3　経済学部棟	１階	ＣＡ
	２階	企画別共同研究室Ａ～Ｄ、院生用教室
1　１号館	２階	１２Ａ、１２Ｂ、１２Ｅ、１２Ｆ １２０～１２８
	３階	１３Ａ～１３Ｇ １３０～１３７
19　４号館	１階	４１０
6　経済研究所棟	２階	５２Ｅ１ ５２１～５２４
	３階	５３Ｅ１・５３Ｅ２
4　法学部棟	３階	７３０
	４階	７４０
	11 階	７１１-Ａ～７１１－Ｃ
18　全学共通教育棟	１階	８１Ａ、８１Ｂ ８１０～８１６ 自習室
	２階	８２０～８２２
	３階	８３Ａ～８３Ｌ ８３０～８３５
	４階	８４Ａ ８４０～８４９ 外国語特別演習室１～５
	５階	８５Ａ ８５０、８５１
20　基礎教育実験棟	１階	階段教室
	２階	物理学実験室等
	３階	生物学・化学実験室等
	４階	化学実験室等

教員名簿

経済学研究科専任教員

			研究室 TEL 06-6605-	
C．ウェザーズ	教　授	比較労使関係論研究	2274	weathers@econ.osaka-cu.ac.jp
有賀敏之	〃	世界経済論研究	2492	alga@osaka-cu.ac.jp
浦西秀司	〃	産業経済論研究	2264	uranishi@econ.osaka-cu.ac.jp
金子勝規	〃	東南アジア経済論研究	2268	kaneko@econ.osaka-cu.ac.jp
久保彰宏	〃	国際経済論研究	2291	kubo@econ.osaka-cu.ac.jp
坂上茂樹	〃	産業技術論研究	2266	sakagami@econ.osaka-cu.ac.jp
滋野由紀子	〃	日本経済論研究	2289	shigeno@econ.osaka-cu.ac.jp
髙塚　創	〃	空間経済学研究	2285	takatsuka@econ.osaka-cu.ac.jp
辻　賢二	〃	金融経済論研究	2284	tsujiken@econ.osaka-cu.ac.jp
中嶋哲也	〃	近代経済理論研究	2281	nakajima@econ.osaka-cu.ac.jp
中島義裕	〃	複雑系経済学研究	2273	yoshi@econ.osaka-cu.ac.jp
中村健吾	〃	社会思想史研究	2279	nakamura@econ.osaka-cu.ac.jp
中村英樹	〃	数量経済分析論研究	2271	hnakamur@econ.osaka-cu.ac.jp
朴　一	〃	東アジア経済論研究	2262	paku@econ.osaka-cu.ac.jp
福原宏幸	〃	労働経済論研究	2293	fukuhara@econ.osaka-cu.ac.jp
松本　淳	〃	財政政策論研究	2282	matumoto@econ.osaka-cu.ac.jp
森　誠	〃	マクロ経済動学研究	2263	mori@econ.osaka-cu.ac.jp
森脇祥太	〃	経済開発論研究	2269	moriwaki@econ.osaka-cu.ac.jp
若森みどり	〃	経済学説史研究	2260	wakamori@econ.osaka-cu.ac.jp
岩波由香里	准教授	国際協力論研究	2292	iwanami@econ.osaka-cu.ac.jp
岡澤亮介	〃	マクロ経済学研究	2286	okazawa@econ.osaka-cu.ac.jp
小川　亮	〃	地方財政論研究	2265	r.ogawa@econ.osaka-cu.ac.jp
北原　稔	〃	ミクロ経済学研究	2276	kitahara@econ.osaka-cu.ac.jp
齋藤幸平	〃	現代資本主義論研究	2275	saito@econ.osaka-cu.ac.jp
塩谷昌史	〃	西洋経済史研究	2270	shiotani@econ.osaka-cu.ac.jp
柴田　淳	〃	流通経済論研究	2277	shibata@econ.osaka-cu.ac.jp
杉田菜穂	〃	社会政策論研究	2296	sugita@econ.osaka-cu.ac.jp
中川　満	〃	統計理論研究	2261	nakagawa@econ.osaka-cu.ac.jp
彭　浩	〃	日本経済史研究	2295	Penghao@econ.osaka-cu.ac.jp

副学長

橋本文彦	行動情報論研究

非常勤講師

鹿野繁樹	計量分析	大阪府立大学経済学部
長谷川淳一	Issues in Economics B	慶應義塾大学経済学部
松澤俊雄	構造分析	大阪市立大学名誉教授